

飯能市郷土館館報

郷土館のプロフィール

Profile 2017

実績報告書

第15号

平成29年度



飯能市立博物館

あいさつ

常設展示改装工事のため、平成29(2017)年6月1日より休館しておりました飯能市郷土館は、平成30年4月1日、名称を「飯能市立博物館」と変更しリニューアルオープンいたしました。常設展示の改装は、平成2年4月に開館して以来、28年目にして初めてのこととなります。

飯能市郷土館館報(活動報告書)「郷土館のプロフィール」は、その年度の実績報告書として、当館の活動の総体を市民のみなさまに知っていただくことを目的として発行しています。館報は発行の前年を対象としておりますので、この第15号は、飯能市郷土館としては最後の年にあたる平成29年度の活動を報告したものととなります。つまり、飯能市立博物館が発行する「飯能市郷土館館報」ということになるのです。

さて、先ほど述べましたとおり平成29年度は、開館していたのは4月と5月のみで、残りの10ヶ月間は休館しておりました。したがって、当該年度の活動は、常設展示改装と新たに飯能市立博物館に生まれ変わることに関わる事業が中心となっています。常設展示改装に関しては、その経緯や新たな常設展示の構成、コーナーごとの展示意図を17ページにわたって掲載いたしました。

また周辺の自然のビジターセンター的機能が加わったことなどを含み、飯能市立博物館の新たな運営方針に基づき策定したミッション(使命)や、飯能市立博物館のロゴマーク制定、愛称「きつとす」の決定についてもご報告いたしました。

もちろん、10ヶ月にわたる休館期間中も引き続き行っていたサービスもありました。レファレンスの対応や出前講座などがそれです。レファレンスの件数は、休館していることが周知されていたため、件数は前年の半分に留まりましたが、出前講座はこれまでで最高の実数を実施いたしました。このことは、アウトリーチ活動が当館の利用形態として定着している証左といえます。

平成29年度は、特別展も行っておりませんし、休館中は地域学習の拠点となっている学習研修室もご利用いただけませんでした。その点からすれば市民のみなさまの利用実績は例年になく低いものとなっておりますが、これは、飯能市郷土館が飯能市立博物館として開花する直前の段階、いわばつぼみの期間と考えることができます。

今年は5月に改元を控えております。平成の終わりに誕生した飯能市立博物館は、新たな元号の時代になりましても地域博物館としての役割を軸に置きつつ、時代の要請を意識しながら活動を展開し、多くの方々に必要とされる博物館を目指してまいります。今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年3月

飯能市立博物館
館長 尾崎泰弘

目 次

あいさつ	1
目 次	2
沿 革	3

第1章 施設

建物平面図	6
面積表・施設等修繕	7
常設展示・名栗くらしの展示室	8

第2章 事業

平成29年度の事業	10
平成29年度教育行政の重点施策とその評価	11
ミッション(使命)の策定	12
ロゴマークの製作	15
博物館の愛称「きつとす」の決定	16
展示	
(収藏品展)	17
(その他の展示)	18
講座・学習会	19
交流	23
博学連携	30
資料・施設の利用	34
レファレンスの対応	38
講師派遣	39
収集	40
整理・保存	42
調査・研究	44
情報発信	46
事業支援	47
郷土館協議会	48

第3章 常設展示改装

展示改装工事の経緯	50
常設展示改装工事の行程	51
展示テーマ一覧	52
(各コーナーの展示意図・内容)	53

第4章 各種データ

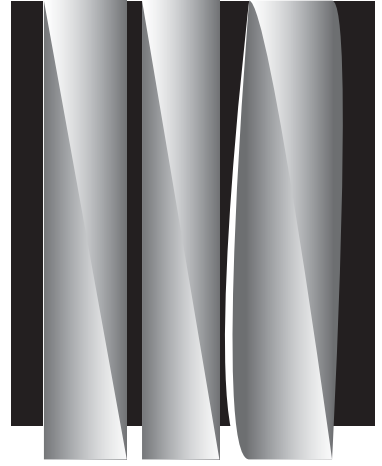
利用者数	68
歳出予算・決算	69
図書資料寄贈機関	70
飯能市郷土館条例・施行規則	72

職員	75
利用案内	76

沿 革

年月日	できごと
昭和46(1971)年3月	「飯能市郷土館建設基金の設置、管理及び処分に関する条例」が公布され、(株)丸広百貨店より寄附された1千200万円が予算化される。
昭和61(1986)年3月	(株)丸広百貨店より寄附された観光施設整備基金約2億1千万円を郷土館建設基金に繰り入れる。
昭和61(1986)年6月	飯能市文化財保護審議委員会へ、郷土館建設基本構想・基本計画策定について諮問する。
昭和62(1987)年3月	飯能市文化財保護審議委員会から郷土館建設基本構想・基本計画が答申される。
昭和62(1987)年7月	(株)平安設計による建築設計を開始する。
昭和62(1987)年10月	(株)タイムアートデザインによる展示基本設計を開始する。
昭和63(1988)年6月	市川・前久保建設共同企業体による建築工事に着工する。
平成元(1989)年4月	社会教育課内に郷土館準備係(係長1・係員1)が配置される。
平成元(1989)年6月	(株)タイムアートデザインによる展示工事に着手する。
平成元(1989)年12月	飯能市郷土館条例が制定される。
平成2(1990)年4月	飯能市郷土館友の会が結成される。
平成2(1990)年4月	飯能市郷土館が開館する。 (常勤職員は館長、学芸員1、主事補1)
平成2(1990)年4月	開館記念特別展「飯能の国指定重要文化財」・「わたしの宝物ー思い出に残る品々ー」開催。
平成2(1990)年8月	夏休み子ども歴史教室開催。(以後、毎年実施)
平成2(1990)年11月	古文書講座「むかしの飯能を知ろう」開催。この講座の受講生を中心に古文書同好会が結成され、現在も自主活動をつづける。
平成3(1991)年4月	特別展「能仁寺と黒田氏」開催。(10月にも特別展を開催し、以後平成10年秋まで春・秋の年2回特別展開催となる。
平成3(1991)年7月	郷土館友の会主催による郷土館ギャラリー「飯能の陶芸家たち」開催。
平成4(1992)年8月	埋蔵文化財出土品展「掘り起こせ! 古代からのメッセージ I」を開催。(生涯学習課と共催で平成6年までは毎年、その後は隔年で開催)
平成4(1992)年10月	特別展「絵図からの伝言」開催。この特別展より企画委員会を組織し、展示構成を検討することとなる。(平成14年秋の「うちおり」展まで)
平成5(1993)年1月	郷土館友の会主催による「まゆ玉づくり」開催、以後平成22年1月まで毎年実施。(それ以後は館主催事業)
平成5(1993)年6月	開館以来の入館者数が10万人を突破。
平成6(1994)年3月	『飯能の昭和史年表』発行。
平成6(1994)年4月	開館5周年記念特別展「幕末・明治の幻陶 飯能焼」開催。この展示で初めて特別展の図録をつくる。
平成6(1994)年10月	特別展「ジャパン・マイセンー瀬戸の磁器人形ー」開催。この展示で、1日平均入館者数最多の205.6人を記録する。(開館記念特別展を除く)
平成7(1995)年7月	常勤職員が4人(館長、学芸員2、主事補1)となる。
平成8(1996)年5月	開館以来の入館者数が20万人を突破。
平成8(1996)年8月	常設展示等企画委員会が発足し、当館の改善すべき点をまとめる。(任期は平成10年3月まで)
平成8(1996)年10月	特別展「飯能の刀匠ー小沢正壽を中心としてー」開催。会期中に展示図録が完売する。
平成9(1997)年3月	『館報』第1号発行。
平成10(1998)年9月	「中学校社会科研究展」開催。(以後毎年実施)
平成10(1998)年11月	市民との交流事業「定点撮影プロジェクト」開始。

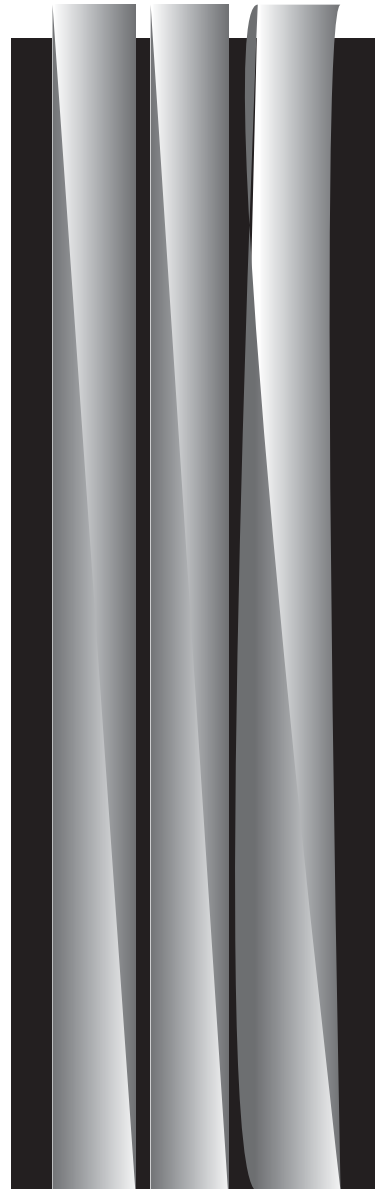
年月日	できごと
平成11(1999)年3月	収藏品展開催。(これ以降、毎年春に収藏品展、秋に特別展という枠組みになる)
平成11(1999)年12月	開館以来の入館者数が30万人を突破。
平成12(2000)年1月	第Ⅰ期市民学芸員養成講座開始。
平成12(2000)年3月	博物館法に基づく登録博物館となる。
平成13(2001)年2月	第Ⅱ期市民学芸員養成講座を実施。
平成13(2001)年3月	『研究紀要』第1号発行。
平成13(2001)年9月	これまでの「中学校社会科研究展」に小学生も対象に加え、「小・中学校社会科研究展」として開催。
平成13(2001)年10月	特別展「黎明のとき 一飯能焼・原窯からの発信一」開催。この特別展より夜間開館を実施する。
平成14(2002)年10月	当館ホームページをインターネット上で公開し始める。
平成15(2003)年3月	『収蔵資料目録1 写真資料目録その1』発行。
平成15(2003)年7月	市制施行50周年記念特別事業として特別展「写真でたどる飯能市の50年」開催。
平成15(2003)年8月	開館以来の入館者数が40万人を突破。
平成16(2004)年2月	第Ⅲ期市民学芸員養成講座実施。
平成16(2004)年10月	入間川4市1村合同企画展「筏師が見た入間川 一その流域の今昔一」開催。
平成17(2005)年1月	名栗村との合併にともない、名栗村史編さん事業を当館が引き継ぐ。
平成19(2007)年3月	当館所蔵の「飯能の西川材関係用具」が埼玉県有形民俗文化財に指定される。
平成19(2007)年4月	開館以来の入館者数が50万人を突破する。
平成19(2007)年4月	第Ⅳ期市民学芸員養成講座実施。
平成19(2007)年6月	市民のコレクションを展示する第1回「マイ・コレ。」(マイ・コレクション展)を開催する。(以後、平成23年まで7回実施)
平成22(2010)年3月	『名栗の歴史(下)』を刊行し、名栗村史編さん事業が終了する。
平成22(2010)年5月	第Ⅴ期・Ⅵ期市民学芸員養成講座実施。
平成22(2010)年10月	飯能市埋蔵文化財保護行政30周年記念特別展「大地に刻まれた飯能の歴史 一30年の発掘調査成果から一」開催。
平成22(2010)年11月	開館以来の入館者数が60万人を突破する。
平成23(2011)年4月	飯能市名栗民俗資料室資料保存活用検討委員会を設置し、旧名栗村で収集した民俗資料の保存・活用について検討を始める。(平成25年3月まで)
平成23(2011)年10月	特別展飯能戦争「飯能炎上 一明治維新・激動の6日間一」開催。会期中に展示図録が完売し、300部増刷する。(当館発行の刊行物増刷は初めて)
平成24(2012)年4月	当館館長に初めて学芸員有資格者が就任する。
平成24(2012)年6月	史料集活用講座「地域を学ぶ・調べる・歩く」実施。(全3回)
平成25(2013)年10月	収蔵絵画のうち216点を精明小学校内絵画保管室に移す。(計342点を同室で保管)
平成26(2014)年5月	開館以来の入館者数が70万人を突破する。
平成26(2014)年5月	第Ⅶ期・Ⅷ期市民学芸員養成講座実施。
平成26(2014)年6月	名栗くらしの展示室を開設する。
平成27(2015)年5月	収藏品展「おふだ大集合！」と歴史講座をセットで開催する。
平成28(2016)年8月	「飯能市郷土館常設展示改装に関する計画」策定、郷土館協議会で承認される。
平成28(2016)年9月	(株)ムラヤマによる常設展示改装展示設計業務を開始する。(平成29年2月完成)
平成29(2017)年6月	展示改装工事のため休館し(6月1日から平成30年3月31日まで)、(株)ムラヤマによる常設展示改装工事を開始する。(平成29年12月完成)
平成30(2018)年4月	「飯能市立博物館」と名称を変更し、リニューアルオープンする。



第 1 章

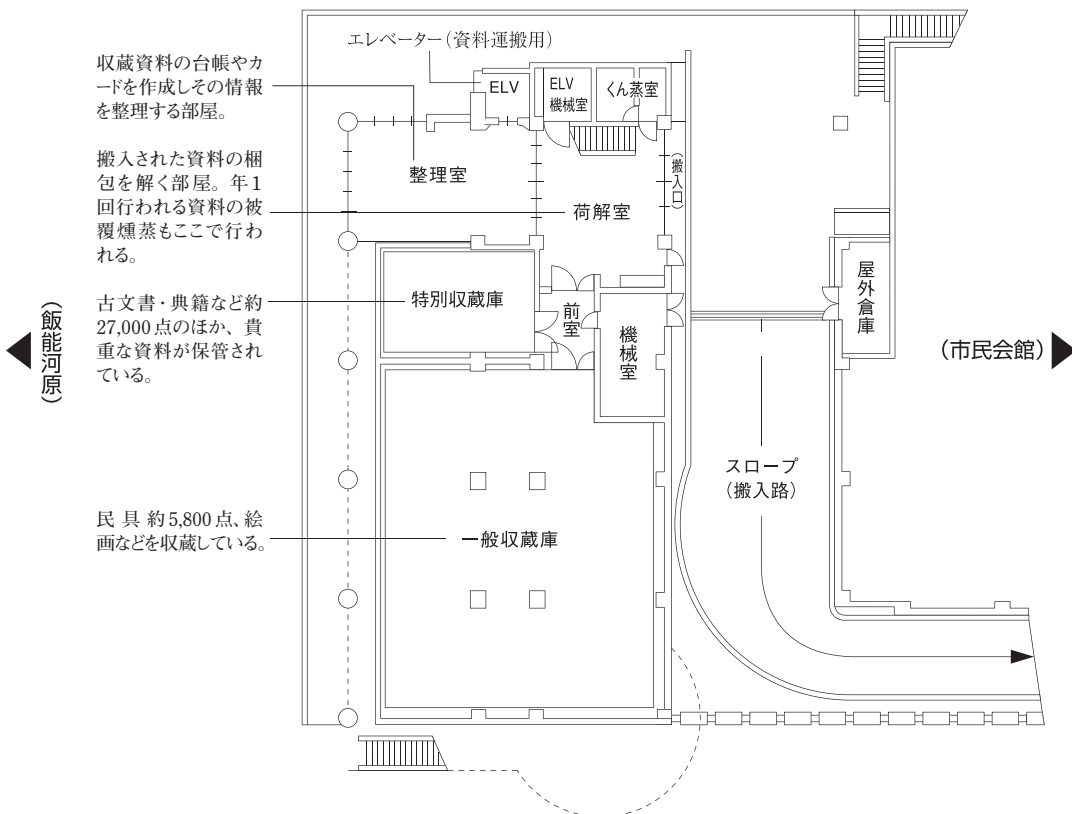
..... Chapter 1

【 施 設 】



建物平面図

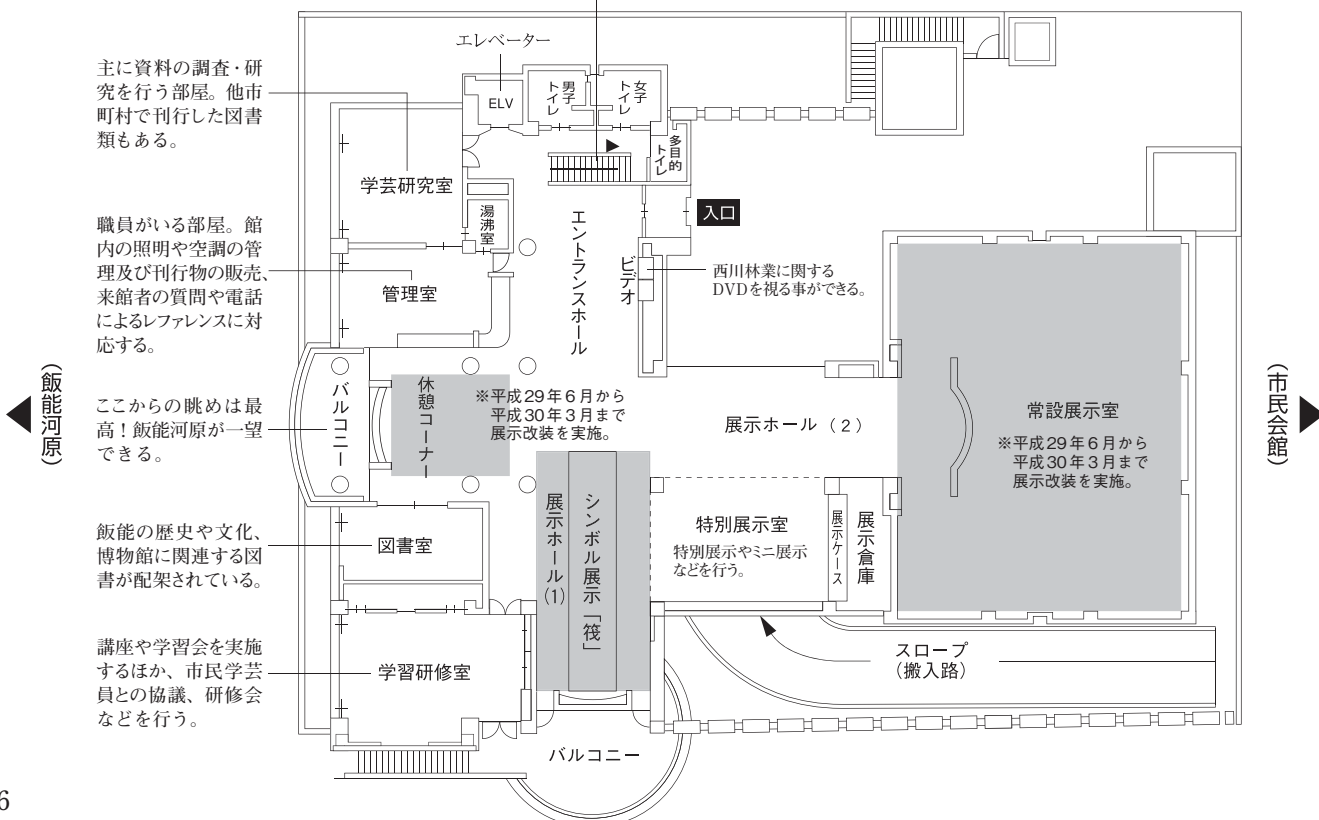
< 1 階 >



※(R階)

階段をあがると展望台があり、龍崖山、前ヶ貫丘陵など遠くまで見渡すことができる。

< 2 階 >



面積表

〈各階床面積一覧表〉

(単位：㎡)

室名	面積	室名	面積
1 階	497.458	休憩コーナー	41.520
一般収蔵庫	256.094	学習研修室	62.779
機械室	24.375	倉庫	10.464
前室	11.295	図書室	28.101
特別収蔵庫	47.205	管理室	38.558
荷解室	55.875	風除室	7.360
整理室	58.353	湯沸室	7.848
燻蒸室	11.424	学芸研究室	44.050
エレベーター機械室	9.405	多目的トイレ	5.266
エレベーター	7.442	女子トイレ	10.468
屋外倉庫	15.990	男子トイレ	10.361
		エレベーター	7.500
2 階	959.774	R階	40.040
常設展示室	273.965	階段	15.846
特別展示室	59.850	階段ホール	15.944
展示倉庫	20.675	エレベーター	8.250
展示ホール (1)	139.750		
展示ホール (2)	88.128		
エントランスホール	103.131		
		合 計	1,497.272

〈用途別面積一覧表〉

用途	内 訳	面積 (㎡)	割合 (%)
教育普及	展示 (常設展示室・特別展示室・展示ホール)	561.693	37.5
	その他 (学習研修室)	62.779	4.2
収集・保存	(一般収蔵庫・特別収蔵庫・前室・燻蒸室)	326.018	21.8
調査・研究	(学芸研究室・図書室・整理室)	130.504	8.7
管 理	(管理室)	38.558	2.6
そ の 他		377.720	25.2

敷地面積 3,626.12㎡ 建築面積 1,165.999㎡

施設等修繕

- ・常設展示室非常照明交換 (9月)
- ・来館者用コインロッカー修理 (2月)
- ・名栗民俗資料保管庫外壁塗装修繕 (10月～1月)
- ・展示ホール・エントランスホール照明器具修繕 (3月)
- ・北側外壁既設館名文字等変更 (1月～3月)
- ・常設展示室コンセント増設 (3月)
- ・誘導看板等既設看板変更 (1月～3月)
- ・図書室用椅子の座面・背もたれ交換 (3月)

常設展示・名栗くらしの展示室

● 常設展示室

常設展示室は、当年度改装工事を行い歴史展示室となった。このほか、シンボル展示「筏」が「身近な自然」コーナーに、休憩コーナーが「飯能と西川材」コーナーに変わった。したがって新たな常設展示は、この3つから構成されることになる。

改装工事の工期は平成29年6月21日から平成29年12月28日までで、施工は株式会社ムラヤマである。

展示工事終了後、パッシブインジケターを使って展示ケース内及び歴史展示室内を対象とした低濃度の酸、アルカリ性ガスの検知検査を行い、その後資料の展示を行った。展示改装工事の詳しい経緯は第3章をご覧ください。



旧常設展示室 解体工事終了直後の状況



解体工事中の旧常設展示室

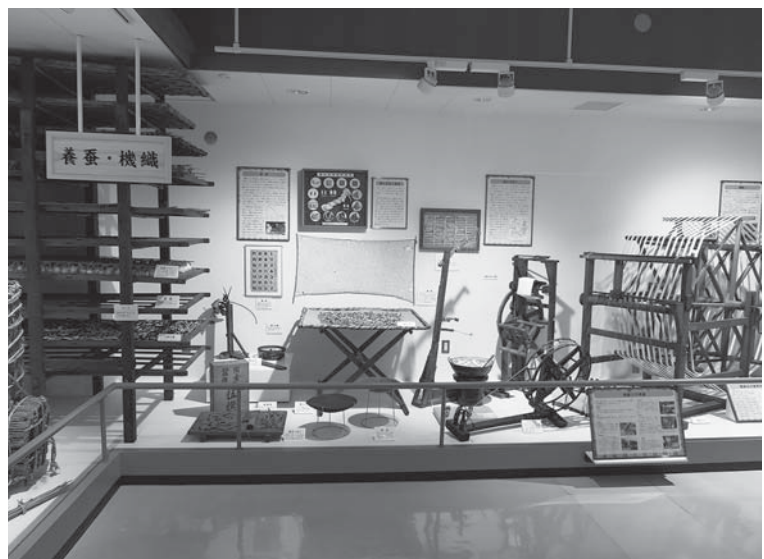


工事中の歴史展示室(旧常設展示室)

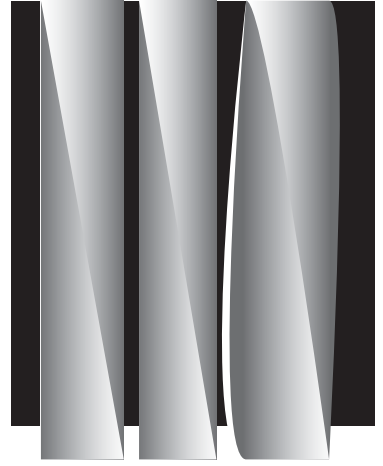
● 名栗くらしの展示室

名栗くらしの展示室は、飯能市と名栗村の合併10周年記念事業として設置され、名栗村時代より収集されてきた民具の活用と、平成21年度に完結した名栗村史編さん事業の成果を展示することを目的としている。

平成29年度は、9月24日と11月12日に名栗地区で行われた「なぐり見聞食ぶらさんぽ」当日に、職員が常駐して事業参加者への案内を行った。



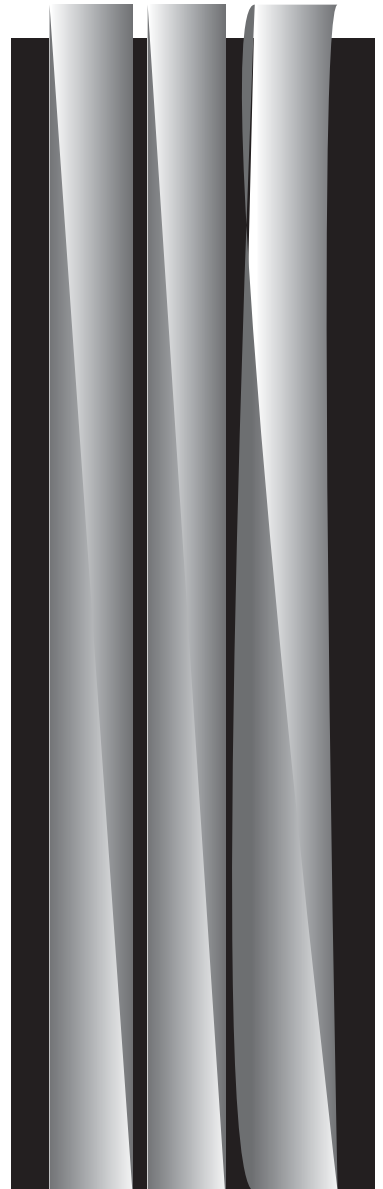
名栗くらしの展示室「養蚕・機織」のコーナー



第 2 章

…… Chapter 2 ……

【 事 業 】

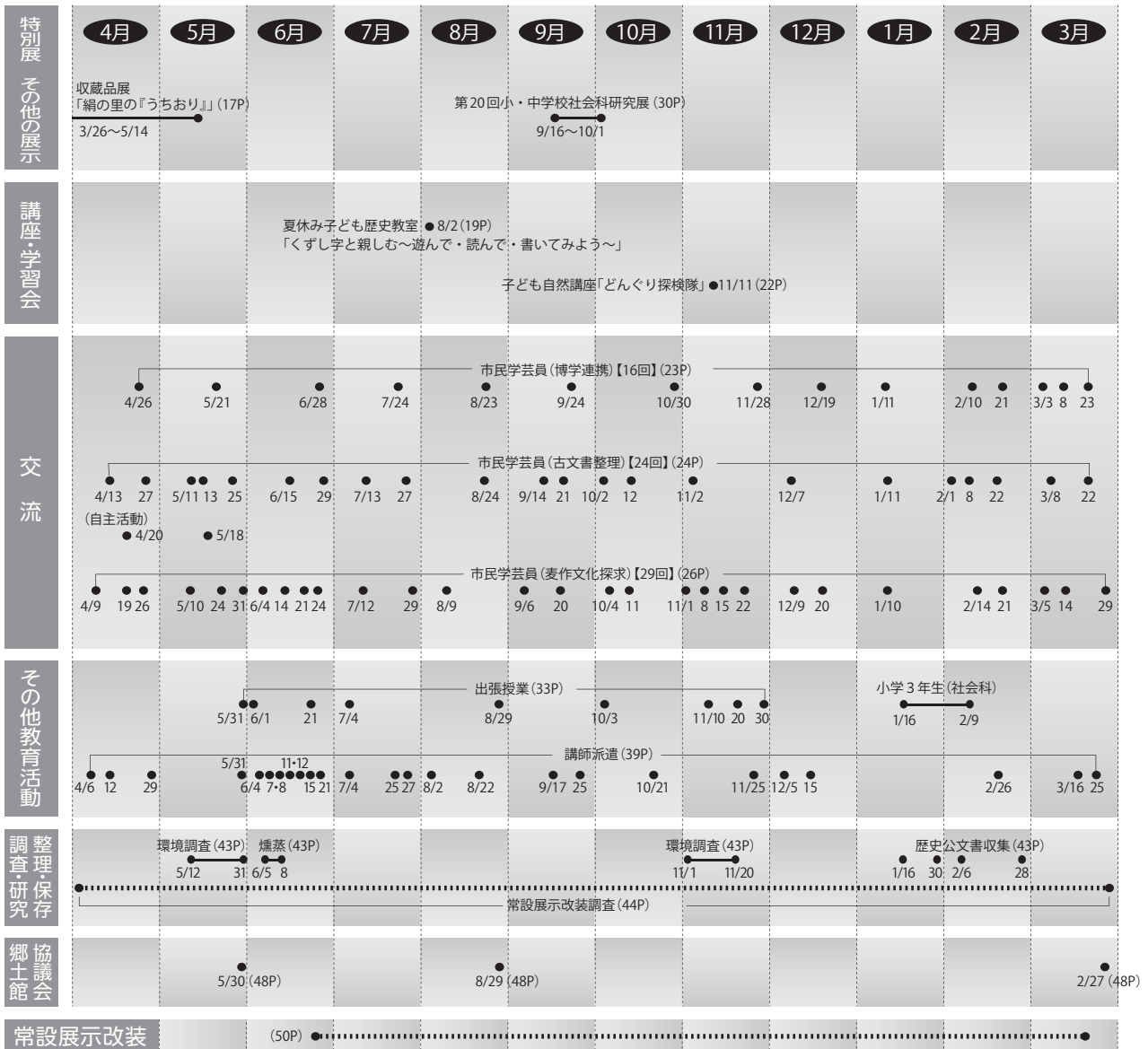


平成29年度の事業

平成29(2017)年度は、常設展示改装工事のため6月1日から休館することとなった。当初11月中旬にリニューアルオープンを予定していたが、その後埼玉県ふるさと創造資金の交付が決定したため(交付決定の本市収受は6月2日)、平成29年度末まで休館とし、平成30年4月1日に変更となった。したがって、当年度の開館期間は4月、5月の2ヶ月間のみである。

休館期間中は、展示室、図書室、学習研修室の利用ができなかったものの、エントランスホールまでは入ることができるようにし、レファレンスの対応、出前講座の受付、刊行物の頒布などの窓口業務、電話対応は通常通り行った。また市民学芸員の活動は、市民会館や中央地区行政センターなど近隣の公共施設を会場に実施した。さらに例年1月から2月にかけて受け入れていた小学3年生社会科学習のための見学は、プログラムを縮小して市民学芸員とともに各小学校へ出張授業を行う形にした。

なお休館期間中は、改装工事のため月曜日から金曜日までを勤務日とし、土・日曜日を休日とした。また、ホームページやフェイスブック、広報はんのうなどを利用し、常設展示改装工事の進捗状況やリニューアルオープン後のすがたなどを周知することに努めた。



平成29年度 教育行政の重点施策とその評価

No.	重点施策名	目 標	目指す達成点・到達点 (何をどのようによりよくなるか)	達成指標と目標値 (達成状況を示す指標)	達成報告 (結果とその成果)	達成率	評価	今後の課題と指示事項
1	教育振興 基本計画 に基づく 施策の体 系	地域の魅力や特性を究明することを目的とし、収蔵資料から地域の情報を引き出し、それを多くの人が利用できるようにするため、収蔵資料の整理を推進する。	古文書、民具、古写真の整理をすすめ、資料カード作成と台帳登録を行う。特に今年度4月6日～11月が改装による臨時休館となるため、この期間を活用して収蔵庫の棚ごとの資料確認と清掃を行い、収蔵環境の向上に努める。	収蔵資料の整理をすすめ、民具50点以上、古文書20点以上、古写真50点以上のカードを作成し台帳に登録する。 また一般収蔵庫内の資料が決められた棚に収められているかを確認し、棚を清掃することによって、害虫の餌や糞分となるような埃や汚れを取り除き、収蔵環境を向上させる。	南村岡部家文書、北川村浅海公介家文書など8つの史料群1,522点の整理を終了し、目標としていた1,500点を上回った。 古写真は8月上旬までに100点のカードを、また民具は41点のカードを作成した。民具、古写真ともに目標値には達しなかった。 また一般収蔵庫の棚の整理であるが、L及びUMI-1の棚まで終了し、上半期に合わせて1,335点の再整理を行った。	90%	B	資料の整理は、本市の魅力となる情報を作り出す作業にあたり、都市回廊空間の一翼を担う博物館としての根本的な活動となる。引き続き計画的に進める必要がある。
	事業名 収蔵資料の整理							
2	教育振興 基本計画 に基づく 施策の体 系	他の教育機関等と連携した博物館活動の推進をすすめるために、図書館、市民会館と連携した事業を実施する。	6月～11月の臨時休館中に郷土館の存在をアピールすることも兼ねて、周辺の施設と事業を実施する。毎年実施している市民会館と連携した事業を実施する。市民会館と連携した事業を実施する。また、小・中学校社会科研究展を図書館、市民会館と共催で実施する。夏休み子ども歴史教室と相手館との調整をすすめる、広報等にも留意する。	図書館と共催の夏休み子ども歴史教室、市民会館と共催の小・中学校社会科研究展を開催する。 夏休み子ども歴史教室は、参加者のアンケートによる満足度が75%以上とする。また社会科研究展については、学校教育課、社会科主任の会と協議をしながら、教育長賞や館長賞などの受賞者の発表会を開催する。	常設展示工事は、工期を1ヶ月延長し平成29年12月28日に終了した。その後、歴史展示室における有線放送、アンモニアの検知調査を行い、資料に影響のない濃度であることを確認して、2月中旬から資料の展示を開始し、3月25日に展示作業を終了、4月1日にリニューアルオープン記念式典を実施した。 また、改装後の展示については3月1日の広報はんのうの1面など合わせて3ページにわたって掲載することも、内閣会にマスコミを招待してプレセンを行い、3月30日に文化新聞に掲載され、4月1日にはNHKで放映され、4月2日には埼玉新聞、毎日新聞の記事が出た。	100%	A	近年の夏休み子ども歴史教室は、定員に達しないことが多いので、より魅力的なプログラムを企画するとともに、広報の方法を見直す必要がある。
	事業名 図書館、市民会館と連携した事業の実施							
3	教育振興 基本計画 に基づく 施策の体 系	来訪者に天覧山・飯能河原周辺の自然を含めた魅力を伝えるとともに、街や山間地域の魅力を発信することを目的とし、常設展示を呼びかけた内容に改装する。	設計をもとに施工業者を決めて改装工事に着手する。 ・当初計画したとおり工事が行われているか、要所要所でチェックする。 ・工事の進捗状況や改装後の展示の様子などを積極的に広報し、市民に期待感を持たせながら進める。	常設展示改装工事を完了し、リニューアルオープンする。	常設展示工事は、工期を1ヶ月延長し平成29年12月28日に終了した。その後、歴史展示室における有線放送、アンモニアの検知調査を行い、資料に影響のない濃度であることを確認して、2月中旬から資料の展示を開始し、3月25日に展示作業を終了、4月1日にリニューアルオープン記念式典を実施した。 また、改装後の展示については3月1日の広報はんのうの1面など合わせて3ページにわたって掲載することも、内閣会にマスコミを招待してプレセンを行い、3月30日に文化新聞に掲載され、4月1日にはNHKで放映され、4月2日には埼玉新聞、毎日新聞の記事が出た。	100%	A	展示は1回見ればよいと考へる人が多いので、現地へ誘う機能を持たすことで、新たな常設展示を継続的に活用していく必要がある。
	事業名 常設展示の改装							
4	教育振興 基本計画 に基づく 施策の体 系	常設展示改装にあわせ、地域の魅力や見どころを紹介したリーフレットを作成し、展示室に備える。	入館者が展示を見て、現地に行きたいと思えるようなリーフレットを作成する。 ・何を題材に選ぶのがふさわしいか十分に検討する。 ・内容を充実させる。	リニューアルオープンまでに、地域の魅力や見どころを紹介したリーフレットを5種類以上作成し、展示室に備える。	歴史展示室の展示を見学した方を現地に誘うためのリーフレットであるが、「飯能今昔」ゾーンの「旧中山村の地域遺産」を巡るマップは、市民学芸員が一部の解説を執筆するなどして、3月22日に完成した。また、「旧」ゾーンの飯能戦争のマップは、3月28日に完成した。その他リーフレットも製作に着手し、来年度には配布できる見込みである。	90%	B	歴史展示室のマップ・リーフレットについては、平成30年度に作成する予定である。
	事業名 地域の魅力や見どころを紹介したリーフレットの作成							
5	教育振興 基本計画 に基づく 施策の体 系	天覧山・飯能河原周辺の自然の魅力を紹介し、郷土館を拠点とした観覧会等を実施する。	自然分野の非常勤職員を採用し、天覧山、飯能河原周辺の自然の状況を把握してもらうとともに、その魅力を発信できるように指導する。 ・郷土館を拠点とした観覧会等を企画運営する。 ・自然の愛好家や関係する専門家の意見を聞きながらすすめる。	リニューアルオープン後に郷土館を拠点とした自然観覧会等を開催する。 ・観覧会等には以下のとおりとする。 ・観覧会等には以下のとおりとする。 ・観覧会等には以下のとおりとする。 ・観覧会等には以下のとおりとする。	子どもを対象とした自然観覧会「どんぐり探検隊」を11月11日に実施し、15名の募集のところで、5名の申し込みがあり、このうち小学2年生1名、3年生3名の合わせて4名の参加があった。リニューアルオープンが4月1日に変わったため、入館者のアンケート調査は実施しなかった。	75%	C	周辺の自然のビクターセンサー機能は、今回の改装の大きな変更点となる。市民や自然関係者の期待も大きいので、この分野の事業を関係者の協力を得ながら実施していくことと、博物館としての情報発信を着実に進めていく必要がある。
	事業名 天覧山・飯能河原周辺の自然の魅力を伝える観覧会等の開催							

新規…今年度新たに取組む施策。取組年数は、第2期教育振興基本計画の計画期間(5年間)の中で取組む年数。
継続…第2期教育振興基本計画以前から継続している施策。取組年数は、第2期教育振興基本計画期間中の(実施年数/取組む年数)。

飯能市立博物館ミッション(使命)

博物館には3つの価値があります。1つは知的な体験をするという一般的な人々にとっての「個人的な価値」、2つめが資料を集積し調査研究の成果を発信していることによる専門家にとっての「学術的価値」、3つめは、博物館の活動がその時の社会、経済、教育、文化などに影響を与えることによって生じる「社会的価値」です。飯能市立博物館は、これら3つの価値を意識しながら、以下に掲げるミッションを達成することで、市民文化の向上と社会の発展に寄与していきます。

■ 飯能の新たな魅力に出会える博物館をめざします。

古くからの歴史と多彩な自然を有する飯能には、まだ知られていない魅力(宝物)がたくさんあります。当館は資料の収集・保存及び調査・研究活動により地域の新たな魅力の発見に努め、展示や学習活動などを通してそれらをストーリーとして発信し続けることで、人々の知的好奇心に応えていきます。またその魅力を活かして個性豊かで活力のある地域づくり・人づくりに取り組んでいきます。

■ 「学び」の入口となる博物館をめざします。

当館は、着実な博物館活動を通してさまざまな「学び」への欲求に応え、支援していくとともに、学習者の交流の場となることを目指します。そのために情報の蓄積を進め、図書館などの社会教育施設や地域の団体、企業などと連携・協働していきます。

■ 常に広い視野を持って活動し、資料の価値を高めていく博物館をめざします。

当館が収蔵する資料は市民共有の財産として永く継承され、市民の学習活動に活用されますが、同時に学術研究の資料でもあります。それら資料を用いた研究者による学術研究を支援するとともに、当館学芸員の研究と交流させることで、広い視点から資料の価値を高めるとともに、地域の特色を明らかにし、市民の地域への愛着を育んでいきます。

■ 学校教育と連携し、質の高い学びを提供する博物館をめざします。

当館と学校が連携して、収蔵資料などを活用しながら、子どもたちが自ら体験・観察することができる学習プログラムを作り、質の高い学習活動を支援します。それにより自らの頭で考え、見て、確かめることの大切さを伝え、変化の激しい時代を生き抜くために必要な学びへとつなげていきます。

■ 歴史や文化を現在、そして未来へと活かしていく博物館をめざします。

歴史・文化とは、はるか昔から続く人々の営みの積み重ねであり、そこには先人たちの知恵や教訓がたくさん含まれています。当館は、地域文化発信の核として、地域の歴史・文化情報を積極的に発信するとともに、例えば災害記憶を伝承し安全なまちづくりに寄与するなど、歴史・文化を現代そして未来に活かすことに努めていきます。

■ 飯能河原・天覧山周辺地域の自然の情報発信拠点としての機能もあわせもつ博物館をめざします。

当館が所在する飯能河原・天覧山周辺地域は、豊かな自然に恵まれ、多くの方が来訪します。当館は、この地域における自然のビジターセンターとしての機能も果たし、自然環境についての情報を集め、提供していくことにより、自然と人間との共生に貢献していきます。

(2018年3月23日策定)

○ミッション解説

■飯能のあらたな魅力に出会える博物館

【ねらい】

個人的な価値とは、博物館の本質的な価値、すなわち飯能市立博物館が一般の人たちに知的な体験をしてもらう場であるということを明示した上で、博物館の現代的な役割として地域の活性化に資する視点も必要であることを示したもの。

【解説】

○「地域の新たな魅力の発見…発信し続ける」

博物館の活動を通して、飯能の歴史、文化、自然の魅力を掘り起こし、それを積極的に発信することで、「地域の情報センター」としての役割もこれまで同様果たしていくことを表している。

○「人々の知的好奇心に応え」

今まで知らなかったことに出会える喜び、好奇心に応えていくという本質的な価値を追求していくことの大切さを明示している。

○「活力ある地域づくり・人づくり」

「飯能市郷土館の新たな運営方針」(以下「新たな運営方針」と略)の設置目的に記された、運営における「地域の活性化に資する視点」を明文化したものの。具体的には、歴史や文化の魅力を発信することで、市外から人を誘い、中心市街地や山間地域の活性化に寄与することなどがある。

■「学び」の入口となる博物館

【ねらい】

「「学び」の入口」とは、博物館が一部の好事家のための機関ではなく、学びのきっかけを得るために気軽に立ち寄ってもらえる場であることを意識した言葉である。また、そのような様々な市民、団体が交流するフォーラムとして機能させることを示したものである。

【解説】

○「学びへの欲求に応え、支援」

市民の自主的な学習活動を支えるためには、地域の歴史、文化、自然に関する調査研究を着実にやっていくことが不可欠である。また当館に寄せられたレファレンスに対し、根拠を示した上で回答することは、情報発信源としての博物館の信頼性を獲得し満足度を高めることにもつながる。

○「学習者の交流の場」

市民学芸員など市民との交流活動にもこれまで通り取り組んでいくこととともに、地域課題の解決に取り組む市民団体や地域の歴史や文化、自然を学ぶ団体の活動を支援していくことを指している。

○「情報の蓄積を進め」

飯能の歴史、文化、飯能河原・天覧山周辺の自然についての情報センターとしての役割を担っていくことを意図している。

○「連携・協働」

飯能河原・天覧山周辺に位置する市立図書館、こども図書館、市民会館、中央地区行政センターと連携し、この地区の魅力を高めていくとともに、飯能商工会議所、(一社)奥むさし飯能観光協会などの団体や、西武鉄道(株)、国際興業(株)などの地域の民間企業と協働し、観光の拠点としての役割を果たしていくことを表している。

■常に広い視野を持って活動し、資料の価値を高めていく博物館

【ねらい】

収蔵資料の価値を高めていくことが博物館を充実させ、それが市民の地域への愛着の醸成につながっていくことを示した。

【解説】

○「市民共有の財産…市民の学習活動に活用」

当館の収蔵資料は、市民の財産として適正な環境のもとに管理し、確実に後世に伝えていくという資料保存機関としての役割を明記するとともに、それは第一義的には市民に利用されるためのものであることを確認したものを。

○「広い視点から資料の価値を高める」

資料は、単に本市の歴史、文化、自然の観点から評価するだけでは不十分で、資料に関わる個々の専門分野の研究者や近隣の学芸員などによって研究され、学術的に位置づけられることで、その価値が高まっていく。

○「市民の地域への愛着を育む」

様々な視点からの資料研究によって新たにわかった本市の特色を市民に伝え、そのことが地域への愛着、誇りとなるように努めて行くことを指す。飯能市郷土館条例に第1条に記されていた「市民の郷土愛と文化の向上に寄与」していく目的を、博物館となっても継承していくことを表す。

■学校教育と連携し、質の高い学びを提供する博物館

【ねらい】

社会的な価値とは、博物館があることで地域全体に与える利益、地域住民が受ける恩恵のことを指す。ここでは、学校と連携すること(博学連携)

で、市民が受ける恩恵を明確化したもの。

【解説】

○「質の高い学習活動を支援」

学校の教育課程に位置づけられた郷土学習について、地域研究のエキスパートである当館学芸員が連携して学習プログラムを作り、子どもたちが自分で体験したり、観察したりしながら展開する調べ学習を支援する。インターネット上の情報だけでなく、自らの目で見ると、確かめることの大切さを伝えることで、変化の激しい時代を生き抜くための「学び方の学習」をすることができる。豊かな歴史や自然に囲まれた本市で子育てをしたいと思ってもらえるような、質の高い学習プログラムを提供していくことを目指すもので、本市に博物館が存在することの価値を、学校教育との連携の場面で明確化したもの。

■歴史や文化を現在、未来へと生かしていく博物館【ねらい】

歴史や文化の、現代社会における意義や価値を創造していくことに貢献することを明記した項目。

【解説】

○「先人たちの知恵や教訓」「災害記憶を伝承し」

ともすれば好事家のみが利用すると思われる博物館であるが、歴史や文化は、先人たちの営みが幾重にも積み重なった情報の総体であり、そ

こには知恵も愚かさも大量に含まれている。それは特に、東日本大震災以後頻発する土砂災害、風水害などの自然災害において、過去の災害記録が活かされていなかったことが被害の拡大の一つの要因となっているとの指摘に見ることができる。災害対策基本法第7条にも災害教訓を伝承することが住民の責務として明記されており、少なくとも市民の防災意識を高めることには寄与できるはずである。歴史や文化の社会的な価値を訴えていくことを使命の一つとした。

○「地域の歴史・文化情報を積極的に発信」

「新たな運営方針」で「業務」として追加された「各種情報発信機能」の内容を明文化したものである。

■飯能河原・天覧山周辺地域の自然の情報発信拠点としての機能をあわせもつ博物館

【ねらい】

歴史博物館と並び飯能河原・天覧山周辺のビジターセンターとしての機能を果たしていくことを明記した。

【解説】

○「この地域における自然のビジターセンターとしての機能」

「新たな運営方針」で「業務」として追加された「自然分野に関する情報提供機能」の内容を明文化したものである。

○ミッション（使命）策定までの流れ

月日	できごと
平成28(2016)年度	
5月	常設展示改装計画案策定の過程で、ミッションの必要性が認識される。
6月	職員各自で実施した日本博物館協会自己点検システムの結果から、現状認識と課題を抽出する。
6月～8月	館内で論点を絞り議論を進める。
8月24日	ミッション策定に関わり市民学芸員全体会を開催し意見徴取。
8月26日	郷土館協議会でミッション策定の目的や要件、今後の作業などについて説明する。
10月	ミッション素案作成。
11月	ミッション(案)を郷土館協議会委員、市民学芸員に提示し意見を求める。
3月28日	郷土館協議会にミッション修正案提案。
平成29(2017)年度	
5月	常設展示改装を機に付加される自然のビジターセンター機能をミッションにどのように反映させるかについて検討開始する。
5月30日	リニューアルオープン後の自然分野の取り扱いについて協議を要するため、ミッション(案)の郷土館協議会への提案を見送る。
8月2日	庁議で博物館への名称変更と新たな運営方針が承認される。
8月29日	「飯能市郷土館の新たな運営方針」を郷土館協議会に諮問、同会より答申が出される。
12月8日	市議会本会議で郷土館条例の一部を改正する条例案が可決。
2月21日	飯能市立博物館の新たな運営方針を反映させたミッション(最終案)を作成する。
2月27日	飯能市郷土館協議会で「飯能市立博物館の使命(ミッション)」が承認される。
3月23日	教育委員会3月定例会で、飯能市郷土館条例施行規則の一部を改正する規則(案)及び「飯能市立博物館のミッション」が議決される。

博物館ロゴマークの製作



シンボルマークとロゴタイプの組み合わせ・基本形

飯能市郷土館は、従来の歴史博物館としての役割を強化し、飯能河原・天覧山周辺の自然の魅力を紹介するビジターセンター的機能を追加するため常設展示の改装を行い、名称も「飯能市立博物館」に変更することとなった。そこで、新たに「飯能市立博物館」のロゴマーク(ロゴタイプ+シンボルマーク)を製作し、当館が発するメッセージを統一感のあるイメージとして形成し、新たに生まれ変わる当館のアイデンティティを市民とともに

共有し、当館に愛着をもってもらうことを目指した。あわせてデザインガイドラインも定めた。

デザインコンセプトとしては、飯能市が山・町・里が相互に支え合う森林文化都市であるということ、新しく開館する飯能市立博物館が、本市の新たな魅力に出会える場であることを表現することとした。製作は、今回の常設展示改装の設計・施工を行った株式会社ムラヤマに委託して行った。

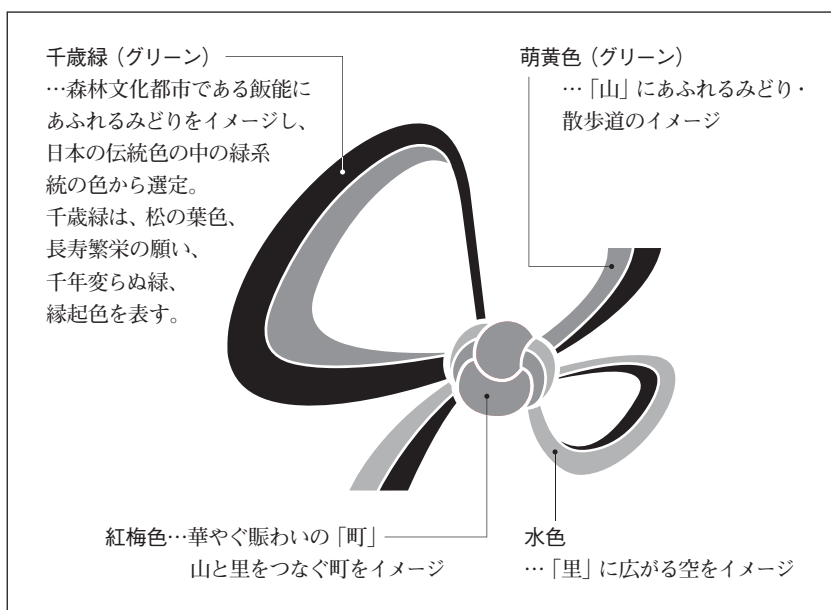
○ロゴタイプ

ロゴタイプは、歴史博物館と飯能河原・天覧山周辺の自然のビジターセンターの2つの顔を持つ館として、存在感がありつつ時代にも左右されないイメージを意識したものである。またフォントは、角と丸みを交えた形にすることで、伝統と親しみを表現した。

○シンボルマーク

シンボルマークは、山・町・里が相互に支え合う森林文化都市である飯能市の地域的特徴及び市域の形状と、日本の伝統的な縁起ものである水引をモチーフに展開したものである。

水引は、豊かな自然やそこに紡がれる歴史・文化との出会いや縁、そしてひとびとがそれらを巡る動線をイメージしている。また中央の結び目は、飯能の町が山と里を結び付けていた歴史



をもつことと、町に位置する飯能市立博物館が、来館者と飯能とを結ぶ存在であることを表している。

そこには、訪れたひとを飯能市の山・町・里へと誘い、新たな発見・出会いへのきっかけを創る博物館としての思いが込められている。



長く親しまれた飯能市郷土館のロゴマーク

博物館の愛称「きつとす」の決定

○「きつとす」とは？

「きつとす」とは、フィンランド語で「ありがとう」を意味するkiitos(キートス)をベースに、飯能の自然・歴史及び来館者への感謝を表現したもので、「木と住む」や「木の文化を未来・子どもにトスする(つなげる)」といった意味も込められている。西川材を連想させるとともに、森林文化都市である飯能市の博物館にふさわしいことから選ばれた。

○愛称決定の経緯

市民を初め市外の人々の来館を促し、当館が飯能市の博物館として愛され、親しまれるようにするため、リニューアルオープンに合わせて愛称を公募することとなった。ただし、平成29年



左から大久保市長、宇野友梨さん・理恵さん、今井教育長

12月市議会定例会に当館の名称変更を含む郷土館条例改正案が上程されており、それが議決され新たな名称が決定した後でない募集を開始することができなかったため、募集期間は平成29年12月11日から平成30年2月9日までとした。

応募は1人3点までとし、広報はのう1月1日号及び当館ホームページ上で呼びかけ、市内小・中学校、公共施設にチラシを配布した。そのほか公募・コンテスト情報誌『月刊公募ガイド』・『懸賞ナビ』(月刊)にも掲載を依頼し、同誌およびそのサイトにもアップされ、コンテスト情報のwebサイト「登竜門」にもアップされた。その結果、北は北海道から南は宮崎県まで372名の個人、団体から750件の応募があった。

この中から、商標登録されているものやそれに類するものなどを除外したうえで、郷土館協議会会長・副会長と協議して12件を選定し、平成30年2月27日に開催された郷土館協議会でさらに4件に絞り込み、3月23日の教育委員会で決定した。

「きつとす」を考案したのは、飯能市立加治東小学校1年生の宇野友梨さんと母親の理恵さんで、お二人には平成30年4月1日に行われたリニューアルオープンの記念式典にて、表彰状と記念品を贈呈した。

「飯能市立博物館」の 愛称を募集します！

「身近な自然」コーナー (イメージ)

飯能市郷土館は、平成30年4月1日から「飯能市立博物館」と名称を改めリニューアルオープンします。
これまでの歴史博物館としての役割を強化しつつ、周辺の自然の魅力を発信するビジターセンターの機能が加わり、今まで以上に飯能の魅力を伝え、発信する施設となります。
リニューアルオープンにあたって、市内外に施設を広くPRするとともに、多くの方々に親しまれ、訪れていただける施設となるように愛称を募集します。
詳しくは次ページ以降の募集要項をご覧ください。

※応募締切 平成30年2月9日(金)必着
(郵送の場合は当日消印有効)
※どなたでも応募できます。

〇応募・問い合わせ先
飯能市郷土館
・住所：〒357-0063 埼玉県飯能市大字飯能258-1
・TEL：042-972-1414 ・FAX：042-972-1431
・電子メール：kyodokan@city.hanno.lg.jp

愛称応募のチラシ

収蔵品展

絹の里のうちおり

同時開催：新収蔵品展

期 間	平成29年3月26日(日)～5月14日(日)		
開館日数	42日間		
入館者数	4,160人 (1日平均99.0人)		
展示点数	66点		
総 経 費	224,865円 (入館者1人あたり54.1円)		
(内 訳)	印 刷 費 77,760	展示委託料 74,520	通信運搬費 23,660
	消 耗 品 費 15,450	非常勤報酬 33,475	

1 趣 旨

飯能は江戸時代から女性が養蚕・製糸・製織を行い、市では穀物と共に織物が取引されていた。明治時代の終わりごろになると、絹織物の組合事務所が置かれ集散地としての地位を確立する。飯能の町と絹との縁は深いものがあり、まさに「絹の里」と言うことができる。

また「うちおり」とは農家の女性が自家用に織った布のことであるが、「うちおり」もこうした歴史的背景の中で織られたものである。

当館では平成14年度に特別展「うちおり」を開催し、その後「飯能の織物」研究会が収集したものを含め新たに収蔵資料となったものがあることから、ここで一度状態の確認することと合わせ展示することとしたものである。あわせて、飯能が生糸や生絹の生産地、集散地であったことを改めて伝える機会とし、店蔵絹甚や飯能織物協同組合の建物の存在についても言及することとした。

2 展示の構成

本展示は、平成15年度以降に収蔵品に加わった「うちおり」を中心に展示することとし、飯能が生糸・生絹の生産地・集散地であったことはパネルで紹介した。展示構成は以下のとおりである。

はじめに

平成14年度の特別展開催以降に寄贈されたうちおりが存在していることに触れ、それらの展示を通し、飯能が絹とゆかりの深い土地であることを紹介する、という本展示会の趣旨について説明した。

① 絹の里、飯能

ここでは、飯能が生糸・生絹の生産地・集散地であった歴史を紹介し、絹糸の生産(養蚕)や織

物が盛んであったという歴史的背景を説明した。

② 飯能のうちおり

うちおりとはどのような織物なのかに言及した上で、実物資料を紹介した。固定ケースの中では、うちおりの展示の下の部分に、絹甚と武蔵絹織物同業組合に関わる資料を展示した。

おわりに

飯能と絹との関係性を示す象徴的な建築物が市街地に残っていることに触れ、店蔵絹甚と飯能織物協同組合事務所について言及し、結びとした。

3 印刷物

ポスター(B2判カラー)	300枚
チラシ	300枚
リーフレット(A4版4ページ)	300枚

4 評 価

例年のことではあるが、新収蔵品展と同時開催となるため、メインとなるうちおりの展示点数は10点と少なめであり、見応えにはやや欠け



展示風景

る展示となってしまった。また、これまで展示したことの無いものを中心にしたため、縞などの代表的なうちおりは展示しなかった。

ただ、うちおり(着物)に対する人々の関心は高いようで、入館者数は収藏品展の中では比較的多く、直近の10年では2番目に多かった。

来館者は、年齢では60代以上の方が47%を占め、性別では女性が53%と少し多かった。また来館者の住所は、市内が47%、人間地区が9%、埼玉県内が24%であった。

以下、アンケートで印象に残った資料や自由記述欄に書かれたことを紹介することで、本展の評価に替えたい。

- あざやかで花柄がすばらしい。(60歳代・女)
- 柄がよい! チョウチョが特に!(60歳代・男)
- 嫁入りの着物に母親の深い愛情を感じた。(60歳代・女)
- チョウチョがモダンで素敵でした。嫁入りするために織る母の思いがこちらにも伝わってきます。(60歳代・女)
- 絹と木材が飯能の特産。これに付随する仕事唄などの展示もあっていいのではないのでしょうか。(60歳代・女)



収藏品展「絹の里のうちおり」ポスター



展示解説の様子



その他の展示

◎今月の一品

エントランス入口右側に月替わりで収藏品を展示しているものである。当年度は、常設展示改

装工事による休館期間があったため、展示を行ったのは4月と5月のみである。

○展示資料一覧

月	タイトル	資料番号等	担当者
4月	大正四年織物市況報告控	飯能織物協同組合文書No.152	宮島
5月	皿(飯能市郷土館開館記念品)	—	引間

夏休み子ども歴史教室

「くずし字に親しむ ～遊んで・読んで・書いてみよう～」

日 時 平成29年8月2日(水)
午前9時～午後4時30分

対 象 小学生

参加者数 12人

会場 こども図書館多目的ホール

指導者 山本和夫・前田真樹・大野淳子(こども図書館)・村上達哉・引間隆文・宮島花陽乃・本橋綾香(当館)・栗田聡美(生涯学習課)

1 趣 旨

古文書は、博物館で扱う様々な資料の中でも「難しいもの・よくわからないもの」として敬遠されがちな存在である。「古文書を中心に据えた展示は入館者が少ない(人気が無い)」とよく言われ、実際にそのような傾向があるのも否めない。

古文書が「よくわからないもの」とされてしまう原因の1つとして考えられるのが、くずし字の存在である。くずし字は主に近代以前の文書にて使用される文字で、現代のそれとは形が大きく異なっている。書道で草書体を習った人でもないと、普通は読めない。古文書は立体物に比べて外見から得られる情報が少ないため、理解するには内容の読解が必須であるが、くずし字が読めなければ当然書かれている内容も分からない。その結果、「よくわからないもの」となってしまうのである。

しかし、古文書は地域の歴史を研究・解明しようとする素材として不可欠のものであり、当館の収蔵資料の大半を占めるものでもある。このように、当館にとって欠かせない存在である古文書に、少しでも親しみを感じてもらえるようにと企画したのが、本事業である。古文書を敬遠する要因と考えられるくずし字を取ってメインに扱い、ゲームなどの遊びを通じて触れ合うことで、くずし字は「楽しいもの」とであると子どもたちに少しでも感じてもらうことを目的とした。

2 内 容

実施は午前9時から午後4時30分までの時間枠で行った。これは、保護者が働きに出ている間に小学生を1日預る、という発想による。当日のプログラムは以下のとおりである。

【午前】

- ・開会式
- ・ガイダンス「遠くて近いくずし字の話」
- ・宝探しゲーム

【午後】

- ・ブックトーク
- ・くずし字を書いてみよう～世界で1つのおり作り～
- ・くずし字下敷き作り
- ・閉会式

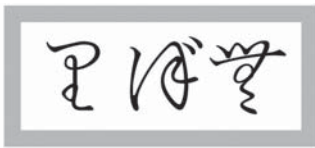
ガイダンスでは、今日学ぶくずし字が歴史上の人物たちが書いていた文字と同じであることを伝えた。その後、実は現在でも様々なところで目にする機会があり、身近なものでもあることを示した。

宝探しゲームは、以下の手順で行った。まず、参加者を4つのグループに分け、暗号解読表(変体仮名50音表・下)を配った。その後、多目的ホール内に隠された3枚のくずし字カードをグループで協力して探索してもらい、見つけたカードに書かれている言葉を、暗号解読表をもとに解読してもらった。カードには午後のしおり作りで使う材料が書いてあり、解読に成功したグループへカードと引き換えにその材料を渡した。全チームの引き換え完了後、答え合わせを行った。この方法だとグループによって終了時間に差が出ることが予想されたため、早く終わって

あんごうかいどくひょう(へんたいがな50おんひょう)
暗号解読表 (変体仮名50音表)

ん	わ	ら	や	ま	ほ	な	た	さ	か	あ
ぞ	じ	羅	唇	海	そ	ふ	と	ぎ	あ	何
		り		み	ひ	に	ち	し	き	い
		里		み	唇	よ	ち	志	起	以
		る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
		る	也	ぞ	布	怒	巾	屯	く	亨
		れ		め	へ	ね	て	せ	け	え
		世		免	魚	祿	て	支	あ	江
を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お	
城	路	与	毛	海	比	や	う	赤	木	

暗号解読表



しおり作りで使う材料がくずし字で書かれたカード

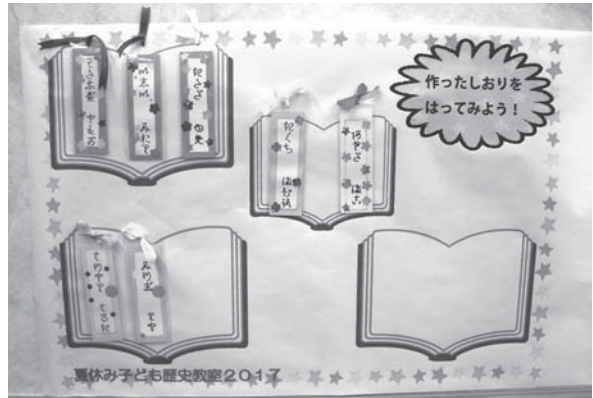
しまったグループ用にくずし字クロスワードを用意した。

午後はまずこども図書館の司書によるブックトークを行い、続けてしおり作りと下敷き作りを行った。しおりには自分の名前が、下敷きには飯能市の木・鳥・花そして公認キャラクターの夢馬の名前がそれぞれくずし字で薄く印刷されており、それをなぞったものをパウチし完成させた。

3 反省・評価

●こども図書館との共催について

今年は、常設展示改装工事により当館を会場とすることができなかつたため、こども図書館で実施することとし、同館と共催とした。午後のはじめに行ったブックトークや会場後方に設置した関連図書コーナーは、共催にしたからこそ実現したプログラムであったと言える。また、子どもたちへの対応や安全対策などについても、日常的に子どもを相手にしている司書ならではの意見をいただくことができ大変参考になった。しかし、当館担当者による説明不足により事業の内容や趣旨がうまくこども図書館側に伝わっておらず、結果としてブックトークや本の設置といった独立プログラムを挟み込む形でしか共催であることを表現できなかった。今後もし再び共催する機会があるならば、その



参加者が作ったしおり

時は事業の計画段階から打ち合わせを重ね、1つのプログラムを一緒に作り上げてみるのも1つの方法であろう。

●夏休み子ども歴史教室にてくずし字(古文書)を取り扱うことについて

夏休み子ども歴史教室でくずし字(古文書)を主軸とするのは当館初の試みであり、参加者が集まるのか不安であったが、蓋を開けてみれば定員いっぱいの申し込みがあった(ただし体調不良などにより実際の参加者は12人であった)。また、参加者へのアンケート結果を見ても9割が「楽しかった(10名)」「まあまあ楽しかった(1名)」と回答しており、概ね高評価を得ることができたように思う。

くずし字などの文字資料をテーマにしようとするとうちでも座学がメインになりがちだが、子どもたちは座学ばかりだと飽きてしまう。この点をどのように解決するか悩んだ末、今回は宝探しと工作という2つの体験要素を組み込んだ。アンケートの記述や当日の様子を見る限り、子どもたちはどちらも楽しんでいたよ



クロスワードに夢中の参加者

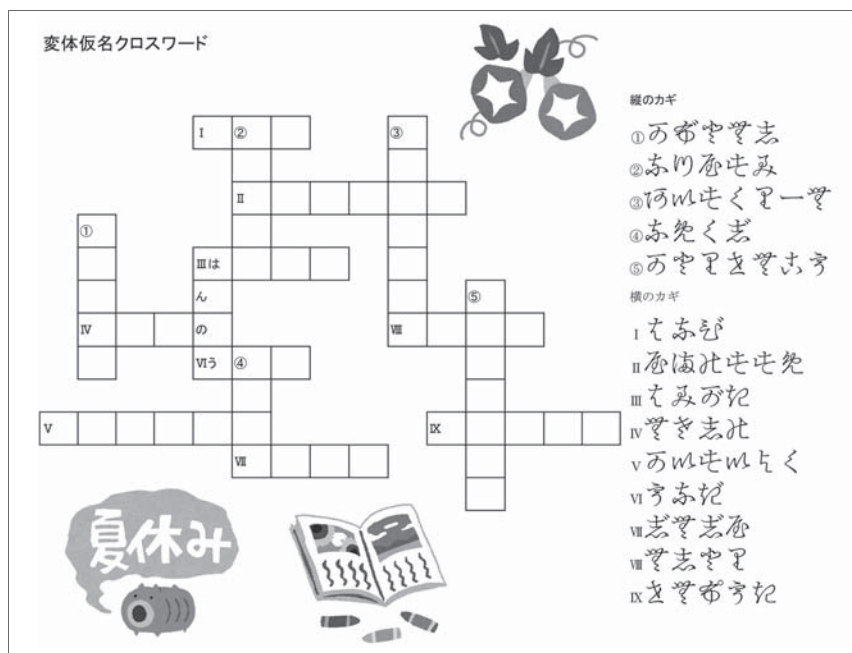


くずし字の解説に成功し、しおり作りの材料をゲット

うであり、また、くずし字学習の要素(暗号の解読・名前の書きとり)も違和感なく受け止めてくれていたようである。しかし、カードを探すことやしおり・下敷きを作る行為そのものに夢中になっていた様子も多々見受けられ、本事業がくずし字や古文書への興味や意欲を引き出すきっかけとなったか否かという点においては課題が残るものとなった。

いっぽう、くずし字そのものへの興味・理解という点で予想外の反響があったのが、クロスワードであった。こちらはもともと、空き時間ができてしまった場合の時間調整用として用意していたものであった。しかし当日、子どもたちはあっという間にクロスワードに夢中になり、空き時間のみならず昼休みまで使って解いている子もいたほどであった。そして最終的には、用意した2種類のクロスワードを参加者全員が完成させていた。また、解答のスピードも予想を上回るものであり、子どもたちの能力や意欲を読み違えていたことに気付かされた。

本事業を通じて、くずし字(古文書)を題材にして歴史教室を行うこと自体は不可能ではないことがわかった。しかし、体験要素の組み込み方や、くずし字・古文書への興味のひき方については課題や不明な点が多い。今後はくずし字(古文書)を扱う歴史教室を定着させていくと



参加者に人気だったくずし字クロスワード

もに、試行錯誤を重ねながら、古文書に対し少しでも興味や親しみを持ってもらえるようなプログラムを少しずつ作り上げていきたい。

○参加者の声

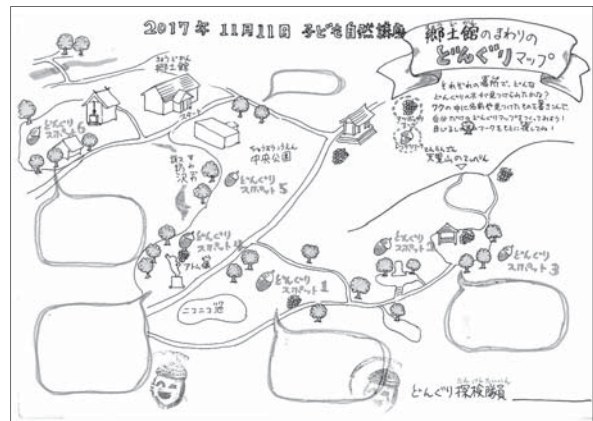
- ・クロスワードはともだちと暗号解読表を見ながらやったので、たのしかったです(3年)。
- ・クロスワードは友だちと表でさがしてやったので楽しかったです(3年)。
- ・くずし字でクロスワードをしてもんだいをといたりするのが、楽しかったです(4年)。
- ・班の子ときょう力してたからさがしができてよかったです(5年)。
- ・初めて見た本があっておもしろそうだった(ブックトーク)。クロスワードとてもおもしろくてどんどんやりました(5年)。
- ・クロスワードはすごく楽しかったです。クロスワードのおかげで少しくずし字が読めるようになりました。宝探しは楽しみながらくずし字が学べてよかったです。また参加したいです(5年)。
- ・下じき作りの時、色をぬるのがたいへんだったけど、すごく楽しくできてよかったです(5年)。
- ・しおり作りが楽しかったです(5年)。
- ・ブックトークで色々な本をしょうかいして下さったので、面白そうな本を見つける事ができたと、関わりのある本を知る事もできたので良かったです。後ろに本もあって、休むときなどに読めてうれしかったです(6年)。



こども図書館司書によるブック・トーク

「どんぐり探検隊」

日 時 平成29年11月11日（土）
 午前9時～正午
 対 象 小学生
 参加者数 4人
 行 程 当館→ニコニコ池→天覧山→中央公園
 指 導 者 村上達哉（当館学芸員）・
 本橋綾香（当館非常勤職員）
 協 力 者 原田恵子氏（当館市民学芸員）



郷土館の周りのどんぐりマップ

1 趣 旨

当館の北に位置する天覧山・多峯主山は、ヒノキやスギの植林地の次にコナラやクヌギ等の雑木林が多く、秋になるとどんぐりの実がたくさん落ちている。寺社や公園、沢沿いの緑地も含めれば、当館周辺では様々などんぐりを探ることができる。

そこで、どんぐりを拾うことを通して身近な自然の魅力を発見するとともに、樹木そのものや、生態系の面白さに興味関心が広がることをねらいとした。

2 内容

コース設定は、あとから自分でも探しに行くことができるよう、当館周辺を巡るものと「郷土館のまわりのどんぐりマップ」を配付した。

観察は以下の探検ポイントで行った。（ ）内はポイント内で見られるどんぐりの樹種である。

- ①ニコニコ池(スダジイ/コナラ)
- ②天覧山中段広場(コナラ/シラカシ/アラカシ)



どんぐりくらべシート

③中央公園アトム像周辺(スダジイ/マテバシイ)

各ポイント到着後、探検タイムと称し5～10分どんぐりを探す時間を取った。拾ったどんぐりの見分けができるようになることを一つの目標とし、まずは「どんぐりくらべシート」を使用しながら種類の判別をした。その後(1)どんぐりの形と生態について、(2)どんぐりと共生する生きものについて、(3)人との関わりについて、とあらかじめ設定した3つのテーマに基づき写真や実物、観察道具を使用して子どもたちに問いかけながら解説を行った。

3 反省・評価

どんぐりを観察しながらの問いかけは反応が大きく、子どもたちの興味関心を引き出すことができたと感じた。参加者の中には、事前に学校で調べ学習をした子どももいたが、予備知識があっても、どんぐりが根を張る様子や、実になる前の状態などは新鮮で興味深いようだった。しかし、どんぐりを集めることに集中してしまう側面もあったため、野外観察だけではなく実を使ったクラフト体験を組み込むとより良かったと考えられる。

反省点としては、常設展示改装による休館中に行ったこともあって、定員の15人に対し申込みが5名(うち1名当日欠席)と応募が少なかったことである。周知方法としては、広報はんのうへの掲載のほか、フィールドに近い飯能第一小学校にチラシを配布したが、結果的にはチラシを目にして参加した子どもが多かった。小学校の保護者の場合、広報はんのうよりチラシの方が効果的と考えられるので、子ども向けの観察会を行う場合、学校数を増やして早めにチラシを配布するなどして多くの人に知ってもらえるよう努力したい。

行政運営において、市民との協働はもはや不可欠のものとなってきた。博物館でも市民との連携が欠かせない時代となった。

当館では、市民参加活動を博物館と市民との双方向性の情報交換と交流を目的とする「交流」活動とらえている。平成10年度に活動を開始した定点撮影プロジェクトが平成26年度いっぱいまで休止となり、現在は市民学芸員だけになっている。

市民学芸員

1 これまでの経緯

当館における市民学芸員とは「市民に向けた学習機会を提供するシステム」であり、「本務学芸員を補完する立場」で「博物館側の情報発信機能と受け手の市民の間をつなぐ伝達媒体としてのサポーター」であると位置づけられている(当館『研究紀要』第1号)。当館の場合、教育活動や資料整理など事業別にその都度養成を行い、市民学芸員の認定をしている点に特徴がある。

平成29年度末現在で活動しているのは、博学連携事業参加型(以下「博学連携」と略)、古文書整理型、麦作文化探求型の3分野合わせて47名である。2分野以上にまたがっている方もいるので、各分野の活動人数は、博学連携が35名、古文書整理が12名、麦作文化探求が15名となる。

当年度は、常設展示改装工事のため平成29年6月1日から平成30年3月31日まで休館していたので、市民学芸員の活動も、ほとんどが周辺の公共施設で行われた。

2 活動の概要

◎全体の活動

当館の市民学芸員の活動は、基本的に博学連携、古文書整理、麦作文化探求といった活動分野ごとに行われるが、地域の歴史や文化、あるいは博物館学に関わる研修や、他の博物館を見学する館外研修会などを全体で行っている。当該年度は常設展示改装工事やそれに伴う名称変更、リニューアルオープンに関わる準備などがあったため、全体研修会を行うことができなかった。

このほか、実験的な活動や当館のイメージアップをはかるなど、養成分野にこだわらずやりたいことを自由に、気軽に行える場としてのサークル活動も行っている。現在実施されているのは、以下の2つである。

(1) 花サークル

花サークルは、当館駐車場から入口へ向かう途

中にある花壇に花を植えて、来館者を歓迎する雰囲気を表そうとするもので、次の生花サークルとともに当館のイメージアップに貢献していただいている。

当該年度は、6月1日から翌年3月31日まで休館していたので、活動は行わなかった。

(2) 生花サークル

このサークルは、当館入口風除室に生花を展示するものである。展示は1週間(火曜日の朝から日曜日まで)を単位とし、市民学芸員4人が交代で担当した。当年度は休館に入る前の5月までとリニューアルオープン直前のみで、日数は17日(9週)、人数はのべ18人である。

◎博学連携事業参加型の活動

「博学連携事業参加型」の活動は小学3年生見学対応が中心であり、下半期は同事業の準備と実施にあて、上半期に研修を行っている。なお、平成29年度は常設展示改装工事のため市民会館を主な会場とした。

研修は、①小学3年生見学対応に資するもの、もしくは②市民学芸員から要望が出たもの、から内容を決めた。①については、飯能市教育センターの菱吉信氏に「子どもを学ぶ」と題して講演いただき、小学3年生の子どもがどのような存



博学連携型・研修会「子どもを学ぶ」(7/24)

在であるのか、ということについて学んだ。その他、見学対応のプログラム内で登場する「炭」について理解を深めるため、当館学芸員が講義を行った。

②については、市内の寺社や市外への研修が要望として出された。そこで、6月に市内中山の智観寺へ行き、住職及び副住職から同寺の歴史などについて話していただいた。市外への研修は、八王子市と本市が歴史的に深い関わりを持っていることや、中山に館を構えていた戦国武将の中山氏が八王子城の守備にあたったことから、八王子市郷土資料館及び国指定史跡八王子城跡の見学会とした。

10月以降は例年通り小学3年生見学対応に向

けての活動となったが、例年見学を受け入れている1月・2月が休館期間と重なったため、今年度は学校へ出向く形をとった。

また、2月には「飯能ひな飾り展」に合わせてひな飾りカードを作り、町なかの店蔵絹甚にて配布した。更に3月には、リニューアルオープン時に来館者へ配布する落ち葉カード作りを行った。

◎古文書整理型の活動

「古文書整理型」の市民学芸員は、平成22年度に養成された第Ⅵ期にあたる。目標としては、当館で収蔵している古文書を整理したり、翻刻したりする作業に、当館学芸員と共に参加し地域への理解を深めてもらうことにある。



博学連携型・国指定史跡八王子城址見学（9/24）



古文書整理型・地域めぐり⑦（5/13 矢蕨・浄心寺にて）

○平成29年度市民学芸員(博学連携)活動一覧

回	活動日	曜日	時間	テーマ	講師・担当	内容	会場	参加人数
1	4/26	水	13:30~15:00	4月定例会	村上・宮島	平成29年度の活動予定について／収蔵品展「絹の里のうちおり」展示解説	学習研修室	13
2	5/21	日	13:30~15:40	5月定例会	村上・宮島	平成29年度の活動予定について／『郷土館研究紀要』講座	学習研修室	13
3	6/28	水	13:30~15:30	6月定例会	尾崎・村上・宮島	常設展示の改装について－智観寺見学会	学習研修室 智観寺	15
4	7/24	月	10:00~12:00	7月定例会	村上・宮島	研修会「子どもを学ぶ」菱吉信氏(飯能市教育センター)	富士見地区 行政センター	12
5	8/23	水	13:30~15:30	8月定例会	尾崎・村上 引間・宮島	市立図書館見学(柳戸館長)／研修会「炭(木炭)について」引間学芸員	市立図書館	13
6	9/24	日	9:00~16:30	9月定例会	村上・宮島	八王子市郷土資料館／国指定史跡八王子城跡見学会	市立図書館	15
7	10/30	月	10:00~12:00	10月定例会	尾崎・村上・宮島	小学3年生対応について	中央地区 行政センター	14
8	11/28	火	10:00~12:00	11月定例会	村上・金澤	小学3年生対応について	中央地区 行政センター	13
9	12/19	火	10:00~12:00	12月定例会	村上・金澤	小学3年生対応について	中央地区 行政センター	13
10	1/11	木	13:30~15:30	1月定例会	村上・金澤	小学3年生対応について	市民会館	14
11	2/10	土	9:30~15:30	ひな飾りカード作り	原田さん (担当金澤)	ひな飾りカード(店蔵絹甚で配布)作り	市民会館	8
12	2/21	水	10:00~12:00	2月定例会	村上・金澤	小学3年生対応反省会	市民会館	12
13	2/21	水	13:30~15:30	落ち葉カード作り	金澤	落ち葉カード(当館リニューアルオープン時に配布)の台紙作り	図書室	6
14	3/3	土	9:30~15:30	落ち葉カード作り	金澤	落ち葉カード作り	図書室	6
15	3/8	木	13:30~15:30	落ち葉カード作り	金澤	落ち葉カード作り	図書室	7
16	3/23	金	10:00~12:00	3月定例会	村上・金澤	平成29年度の活動振り返り	市民会館	14

合計 のべ 188人

当該年度の活動は、常設展示改装によって新たな歴史展示室に設けられる「飯能今昔」ゾーンのうち、「旧中山村の地域遺産」の展示製作とその案内マップの作成を中心に行った。中山地区は前年度に「地域めぐり」(巡見)を実施していることもあり、それを参考にしながら関連する文献や史料を読んで近世末期の中山村のイメージをつかみ、その後現地調査を行った。文献や史料の読み込みは、全体を2つの班に分けて『新編武蔵風土記稿』の記述を基に、一つは明和4(1767)年の

村明細帳、もう一つは明治11(1878)年に作成された「村誌編輯」と比較しながら進めていった。この活動は、市民学芸員のこれまでの学習成果の発表の機会と位置付けられる。

このほか、市民学芸員が自ら住んでいる地区の歴史を調べ案内する地域めぐりを1回、前年度に引き続き自主活動を4月と5月の2回行った。当年度は24回の活動(下表)で、のべ205人が参加した。



古文書整理型・地域の展示準備(7/27 グループワーク)



麦作文化探求型・大麦こがし作業(8/9)

○平成29年度市民学芸員(古文書整理)活動一覧

回	活動日	曜日	時間	内 容	会場	参加人数
1	4/13	木	14:15～15:35	4月例会①(文久3年赤沢村御用留講読②、今年度の活動協議)	学習研修室	10
2	4/20	木	14:00～16:00	自主活動(赤沢村浅見家文書・井上村大野貞家文書整理)	学習研修室	6
3	4/27	木	10:00～12:00	4月例会②(文久3年赤沢村御用留講読②、収蔵品展「絹の里のうちおり」展示解説)	学習研修室	10
4	5/11	木	10:00～11:20	5月例会①(文久3年赤沢村御用留講読③)	学習研修室	8
5	5/13	土	9:25～11:40	地域巡り⑦ 矢嵐地区巡見	(現地)	10
6	5/18	木	10:00～12:00	自主活動(赤沢村浅見家文書・坂石村富澤家文書翻刻、井上村大野貞家文書整理等)	学習研修室	7
7	5/25	木	10:00～11:35	5月例会②(文久3年赤沢村御用留講読③)	学習研修室	10
8	6/15	木	10:00～11:35	6月例会①(常設展示改装・歴史展示室「飯能今昔ゾーン」、地域の展示準備①)	中央地区行政センター	11
9	6/29	木	10:00～11:30	6月例会②(常設展示改装・歴史展示室「飯能今昔ゾーン」、地域の展示準備②)	中央地区行政センター	9
10	7/13	木	10:00～11:20	7月例会①(常設展示改装・歴史展示室「飯能今昔ゾーン」、地域の展示準備③)	市民会館	9
11	7/27	木	10:00～11:30	7月例会②(常設展示改装・歴史展示室「飯能今昔ゾーン」、地域の展示準備④)	学習研修室	9
12	8/24	木	10:00～11:30	8月例会(常設展示改装・歴史展示室「飯能今昔ゾーン」、地域の展示準備⑤)	中央地区行政センター	10
13	9/14	木	10:00～11:30	9月例会(常設展示改装・歴史展示室「飯能今昔ゾーン」、地域の展示準備⑥)	中央地区行政センター	11
14	9/21	木	10:00～12:00	常設展示改装・歴史展示室「飯能今昔ゾーン」、地域の展示準備⑦Aグループ現地調査	(現地)	5
15	10/2	月	10:00～15:30	常設展示改装・歴史展示室「飯能今昔ゾーン」、地域の展示準備⑧Bグループ現地調査	(現地)	5
16	10/12	木	10:00～11:30	10月例会(常設展示改装・歴史展示室「飯能今昔ゾーン」、地域の展示準備⑨)	中央地区行政センター	9
17	11/2	木	10:00～11:30	11月例会(常設展示改装・歴史展示室「飯能今昔ゾーン」、地域の展示解説パネル原稿作成①)	中央地区行政センター	8
18	12/7	木	10:00～11:30	12月例会(常設展示改装・歴史展示室「飯能今昔ゾーン」、地域の展示解説パネル原稿作成②)	市民会館	9
19	1/11	木	10:00～11:35	1月例会(常設展示改装・歴史展示室「飯能今昔ゾーン」、地域の展示マップ製作①)	市民会館	11
20	2/1	木	10:00～11:30	常設展示改装・歴史展示室「飯能今昔ゾーン」、地域の展示マップ製作②現地調査	(現地)	5
21	2/8	木	10:00～11:32	2月例会①(常設展示改装・歴史展示室「飯能今昔ゾーン」、地域の展示マップ製作③)	市民会館	8
22	2/22	木	10:00～11:30	2月例会②(常設展示改装・歴史展示室「飯能今昔ゾーン」、地域の展示マップ製作④)	市民会館	8
23	3/8	木	10:00～11:30	3月例会①(常設展示改装・歴史展示室「飯能今昔ゾーン」、地域の展示マップ製作⑤)	市民会館	9
24	3/22	木	10:00～11:30	3月例会②(常設展示改装・歴史展示室「飯能今昔ゾーン」、地域の展示マップ製作⑥)	市民会館	8

合計 のべ 205人

◎麦作文化探求型の活動

「麦作文化探求型」の市民学芸員は、平成27年度から活動を開始した。活動の目標は、次の3点である。

- ①伝統的な麦作及び加工等に係る技術を身につけ、伝承する。
- ②麦に関する知識を深め、地域の麦作文化を探求する。
- ③活動や調査の成果を、郷土館の教育事業の中で積極的に活用する。

平成29年度の活動であるが、開始から3年目を迎え、それまでの麦作を中心とした農作業をベースとしつつも、新たな展開を模索する1年であった。

農作業に関しては、麦やイモ類の栽培に加え、ノラボウやキュウリなども取り入れた。土も開墾時に比べて良くなってきたこともあり、安定した麦作が見込めるようになってきた。

当年度は、視察研修も実施した。三芳町立歴史民俗資料館を訪ね、同館における「三富塾活動ボランティアの会」の活動について学んだ。また、三富新田も見学し、同地で古くから行われている

循環型農法について学習した。

さらに今後の新たな活動についても話し合いを重ねた。教育活動に速やかに着手したい、との意見もあったが、より深く飯能の麦作文化を伝えるためには、まず自らが学び、自らを高めていくべきとの結論に達した。

次年度以降は原点に立ち返り、学習や調査を取り入れた活動としていきたい。



麦作文化探求型・三富新田の視察研修 (10/4)

○平成29年度市民学芸員(麦作文化探求)活動一覧

回	活動日	曜日	時間	内容	会場	参加人数
1	4/9	日	13:30~15:00	麦の土入れ、サツマイモの苗づくりなど	西側畑	8
2	4/19	水	13:30~15:00	大豆用地の耕作、ジャガイモの手入れ	西側畑	8
3	4/26	水	13:00~15:00	大豆・綿・カボチャの播種、ジャガイモの間引き	西側畑	6
4	5/10	水	13:00~14:30	麦の土寄せ、ジャガイモの追肥、ノラボウの抜き取り	西側畑	7
5	5/24	水	13:00~14:30	サツマイモ・キュウリの植え付け	西側畑	6
6	5/31	水	9:30~11:30	大麦の刈り取り・乾燥、サツマイモの植え付け	西側畑	8
7	6/4	日	9:30~11:30	大麦の脱穀、小麦の刈り取り・乾燥など	西側畑	8
8	6/14	水	9:30~11:00	大麦の選別、小麦の刈り取り・乾燥	西側畑	4
9	6/21	水	9:00~11:00	小麦の脱穀	1階搬入路	7
10	6/24	土	9:00~11:00	ジャガイモの収穫、ノラボウ採種	西側畑	6
11	7/12	水	9:30~11:30	今後の活動に関する打ち合わせ	市民会館	6
12	7/29	土	9:00~10:40	サツマイモのツル返し、追肥、キュウリの収穫	西側畑	4
13	8/9	水	9:00~11:40	大麦こがし、キュウリの収穫	学習研修室・西側畑	6
14	9/6	水	9:00~13:30	小麦の調理、畑の手入れ	学習研修室・西側畑	7
15	9/20	水	9:00~12:20	小麦の製粉	1階搬入路	4
16	10/4	水	9:30~16:20	視察研修(三芳町)	(現地)	7
17	10/11	水	13:30~15:20	サツマイモの収穫	西側畑	5
18	11/1	水	13:30~15:50	麦用地の耕作、堆肥づくり	西側畑	6
19	11/8	水	13:30~15:50	ノラボウの植え付け・播種、サツマイモの水洗	西側畑ほか	7
20	11/15	水	13:30~15:40	大麦の播種、サツマイモの水洗	畑・3階屋上テラス	7
21	11/22	水	13:30~15:45	小麦の播種、サツマイモの乾燥	畑・3階屋上テラス	6
22	12/9	土	9:30~12:00	小麦の調理(すいとん、たらしもちづくり)	学習研修室	8
23	12/20	水	13:30~15:45	サツマイモの製粉、麦ふみなど	1階搬入路	6
24	1/10	水	13:30~16:30	麦踏み、来年度活動計画に関する打ち合わせ	図書室	7
25	2/14	水	13:30~16:00	麦踏み、サツマイモの苗床づくり	西側畑	7
26	2/21	水	13:30~16:00	サツマイモ粉の調理(サツマイモチづくり)	中央地区行政センター	6
27	3/5	月	13:30~15:30	今後の活動に関する打ち合わせ	図書室	6
28	3/14	水	13:30~15:30	麦の手入れ、ジャガイモの植え付け	西側畑	6
29	3/29	木	9:30~11:40	麦の土入れ、畑の耕作・整備	西側畑	4

合計 のべ 183人



図書館ボランティアとは一味違う市民学芸員！

仲舘祐子さん

(第Ⅳ期博学連携型・第Ⅷ期麦作文化探求型)

○市民学芸員に応募した理由は？

飯能に住み始めたのは平成5（1993）年の暮れからで、それまでは多摩市に住んでいたんです。その頃は自動車の免許を取ったばかりの時に練習で来たことがある程度でしたが、当時は主人も私も池袋に勤務していたので、池袋まで電車1本で行けるし、いいところだったので飯能に引っ越してきました。ただ住み始めたもの

の、家にはほとんど寝に帰るだけのような暮らしで地域とのつながりもなく、何かしなければ、と思って平成19年度の市民学芸員養成講座（Ⅳ期）に応募しました。

○博学連携に参加したのは？

本当は図書館のボランティアがしたかったんです。だけど当時の図書館は施設が古くて小さかったものですから、今と違ってそういうシステムがなかった。郷土館での活動なら飯能市のことに関われると思ったのですが、普段は働いているので土・日くらいしか活動できません。そこで窓口で相談してみたところ、出席できるときに参加してもらえれば、と言われたので申込みをしました。博学連携だと、子どもたちの見学の対応ができるし、単なるボランティアでなく研修会などもあって、学習できるのが良いと思いました。



小学3年生の児童に炭の利用について話をする仲舘さん

○博学連携型の魅力は？

市民学芸員の活動では、子どもたちに問いかけると向こうから反応が返ってくるのが楽しいですね。なかにはそうでない子もいるけど、今の子どもたちは知識があって小学3年生でここまで知っているのか、と驚かされることも多いです。また市民学芸員をしている人は地域にずっと住んでいて、年上の方も多く、地域のいろいろなことを教えてもらえるし、人の輪が広がる場所もとても気に入っています。また月例会もあるのでみんな仲良しだし、わいわいやりながらいろいろなところへ見学に行ける、大人の遠足のような感じもおすすめのところかな。

○これからどのような活動をしたいですか？

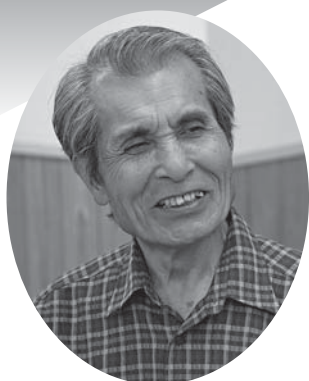
私は古い建築物、なかでも洋風の建築が好きでいろいろなところへ見に行っています。今の図書館のところにあった遠藤新設計の建物も再利用されると良かったんですけど。街中にも古い建物はたくさんありますが、このままだと全部無くなってしまいそうで不安です。歴史的建造物を残すような活動もしてみたいです。それと市民学芸員や博物館の活動ももっと知ってほしいですね。そのためには、休日に市民学芸員主体の事業ができれば博物館のPRにもなると思います。館報も詳しく活動内容をまとめているので、それが市民に伝わると良いのですが。

○まだ市民学芸員になっていない人に

市民学芸員は、とにかく楽しめる、交流ができる場所です。新たな人たちが入ってくると、新しい意見が出てきたりして、活性化します。ぜひ多くの方に参加してもらいたいです。

事務局から

ふだんお忙しい毎日を過ごしていらっしゃる合間を縫って、市民学芸員の活動のほか念願の図書館でもボランティア活動をされている仲舘さん。応募の際、窓口でご相談を受けたとき、市民学芸員もいろいろな方が関わってくれる方が良かったので、一生懸命説得したことを昨日のことのように覚えています。平日に行われる小学3年生の見学対応も、毎回必ず2日か3日都合を付けて参加してくれて本当にありがとうございます。図書館のボランティアもありますが、博物館もお見捨てなく適度におつきあいしていただけると嬉しいです。



博物館はもっと利用した方が得！

富澤武男さん
(第Ⅵ期古文書整理型)

○市民学芸員に応募した理由は？

中学校の数学の教員でしたので、現役の時は郷土館との接点はほとんどなかったですね。その後地元の中学校に勤務し、総合学習の時間で地域めぐりを行うことになり、生徒たちと高山の常楽院や我野神社、白子の長念寺などを訪れたとき、いかに地元のことを知らないかがわかり、学ぶ必要を感じました。また、そばの我野神社の役員もしていて、そこに祀られている神様にも興味もあつたし、宮司さんからも神社に古いものが残っていると聞いていたので、市民学芸員の活動に関われば歴史なこと少しはわかるようになるのでは、と思ったんです。

○市民学芸員の楽しさは？

市民学芸員は、それぞれがいろいろな方面で活躍し、生きてきた分野が違うなかで同じ方向に向かって学び合っていくのでとても新鮮ですね。いろいろな観点からものを見ることができるようになる。それと他の人たちも言っているけど仲間作りですね。いろいろな方とおつきあいができるのも嬉しいことです。

○古文書のおもしろさとは？

くずし字を覚えることも大変でなかなか上達しませんが、それでもいくらかわかるようになると、学ぶ喜びを感じることができるし、また他の博物館に見学に行ったりして、この地域のことだけでなく、他地域の歴史や生活を知ること視野が広がるのもおもしろさですかね。

○市民学芸員としてどのようなことをしてみたいですか？

昨年、吾野の歴史をテーマにした特別展が開催され、これまで吾野の歴史をまとめた文献がなかったので、その意味では展示図録が発行されたのはとても良かったです。ただもっと生活に密着した、ミクロなことを調べてみたいと思っています。例えば高畑や高山(いずれも吾野地区)はほとんど家が残っていないので、あと4~5年もすれば住む人がいなくなってしまうでしょう。今残っている人も80歳代で、今はお元気だがいつまで話が聞けるかわかりません。生活の記録を残すようなことをぜひしてみたいです。あと博物館の事業をもっと知ってもらえるように協力したいですね。今はそれができていないのが申し訳ないです。

○4月に博物館になりましたが…

郷土館から博物館になって、今まで以上に広い分野を網羅しなければならないようになって大変なのではないでしょうか。博物館になっても以前と同様に地域の歴史を中心に、市民を意識した博物館であってほしいです。活動は地味ですがそれが博物館の果たすべき役割だと思っています。

○まだ市民学芸員になっていない人へ

古文書に関していえば、やる気でやれば地域の古文書を読み下して、江戸時代の生活が理解できるようになり、知識がついてくれば自分で調べられるようになります。博物館は図書館と同様に気軽にいろいろなことを教えてもらえる場所なので、もっと利用した方が得ですよ！



グループで中山村の史料を検討している富澤さん

事務局から

古文書学習が上達しない、なんておっしゃっていますが、着実に力を伸ばし、たいいていのくずし字は読むことができる実力をお持ちです。数年前に行った地元三社の地域めぐりでは、その場で生まれ育った人でないとわからない、とてもよいところをご案内いただきました。神聖な雰囲気のある瀧不動はまさに感動です！最近山歩きにはまっているとのことと植物にも関心をお持ちの富澤さん。我野神社のお祭りに幼い娘を連れて行った時の優しさが忘れられません。これからも吾野のことをもっと教えてください。そして一緒に調べていきましょう。



生きがいを感じる市民学芸員の活動！

山川貞治さん

(第Ⅴ期博学連携型・第Ⅷ期麦作文化探求型)

○市民学芸員に応募した理由は？

元々は市内の小岩井の生まれで、28歳まで住んでいました。小岩井に住んでいた時は、自転車で飯能第一中学校まで通学していたんですが、その頃の一中は、私が住んでいた第二地区のほかに、現在の旧飯能地区、精明地区、加治地区の生徒が通っていたんです。友達に宮沢の子がいて、宮沢湖に泳ぎに行ったこともありますよ。いろんな地区から生徒が来ていたんで、地域によってずいぶん違うということは何となく感じていました。その後青木に引っ越してもう50年以上住んでいますが、全然飯能ことを知らないなあと思っていたんです。そこで広報はんのうの記事を見て応募したんですが、実際に養成講座を受けてみて、講座の内容が本当に素晴らしかった。

○養成講座のどんなところが良かったですか？

特に学校の先生から、小学3年生というのは、成長の過程でちょうど「脱皮」する時期にあたりとても大事である、と聞いたのは良かったですね。実際、子どもたちの見学の相手をしていると、知識を求める目が素晴らしいです。

○市民学芸員の魅力って何でしょう？

博学連携の方は、みなさんとても魅力的です。そうした中で一緒に活動できるのは素晴らしいことだし、深いお付き合いができている人もいて、生きがいを感じているんですよ。また学芸員（職員）の方もとてもよく勉強されていて、その人たちから学べることにも感謝しています。市民学芸員での学びは私自身の支えになっていて、これがあるからばげないでいられるんじゃないかな（笑）。

○その後、麦作文化探求型にも参加されました。

小岩井にいた頃は畑の手伝いもしていたので麦作についても多少は知っているけど、1人で畑仕事をするのは大変なので、10人くらいで一緒に耕したり、種をまいて育てて汗を流すのはとても楽しいです。それに畑で作った大麦が小学3年生の見学の時に石臼体験で使ってもらえるのも嬉しいことです。

○郷土館が博物館になりましたが。

大勢の人に来てもらいたいです。博物館は自信をもってお勧めできます。新しくできた自然のコーナーもとても良いです。そこで飯能の四季の移り変わりを味わってもらえれば、と思っています。

○これから市民学芸員になる方に何かメッセージを。

来年度は養成講座もあるので、新しく市民学芸員になってくれる方には期待していますよ。定例会にも出席して学ぶ喜びを感じてほしいです。人との出会い、文化財との出会いは素晴らしい体験ですよ。意識していれば1日1日が素晴らしい日になります。新しい人がのびのびと参加できるように応援していきたいですね。



麦作文化探求型の活動で石臼を挽く山川さん

事務局から

普段は店蔵絹葎の解説員もされている山川さん。絹葎を訪れるお客さんに博物館へ行くことを積極的にお勧めしていただいているとのこと、ありがとうございます。絹葎に来た人からいろいろと訊かれるからと、町の歴史に関わるたくさんの質問をいただき、私たち学芸員もたじたじです（勉強不足ですいません）。そこに飯能に対する愛着の強さを感じることが出来ます。好奇心が旺盛でいつも学ぶ姿勢にあふれている山川さん。麦作の方でも指導的な役割を果たしていただき助かっています。飯能の畑作文化の伝承もぜひお願いします。

博学連携

博学連携とは、博物館と学校が相互に連携・協力して、子どもの教育にあたる取り組みのことである。

当館の場合、小学3年生の社会科学習の見学受け入れと、小・中学生の社会科の自由研究を展示する「社会科研究展」が中心となるが、当年度は常設展示改装工事により6月以降休館していたため、例年とは異なる枠組みで行うこととなった。すなわち小学3年生の社会科学習は、通常と反対に当館職員と市民学芸員が学校へ出張授業に赴き、社会科研究展は隣の市民会館を会場として行った。

また、社会科研究展で学芸員賞以上を受賞した児童・生徒による研究発表会を当年度初めて実施した。

小・中学校社会科研究展

1 趣 旨

小・中学校では、夏期休業中にいろいろな教科で自由研究の課題が出される。このうち、理科や技術家庭、美術科ではその作品が県展、全国展へ出品される機会が設けられているのに対し、社会科には学校の外でその成果を発表する場がない。しかし、児童生徒の地域研究の意欲は強く、中には研究の質として高いものも見受けられる。このような作品を地域の博物館で公開し、多くの人に見てもらうことは大きな教育的効果が期待できるため、平成10年度より飯能市教育研究会社会科部会と共催で行っているのが本事業である。出展された作品のうち優秀な研究に対し、下に掲げた基準に基づき教育長賞、館長賞及び学芸員賞を選んでいる。ただし、当該年度、小学生の部には教育長賞にふさわしい作品はなかった。

なお、保護者が仕事帰りに見に来ることできるようにするため、会期中の金・土曜日の計5日間、開館時間を午後7時まで延長した。

2 展示概要

期 間 平成29年9月16日(土)～10月1日(日)
開館日数 14日間
入館者数 778人(1日平均55.6人)
展示点数 小学生133点(141人)
中学生47点(47人)
会 場 市民会館展示室



展示風景(市民会館展示室)

○教育長賞

No.	題 名	児童名	学校名	学年
41	家紋調べ～家紋は家のシンボル～	鯨井 真心	美杉台中学校	1

○郷土館長賞

No.	題 名	児童名	学校名	学年
79	飯能市の水質調査	宮本 竜希	富士見小学校	6
45	みんなで歌える大切な校歌	村井結美子	美杉台中学校	3

○学芸員賞

No.	題 名	児童名	学校名	学年
23	ぼく達の交通安全MAP	平沼 伸樹	飯能第一小学校	6
		平沼 尚樹		
31	昔から伝わる日本建築	三辻 理斗	加治小学校	2
46	今年もやるぞ! みいのおかい こお世話日記	井関美穂子	精明小学校	3
2	消防団の歴史と詰所探訪	新井 沙和	飯能第一中学校	1
23	飯能を歩こう そうだ狛犬に会いに行こう	佐藤 加奈	飯能西中学校	1

特別賞の基準は以下のとおり。

○教育長賞

例年の館長賞の候補より特に優れ、数年に一度しか見られないようなもの。

○館長賞

学芸員賞候補作品のうち最も優れたもので、小・中学校1研究ずつ。

○学芸員賞

- ・地域を対象としている。
- ・聞き取り調査やフィールドワークなどによって自らが足を使って得た情報が含まれている。
- ・児童・生徒ならではのユニークな視点や工夫が見られる。
- ・調査結果がわかりやすくまとめられている。

以上に該当する作品で小・中学生合わせて4点まで。
なお、作品が展示されたすべての児童生徒には、毎年賞状と参加賞が贈られている。

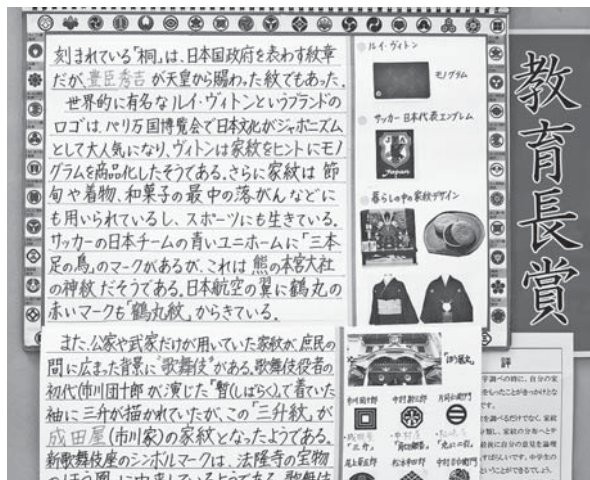
3 関連事業「研究発表会」

日 時 平成29年10月1日(日) 午後2時～4時
 発表数 8点(9人)
 会 場 市民会館202会議室
 参加者数 43人



研究発表会風景

発表は、模造紙でまとめられた研究はそれを使って、スケッチブックによる研究はその一部をプロジェクターで映写する形で行った。参加者に



教育長賞「家紋調べ」鯨井真心さん(美杉台中1年)

【講評】

3年前に行った名字調べの時に、自分の家の家紋について興味をもったことがきっかけとなって取り組んだ研究です。ただ単に家の家紋を調べるだけでなく、家紋の歴史をひもとく、分類し、家紋の分布へとテーマを広げながら、最後に自分の意見を論理的にまとめているのも素晴らしいです。中学生のレベルを超えた研究ということができるといえるでしょう。調査にかかった労力、調査結果の情報の多さ、体裁の統一性、そして読みやすさ。圧倒的なインパクトを与えたこの作品は、出品作の中でも飛びぬけた出来ばえで、教育長賞にふさわしいものです。



社会科研究発表会の発表者

は1時間前に集合してもらい、簡単なリハーサルを行い本番に臨んだ。1作品の発表時間は7分程度で、参加者には、調べようと思った動機・きっかけ、調べた方法、調べてみてわかったこと・苦労したことなどを話してもらった。いずれの参加者も事前にはしっかり準備していた様子がかがわれた。また会場では、受賞研究ごとにその内容と講評をまとめたリーフレットを配布し、発表の参考とした。



郷土館長賞「飯能の水質調査」宮本竜希さん(富士見小6年)

【講評】

水との関わりについての3年目の研究は、飯能市の川の水質を、水の色やにおい、よごれなど4つの視点から分析しています。身近にあるものを使いながら、客観的な調査データを得ようとする姿勢も素晴らしいです。さらに驚いたのは、透視度計では差が出なかったためパックテストの実施へと発展させている点です。明らかにしたいことへのこだわりが感じられます。調査結果を表現する方法も工夫され、きれいに読みやすくまとめられていて、とてもよい作品に仕上がっています。

小学3年生社会科出張授業

平成29年度は休館中のため12校・495人に出張事業を実施！

平成23年度から全面実施されている学習指導要領では、社会科の第3学年の学習内容として、
 (5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

ア 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子

イ 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事
 ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例

と定められ、これに対応するものとして、本市では「市の人々のくらしのうつりかわり」の単元がある。

当館ではこれに合わせ、例年1月から2月にかけて「むかしのくらし」展を開催し、市民学芸員とともに、①常設展示室見学(飯能の宝物=重要文化財、昔の遊びと紙芝居、西川材の中から2つを選択)、②昔の道具探しクイズ、③石臼と昔のアイロン体験、の3種類のプログラムを実施してきた。

しかし、当該年度は常設展示改装による休館のため、市民学芸員とともに学校に資料を持ち込み授業を行うこととした。内容は「昔の道具探しクイズ」は必ず実施することとし、その他、体験学習2種類(石臼・昔のアイロン体験)、常設展示の内容解説2種類(飯能の宝物・昔の遊びと紙芝居)の計4つから2つ選んでもらい、全部で3つのプログラムを各40分で実施することとした。

ただしこれらのプログラムを行うためには、例えば石臼体験だと雨や雪などの天候に左右されず、飛び散った粉を清掃できる場所、あるいは昔のアイロンの場合では、体験を行う部屋の近くに火起こしが可能な部屋を確保できることなどが条件となる。また民具などの資料の搬入は前日の午後となるため、2日間にわたって施錠できる部屋を確保する必要もある。そのため、当館での打ち合わせに加え、実際に学校の下見を行った。

今回は休館に伴う臨時の措置として出張授業という形をとった。児童に地域学習を継続して提供できた点では評価できるが、その一方で当館での開催に比べると物足りない感は否めなかった。

○平成29年度 小学3年生社会科出張授業日程一覧表

No.	実施日	学校名	会場	学級数	児童数	プログラム				開始時刻	終了時刻	時間(分)	職員数	参加市民学芸員数
						クイズ	体験学習		解説					
							石臼	アイロン						
1	1月16日(火)	美杉台小①	美杉台小	2	61	●	●	●		9:25	11:45	140	6	9
2	1月17日(水)	美杉台小②	美杉台小	1	30	●	●	●		9:25	11:40	135	5	6
3	1月18日(木)	加治小①	加治小	2	57	●	●	●		9:25	11:45	140	6	5
	1月19日(金)	加治小②	加治小	学級閉鎖のため中止										
	1月23日(火)	精明小	精明小	雪のため中止										
4	1月24日(水)	加治東小	加治東小	1	40	●	●	●		9:35	11:55	140	2	2
5	1月25日(木)	原市場小	原市場小	1	31	●	●	●		9:35	11:45	130	5	6
6	1月26日(金)	名栗小	名栗小	1	2	●	●	●	●	9:35	11:45	130	3	6
7	1月30日(火)	富士見小①	富士見小	2	61	●	●	●		9:25	11:45	140	6	8
8	1月31日(水)	西川小	東吾野小	1	5	●	●	●		9:35	11:30	115	3	4
		東吾野小		1	3									
9	2月1日(木)	富士見小②	富士見小	1	28	●	●	●	●	9:25	11:35	130	4	7
10	2月2日(金)	飯能第一小①	飯能第一小	2	66	●	●	●		9:25	11:35	130	5	6
11	2月5日(月)	双柳小	双柳小	2	53	●	●	●		9:25	11:45	140	5	6
12	2月6日(火)	飯能第一小②	飯能第一小	1	29	●	●	●		9:35	11:45	130	3	9
13	2月7日(水)	南高麗小	南高麗小	1	18	●	●	●	●	9:35	11:45	130	5	6
14	2月9日(金)	飯能第二小	飯能第二小	1	11	●	●		●	9:35	11:25	110	3	6
合計12校				合計児童数		495人		市民学芸員延べ人数				86人		

その他の博学連携事業

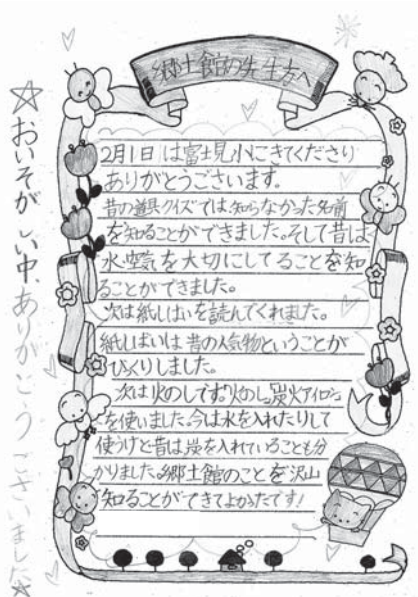
出張事業の件数は4件から9件へと倍増したものの一時的な傾向か

当該年度は、平成29年6月から休館していたため、来館しての学習や中学1年生の社会体験チャレンジ事業は受け入れることができなかった。ただし、昨年度4件にまで減っていた出張授業は9件まで回復したが、一時的なものである可能性が高い。引き続き教科学習への食い込みが課題となっている。

○平成29年度出張授業一覧

No.	実施日	学校名	学年	科目	テーマ	内容	担当	人数
1	5/31(水)	飯能第一小学校	5	総合	なんじゃもんじゃタイム 「伝えよう 飯能のまち」	「飯能のまち」の出来事、昔の文化に対し調べ学習を展開するにあたってのオリエンテーションとして、いくつかのテーマについて話をした。	宮島	112
2	6/1(木)	美杉台小学校	6	総合	縄文土器の製作体験	縄文土器について解説をしたあと、児童は実物を参考にしながら粘土で縄文土器を作成した。	村上	84
3	6/21(水)	飯能第一小学校	5	総合	なんじゃもんじゃタイム 「伝えよう 飯能のまち」	「飯能のまち」の出来事や昔の文化・生活についての15のテーマを用意し、児童はそこから興味のあるものを選び話を聞いてもらった。	尾崎 村上 引間 宮島	139
4	7/4(火)	美杉台小学校	6	総合	縄文土器の焼成体験	縄文土器の野焼き体験の指導を行った。	村上	84
5	8/29(火)	飯能第一小学校	ひまわり 学級	生活	飯能市郷土かるたのたび	飯能市郷土かるたを素材に、飯能の自慢できることについて説明した。	尾崎	15
6	10/3(火)	原市場小学校	4	社会	武蔵野鉄道	鉄道開通に対する飯能の人々の思いと、武蔵野鉄道の開通後のまちの変化について説明した。	尾崎	42
7	11/10(金)	飯能第一小学校	4	社会	武蔵野鉄道	鉄道開通に対する飯能の人々の思いと、武蔵野鉄道の開通後のまちの変化について説明した。	尾崎	109
8	11/20(月)	加治小学校	3	総合	加治の自まをみつけよう	加治地区のよいところを紹介し、児童が地域調べを行うきっかけとした。	村上	85
9	11/30(木)	飯能第一小学校	4	総合	飯能河原調べ	入間川の正式名称や昔の飯能河原の様子、昔の川遊びなどについて現地説明した。	金澤	11

合計 のべ 681人



富士見小3年生出張授業のお礼状



美杉台小学校6年総合「縄文土器の焼成体験」(7/4)

資料・施設の利用

収蔵資料の利用(閲覧・貸し出し)

10ヶ月間の休館にも関わらず、資料利用件数は平成24年度と同じ水準に。
資料利用が堅調であることを裏付ける！

一般的に博物館では、収蔵資料の貸し出しや撮影、写真掲載などは特別利用として条例や規則で定められているところが多い。そのほかアーカイブズの機能をもつ館においては、それとは別の枠組み(資料閲覧利用申請など)で対応しているようである。当館の場合は、文書を含めすべての資料の利用は、資料利用許可申請書によるものとなっている。

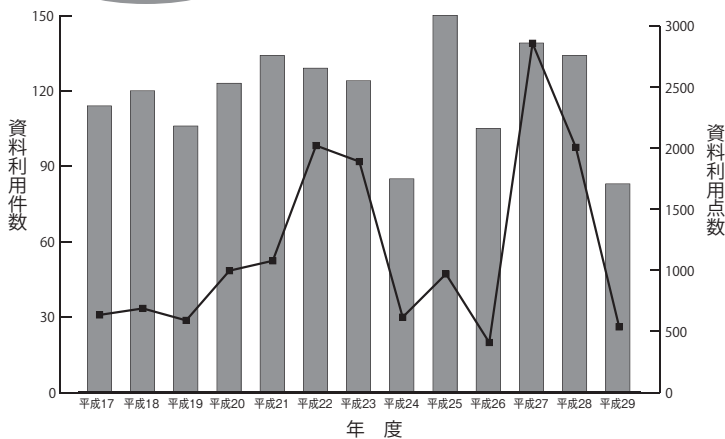
当該年度は、飯能市郷土館としては最後の年となったため、資料利用の件数、点数ともにデータのそろっている平成17年度以降の利用状況をグラフにしてみた。なお利用点数については初めての公開となる。

資料利用点数(下図折れ線グラフ)は、件数に比べると例年の変動が大きいですが、これは一般的に研究者の場合、1回の利用点数が多くなる傾向があり、その利用が多ければ年間の利用点数も大幅に増えることになるからである。平均するとこの13年間では1年あたり119件、合計1,176点の資料が利用されていることになる。また最も多かったのは、件数では平成25年度の150件、点数では平成27年度の2,858点である。

平成29年度は、常設展示改装工事のため10ヶ月にわたって休館しており、その間、学習研修室の貸し出しを行っていなかった。そのため、当館において原文書で確認しながら学習を行っている古文書同好会の利用が少なく、利用件数は前年より約50件減少し、その6割に留まった。

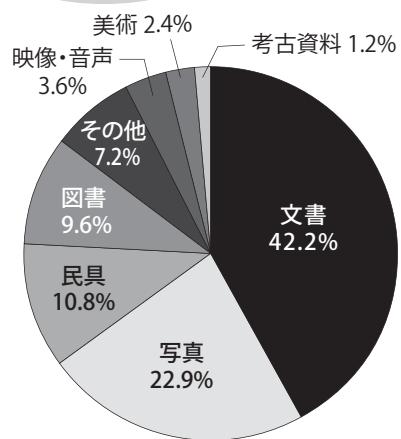
平成17～29年度の資料利用の推移

利用件数

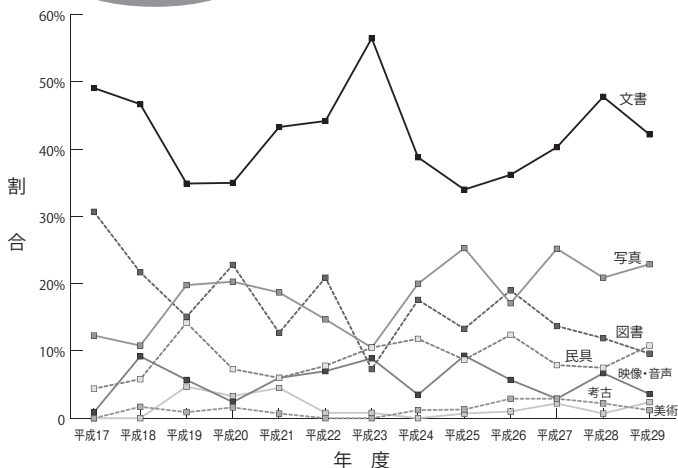


平成29年度の資料利用

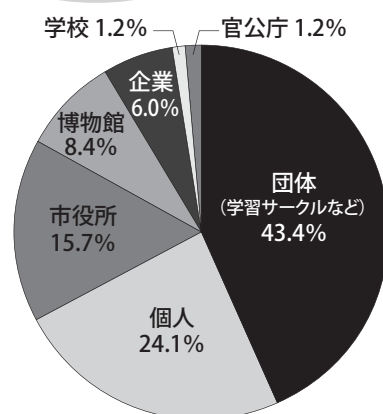
資料種別



資料種別



利用者別



○平成29年度資料利用一覧

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
1	絵図「飯能町市街図」	1	個人	飯能アッしらしー学園「私の飯能学」講座の資料	4/4
2	「太織の長着」など	3	飯能の“みんよう”保存会	みんようの会にて見せるため	4/7
3	須田省一郎家文書「安政三年辰日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	4/8
4	小槻家文書「年中行事」	1	織研ねこまた	所沢織物関係調査	4/9
5	原市場公民館文書「原市場村役場日誌」	1	富士見市立水子貝塚資料館	埼玉県内の空襲状況調査	4/11
6	写真データ「入間川上流での筏流し」など	2	合同会社カラボックス	BS-TBS「発見！にっぽんの旅」荒川の恵みを求めて(仮)番組制作	4/11
7	『中山氏と飯能・高萩』	1	個人	飯能の歴史の学習	4/12
8	『中山氏と飯能・高萩』	1	個人	飯能の歴史の学習	4/12
9	須田省一郎家文書「安政三年辰日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	4/14
10	須田省一郎家文書「安政三年辰日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	4/22
11	吉田昭二家文書「定(千住宿材木屋八人江戸仲買加入ニ付)」など	21	荒川区立荒川ふるさと文化館	千住及び江戸近郊地域の調査	4/30
12	『万葉集東歌の世界』など	2	個人	研究	5/9
13	「太織の長着」など	7	飯能の“みんよう”保存会	収蔵品展協賛事業開催	5/12
14	須田省一郎家文書「安政三年辰日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	5/13
15	「太織の長着」など	7	飯能の“みんよう”保存会	収蔵品展協賛事業開催	5/14
16	小槻家文書「年中行事」	1	織研ねこまた	所沢織物関係調査	5/14
17	須田省一郎家文書「安政三年辰日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	5/19
18	須田家文書「安政四年巳日記」(コピー)	1	古文書同好会	古文書学習教材の作成	5/26
19	写真「覧山荘(グラントから)」	1	飯能歌人会	会報「飯能歌人」発行	5/26
20	須田省一郎家文書「安政三年辰日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	5/27
21	『入間川の橋-1』など	2	個人	イラスト制作	5/30
22	写真「飯能焼瓢筆文徳利」	1	飯能市エコツーリズム市民ガイドの会	飯能市市民活動支援事業への申請	5/30
23	広報写真「商工会議所」など	4	埼玉新聞社	埼玉新聞特集「美しい星」の舞台を歩く記事作成	6/2
24	平沼誠之家文書「大工・桶屋・黒楯諸職人覚帳」など	95	個人	平沼誠之家建築調査	6/2
25	写真「飯能市立中藤小学校」など	22	原市場小学校PTA	原市場小学校統合50周年記念誌作成	6/2
26	紙しばい自転車	1	飯能市立図書館	環境フェスタで実演	6/9～6/12
27	萩野家文書「天覧山登り口東雲橋附近の景」(絵葉書)など	2	個人	飯能第一小学校3年生総合学習授業	6/19
28	須田家文書「安政四年巳日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	6/26
29	岡部とよ子家文書「秩父木炭同業組合事件演説要旨」など	80	個人	研究	7/1～
30	浅見譲二家文書「伊勢能道記」	1	個人	郷土研究	7/18
31	白田昭一家文書『四季の武蔵野』	1	(株)河出書房新社	『鉄道と観光の近現代史』刊行	8/1
32	石川信雄関係史料など	14	入間市博物館	特別展の調査	8/4
33	昭和20年飯能市域空撮写真など	4	個人	小学校の課題についての調査	8/18
34	小槻家文書「柄本内製小柄番号」など	7	飯能織物文化フォーラム実行委員会	飯能織物文化フォーラム開催	9/2
35	「飯能町市街図」など	2	個人	双柳公民館郷土史講座で講演	9/15
36	DVD「奥むさし'みんよう'物語」	1	加治東地区行政センター	加治体育祭開催	9/15～10/3
37	浅見譲二家文書「上(下書・筏稼御冥加永上納願)」など	2	荒川区立荒川ふるさと文化館	千住の材木問屋に関する史料集刊行のための調査	9/20
38	須田家文書「安政五年午日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	9/28
39	『飯能文化』9月号など	5	入間市博物館	特別展「石川組製糸ものがたり」開催	9/29～12/22
40	脱穀機など	4	飯能市役所環境緑水課	はんのう市民環境会議天覧山谷津の里づくりプロジェクト	10/6～10/10
41	CD「お手玉唄採録」	1	飯能まちなかを元気にする会	第2回飯能路地まつり・昔あそび(お手玉)実施	10/13～10/16
42	森田永雲作囃子面	10	飯能市役所地域活動支援課	平成29年度第47回飯能まつり展示	10/18～11/6

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
43	都市計画課文書「トーベ・ヤンソン氏書状」(封筒共)	4	飯能市役所子育て支援課	New Step & 20th Anniversary ～トーベ・ヤンソンあけぼの子どもの森公園～イベント開催	10/25～11/1
44	広告「絹甚蔵引札」	2	絹甚運営委員会	絹甚ホームページ作成	10/26
45	浅見謙二家文書「池田筑後守様御掛り一件」など	3	荒川区立荒川ふるさと文化館	『文化館*ブックス7 資料④ 両岸渡世向書物』発行	10/28
46	写真「飯能の町並み」など	2	若山牧水記念文学館	企画展「秩父の旅」開催	10/30
47	『武陽山能仁寺』など	2	飯能市エコツーリズム市民ガイドの会	エコツアーの実施	11/6
48	堂ノ根遺跡1号住居跡出土遺物など	3	飯能市役所生涯学習課	研究及び資料見学対応	11/9
49	写真「飯能戦争の大砲玉箱」	1	吉川弘文館	奈倉哲三ほか編『(仮)戊辰戦争2』発行	11/9
50	写真「東飯能駅」など	5	飯能市役所下水道課	はんのう生活祭におけるパネル展示	11/9
51	須田家文書「安政六年未日記」(コピー)など	2	古文書同好会	古文書学習教材の作成	11/17
52	「飯能材友会会報綴」など	3	個人	飯能の歴史の学習	11/21
53	写真「振武軍旗」など	4	飯能市エコツーリズム市民ガイドの会	小学生用読本作成	12/1
54	須田家文書「安政六年未年日記」	1	古文書同好会	コピー版の不鮮明箇所と原本確認する	12/4
55	出前講座「武蔵野鉄道」パワーポイントデータ	1	個人	エコツアーガイドの資料	12/12
56	須田家文書「安政六年未年日記」	1	古文書同好会	コピー版の不鮮明箇所と原本確認する	12/13
57	『武蔵史料銘記集』	1	個人	調査	12/18
58	羽子板など	4	飯能市民活動センター	お正月展開催	12/21～1/17
59	社寺明細帳(コピー)	1	団体	研究	12/22
60	写真「ラジオ体操」など	5	飯能市役所生涯学習課	文藝飯能第38号発行	1/4
61	写真「[筏流し]」など	2	合同会社木紡	丸広飯能店催事「西川材フェア」開催	1/10
62	須田家文書「安政七年申年日記」など	12	古文書同好会	コピーと原本の照合	1/12
63	テープ「飯能の民謡」(マスター)	1	個人	祖父松本一晴の業績に関する研究	1/13
64	須田家文書「安政7年申年日記」など	2	古文書同好会	古文書学習教材の作成	1/18
65	内田晃画「工場」	1	クリーンセンター	応接室を文化的空間とするため	1/18
66	「御殿飾り」など	2	絹甚運営委員会	飯能ひな飾り展開催	1/19～3/16
67	飯能市郷土かるた	2	加治東ふれあい広場	地域交流事業実施	2/1～2/5
68	写真「駅前通り」	1	(協)飯能銀座商店街	飯能銀座商店街リーフレット製作	2/5
69	写真「飯能河原上流での筏流し再現時の筏師」など	2	飯能市エコツーリズム市民ガイドの会	小学生用読本作成資料	2/7
70	写真「飯能焼酎草文徳利」	1	飯能市エコツーリズム市民ガイドの会	エコツーリズム教本作成	2/14
71	写真「吾野駅南側斜面崩壊状況」など	8	社会福祉法人飯能市社会福祉協議会	災害パネル作成(復興元氣市等で展示)	2/15
72	岡部好文家文書「畜生跡失届、区長事務引継届等書類綴」など	34	個人	修士論文作成	2/16
73	飯能市郷土かるた	3	飯能市役所地域活動支援課	ブレイ市高校生訪問団ミニパーティー開催	2/16～2/19
74	特別展図録「時の記憶」など	2	飯能市文化財保護審議委員会委員	「お宝スポット」の原稿作成	2/21～2/23
75	ひなまつりパネル	2	個人	飯能ひな飾り展の展示説明	2/21～4/18
76	石臼など	6	精明小学校	小学3年生の社会科体験のため	2/22～3/1
77	加藤樹家護符「金峯山牛玉御札」	1	武蔵御嶽神社	武蔵御嶽神社宝物殿特別展「近世御師の活躍とお犬様」開催	2/26～10/3
78	写真「飯能河原上流での筏流し再現時の筏師」など	4	飯能市役所生涯学習課	「お宝スポット」vol.13の発行	2/28
79	小槻家文書「柄本内製小柄番号」など	7	飯能市役所生涯学習課	文化財めぐり「飯能の産業Ⅱ～織物～」の実施	2/28
80	須田家文書「安政七年申年日記」	1	古文書同好会	コピー版の不鮮明箇所を原本で確認する	3/6
81	中村正夫家文書「岡御條目」など	68	個人	上総国久留里藩に関する調査研究	3/12
82	写真「リン」など	12	埼玉県寄居林業事務所	「埼玉県寄居林業事務所60年のあゆみ(平成編)」の作成(添付資料)	3/15
83	金剛杖	1	個人	調査	3/27

537点

施設の利用

当該年度、2ヶ月のみの開館にも関わらず、36件・429人が利用

飯能市郷土館条例施行規則第4条では、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体が、特別展示室、学習研修室及び図書室を郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用できるとしている。

平成29年度は、特別展示室・図書室の利用申請はなかった。

学習研修室の利用状況を把握するため、目的により以下の4つに分類した。

- ①地域の歴史や地域文化に関わる学習活動を行っている団体、サークルなどへの貸出(「恒常的活動」)
- ②市内の小学生や市外からの団体の見学、視察の対応や資料の閲覧(「見学・閲覧」)
- ③市役所内各課の事業での使用(「他団体の主催事業等」)
- ④当館主催の講座・学習会、市民学芸員といった交流事業など(「当館の主催事業」)

これらの件数と人数を集計したのが下の表である。

ただし、当該年度は常設展示改装のため平成29年6月1日から平成30年3月31日まで休館していたため、利用実績は例年と異なり2ヶ月分である。

○学習研修室利用実績

利用種別	年度	平成27(2015)年度		平成28(2016)年度		平成29(2017)年度	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数
団体等の利用	①恒常的活動(学習サークル)	70	1,311	68	1,151	15	303
	②見学・閲覧	14	92	22	107	2	3
	③他団体の主催事業等	8	177	10	199	2	18
	小計	92	1,580	100	1,457	19	324
④当館の主催事業		110	1,915	140	1,681	17	105
合計		202	3,495	240	3,138	36	429
年間利用日数		174日		223日		52日	

社会教育機関としては、学習サークルによる恒常的な学習活動が多様に展開されることが望ましく、その育成、支援も重要な役割であるが、学習サークルによる利用回数・人数は、ここ数年漸減傾向にある。ただし、市民学芸員のように、市民の学習活動の受け皿を当館が事業として用意している場合や、飯能市エコツアーズ活動市民の会のように、当館を活動の拠点

とはしていない団体の利用もあり、当館に関わる市民の学習活動のあり方は、上記の実績だけでは測ることができない面もある。

なお、当該年度、開館していた2ヶ月間における学習研修室の利用率(日単位)は63.5%であった。利用率は平成27年度が58.0%、平成28年度が75.9%と推移している。

○平成29年度末現在で活動している学習サークル

団体名	会員数	活動日	目的	代表者名	設立
古文書同好会	20	毎月第1・第3土曜日 第2金曜日	飯能市内の古文書の解説と時代背景の研究及び活字化	中里和夫	平成3(1991)年4月
多聞の会 (仏教美術学習会)	23	毎月第3木曜日	仏像・仏画・仏教建築など仏教及び仏教美術について広く学習する。	綾部光芳	平成6(1994)年11月
石仏談話会	9	第2土曜日(年数回)	石仏を通してその時代背景や歴史、文化を学ぶ。	浅見初枝	平成7(1995)年1月
飯能郷土史研究会	69	年6回の例会	郷土の歴史を研究し、市民文化の進展に寄与する。	坂口和子	昭和48(1973)年7月
飯能の“みんな”保存会	26	不定期	民踊をとおして心身の健康を高めるとともに、見聞を広め、郷土の文化を継承する。	石井英子	平成8(1996)年

レファレンスの対応

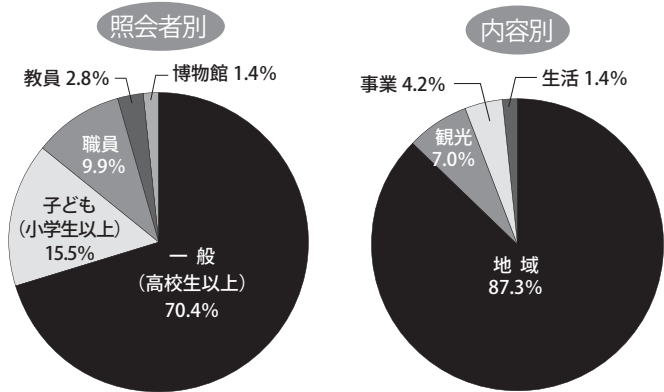
レファレンス対応件数は、休館の影響により前年度比55%減の94件に
一方で対面でのレファレンスを求める需要が高いことも浮き彫りに！

当該年度は、平成29年6月から平成30年3月までの休館期間中、常設展示の見学や学習研修室などの施設の利用はできなかったが、レファレンスは、窓口や電話で引き続き受け付けていた。ただし、休館期間中は、月曜日から金曜日までを職員の出勤日とし、土・日を休日としていた。窓口は開いていたとはいえ、休館は10ヶ月にも及んだため、件数はここ数年と比較した場合、半分以下の94件にとどまった。内訳は、窓口が49件、電話が22件で、残りは、調査が必要で回答に時間がかかった場合に記録している「レファレンス対応記録票」に記入した23件である。

また窓口での1件あたりの対応時間の平均は9.9分、電話は4.4分であった。

下の「平成18～29年度レファレンス対応件数の推移」グラフを見てみると、窓口における問合せ件数が前年度の約1/3となっていることがわかる。この差は休館に伴う窓口への来訪者の減少が大きな要因と考えられ、このことは、通信手段としてのメールの利用が当たり前の現在にあっても、常に学習や調査の支援を対面で行うことの重要性を示している。あわせて展示を見に来た方がついでに訊ねていくことが多いこともうかがえる。

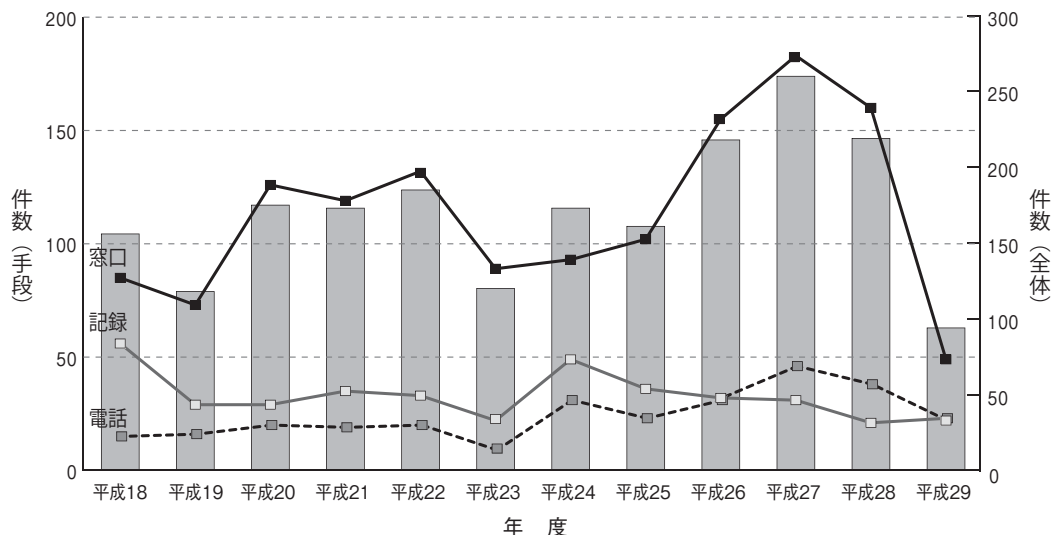
レファレンスは、その対応によっては利用者の満足度を高めることができ、博物館への親しみや信頼性、ひいては存在価値を認識してもらうことにもつながる。今後も真摯に取り組んでいく必要がある。



○レファレンス対応平均、最長時間一覧

年度	窓口		電話	
	平均(分)	最長(分)	平均(分)	最長(分)
平成23	8.5	40	7.3	20
平成24	7.4	40	6.3	15
平成25	6.8	30	5.7	30
平成26	8.4	45	8.8	30
平成27	6.6	20	8.1	25
平成28	7.0	45	7.6	30
平成29	9.9	35	4.4	10
平均	7.8		6.9	

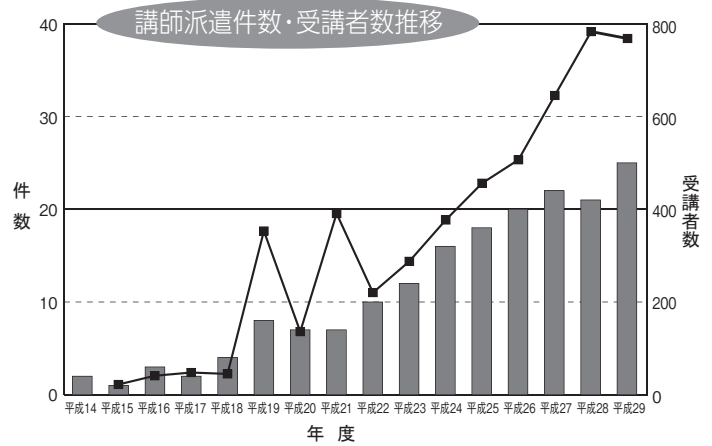
平成18～29年度レファレンス対応件数の推移



平成29年度、講師派遣の件数は過去最高の25件を記録！

当館には、市内の自治会や学習団体をはじめ、市役所の各機関などから講師派遣や原稿執筆の依頼がある。こういった講師派遣の件数や依頼内容も、地域の歴史・文化を調査・研究する機関としての当館の存在価値を測る、バロメーターの一つと考えられる。平成29年度は、前年度と比較し参加者数は若干減少したものの、全体としては増加傾向が続いている。

なお、講師派遣のうち学校からのものは「博学連携」の出張授業の項(32頁)に掲載した。



○平成29年度講師派遣一覧

No.	実施日	時間	依頼機関	内容	対象者	人数	会場	担当学芸員
1	4/6(木)	13:00~14:55	㈱加藤建設工業	出前講座「飯能市の地理と歴史」	新入社員ほか	9	(株)加藤建設工業本社	尾崎
2	4/12(水)	14:05~15:05	JAIいるま野女性部吾野支部	出前講座「武蔵野鉄道開通」	JAIいるま野女性部吾野支部会員	20	JAIいるま野吾野支店	尾崎
3	4/29(土)	14:00~16:05	武州世直し一揆の会	出前講座「武州世直し一揆(フィールドワーク)」	武州世直し一揆の会会員	8	中央地区行政センター	尾崎
4	5/31(水)	13:00~13:30	飯能ロータリークラブ	卓話「これだけは知っておきたい飯能の歴史」	飯能ロータリークラブ会員	55	ヘリテージ飯能Sta.	尾崎
5	6/4(日)	10:00~11:00	上白子・下白子自治会自主防災会	出前講座「過去の土砂災害からの教訓ー明治43年の“大水”を中心にー」	防災訓練参加者	31	上白子自治会館	尾崎
6	6/7(水)	9:40~10:20	ふれあいサロン笠縫	出前講座「飯能の「山上の霊地」	ふれあいサロン笠縫参加者	40	笠縫自治会館	村上
7	6/8(木)	9:28~10:32	駿河台大学経済経営学部	出前講座「飯能の地理と歴史」	駿河台大学経済経営学部1年生	73	駿河台大学	尾崎
8	6/11(日)	10:30~11:30	本郷自主防災会	出前講座「土砂災害の現状と日頃の備え」(危機管理室と共催)	本郷自主防災会	96	本郷自治会館	尾崎
9	6/12(月)	10:45~11:50	退職者公務員連盟	出前講座「武蔵野鉄道開通」	退職者公務員連盟	19	富士見地区行政センター	尾崎
10	6/15(木)	18:30~19:25	東吾野公民館	出前講座「過去の土砂災害からの教訓ー明治43年の“大水”を中心にー」	講座参加者	17	東吾野地区行政センター	尾崎
11	6/21(水)	18:30~19:30	エコソリズム市民ガイドの会	出前講座「うちおり」と絹の里、飯能	参加者	25	富士見地区行政センター	村上
12	7/4(火)	9:20~10:50	駿河台大学学芸員養成課程	博物館実習講義「地域博物館の实情についてー館報から読み解く飯能市郷土館の特色ー」	受講者	4	駿河台大学メディアセンター	尾崎
13	7/25(火)	15:15~16:55	飯能市役所職員課	技能労務職員研修「知って楽しい！飯能市の歴史」	飯能市役所技能労務職員	17	市役所別館	尾崎
14	7/27(木)	14:45~16:30	美杉台公民館・南高麗公民館	宿泊体験合宿「飯能市郷土かるた」	参加者	34	美杉台地区行政センター	宮島
15	8/2(水)	10:30~11:10	ふれあいサロン笠縫	出前講座「加治地区の災害史」	ふれあいサロン笠縫参加者	37	笠縫自治会館	尾崎
16	8/22(火)	14:10~15:45	南高麗小学校	南高麗小・中学校合同研修会「南高麗地区の歴史」	南高麗小・中学校教職員	18	南高麗小学校	尾崎
17	9/17(日)	9:40~10:30	第二区公民館	出前講座「土砂災害の現状と日頃の備え」(危機管理室と共催)	小瀬戸自主防災会	101	第二区行政センター	尾崎
18	9/25(月)	10:00~11:30	出前講座で学ぶ会	出前講座「飯能市の歴史」 「西川林業の道具～森林文化の遺産～」	講座参加者	10	中央地区行政センター	尾崎引間
19	10/21(土)	14:00~16:00	退職校長会	「資料が語る・繋ぐ地域の姿～古文書史料を中心に～」	退職校長会	23	市立図書館	金澤
20	11/25(土)	10:30~12:00	中藤中郷自治会	出前講座「中藤中郷自治会文書から見えてくる高麗(入間)郡中藤村(上)ー中郷を中心とした近世後期～近代～」	中藤中郷自治会	28	中藤中郷自治会館	池田
21	12/5(火)	10:00~12:00	持ち寄りサロン	出前講座「武蔵野鉄道&西武鉄道 いつからどうしてわが街飯能に？」	持ち寄りサロン参加者	22	総合福祉センター	金澤
22	12/15(金)	11:30~12:10	入間市博物館	「飯能市郷土館の常設展示リニューアルについて」	入間市博物館協議会	14	入間市博物館	尾崎
23	2/26(月)	10:00~11:07	出前講座で学ぶ会	出前講座「土砂災害の現状と日頃の備え」(危機管理室と共催)	講座参加者	8	中央地区行政センター	尾崎
24	3/16(金)	9:30~15:30	埼玉県立嵐山史跡の博物館	文化財めぐり3「丹党加治氏の遺跡を巡る」	講座参加者	29	能仁寺、智観寺ほか	村上
25	3/25(日)	13:00~14:00	上直竹下分自治会	出前講座「土砂災害の現状と日頃の備え」(危機管理室と共催)	上直竹下分自治会	35	上直竹下分自治会館	尾崎

合計のべ人数 773人

収 集

当館の資料収集は、そのほとんどが市民からの寄贈によるものである。寄贈の申し出をいただいた場合、その資料を一度実見し、当館の収集方針に照らして受領するかお断りするかを判断している。当年度は42件の寄贈を受けた。

また、本市域の歴史や文化に関わる資史料のうち、特に貴重な物の劣化・散逸を防ぎ、後世に伝えていくため、所有権を所蔵者に残したまま当館でお預かりする寄託も行っている。当年度1件の寄託を受け入れ、受託資料は58件となった。受託期間は原則2年間である。

寄贈資料

○平成29年度寄贈資料一覧

(敬称略)

番号	資料名	点数	寄贈者名
1	『やまぶき』(埼玉北西部の和算研究の個人通信)	1点	山口 正義
2	消防署望楼写真	1点	荻野 和雄
3	斧、ガラス瓶、定規など	7点	中村 桂子
4	絵馬	1点	石森 雅之
5	練炭おこしなど	23点	清水 實三
6	中谷孝雄資料(追加分)	79点	富谷 フサ子
7	皿ほか	4点	阿部 節子
8	『八王子織物史 上巻』	1点	池田 昇
9	古文書	1包	山岸 光江
10	葦名芳夫関係資料	1式	葦名 次夫
11	絵はがき	2点	佐野 修一
12	『武蔵野』第22巻第5号、リーフレット「天覧山(多峯主山)遊覧コースご案内」	2点	牛米 努
13	『東吾野写真誌』など	6点	野村 治
14	消防用具(消札など)	6点	三社上下自治会
15	美也比會第三十八回句集	1点	大野 明
16	精明小空撮写真(1974年)	1点	柳戸 英治
17	軍票など	7点	本間 凌子
18	聖徳太子掛軸	1点	名栗建技会
19	『加治郷土誌 続編 加治の今昔』、『加治の今昔』など	3点	山崎 修二
20	国道299号台・飯能開通式典など写真データ(CD)	1点	萩原 昭平
21	旧名栗村広報写真ネガフィルム	5箱	飯能市役所情報戦略課
22	『平沼専蔵・その正義道』	1点	吉田 靖
23	『飯能の絵馬』	1点	栗原 宏之
24	長着、アンサンブル	2点	嶋崎 季子
25	台紙付写真、写真プリント、台紙付写真を入れる封筒、肖像画の写真プリント	12点	下名栗諏訪神社氏子 総代
26	古文書、軸装	1式	井上 喜市
27	『わが町の建築遺産 飯能市に残るもの残すもの』	1点	荻野 和雄
28	武蔵野鉄道定期乗車券(天覧山～吾野)、卒業記念写真帖(埼玉県立飯能高等女学校)、郵便貯金通帳	3点	島村 とき子
29	「入間第二用水土地改良区概要」	1点	須田 輝子
30	『夏の虫 夏の花』	1点	原田 恵子

番号	資料名	点数	寄贈者名
31	ソフィア・ヤンソン(Sophia Jansson)氏書状	2点	飯能市役所地方創生推進室
32	『彰義隊十四番隊長比留間良八を追って』	1点	比留間 英雄
33	『小川町の歴史別冊-絵図で見る小川町』、『村むらから見た里山の自然と人びとの暮らし』	1点	岡登 伸一
34	飯能まつり山車部会當番町提灯	2点	飯能まつり協賛会山車部会
35	『昭和のすぐれもの図鑑』など	5点	原田 恵子
36	DVD「説経節講演 飯能の嵐」・渋沢平九郎自刃の段	1点	大野 哲夫
37	飯能青年団第二区文書	1箱	第二地区行政センター
38	「飯能現代ご当地資料集」	1点	加藤 寛之
39	トウグワ、金剛杖、茶碗	3点	佐藤 久美子
40	『中山から生まれた飯能の歴史』	1点	吉田 靖
41	古文書(町田福人家文書)	1箱	町田 洋二
42	かべの長コート	1点	石井 英子

購入資料

平成29年度に下記の資料を購入した。

(資料名) 武蔵野電車御案内 1点 たて21.3cm×よこ72.9cm



武蔵野電車御案内 (部分)

武蔵野電車とは、西武池袋線の前身にあたる武蔵野鉄道のこと、その沿線案内である。片面が武蔵野鉄道沿線の地図、反対面は、「電車賃金表」のほか、「クーポン式遊覧券」、「季節遊覧御案内」、「行楽郷」、「スポーツ場」、「神社・仏閣・

名所・旧跡」、「温泉・渓谷・山岳」、「沿線の住宅地」を掲載している。昭和8年4月1日開業の稲荷山公園駅があり、昭和13年に営業を開始する正丸峠厚生道場が記されていないので、下限は同年上半期と思われる。

整理(情報化)

1,664点の資料をカード化
うち古文書は収蔵資料目録発行のための1500点以上を整理！

当館が収集した飯能市の歴史や文化に関する様々な「モノ」は、そのままでは博物館の資料とはなりません。整理とは、資料について価値ある情報を抽出し博物館資料として利用可能なものとする作業で、この過程では様々な記録が作成される(ドキュメンテーション)。

当館では、紙媒体の資料カードを基本とし、それに記載された情報の一部をPC上の目録に入力し検索の手段としていたが、平成29年10月より早稲田システム開発株式会社が提供する館内案内システムを含むクラウド型収蔵品管理システム「I.B.Museum Saas」導入した。今のところ紙媒体の資料カードは従来通り作成する予定であるが、既に当館で既存のデータベースソフトを使って管理している文書や写真資料以外は、このシステムによる収蔵資料管理へと移行することになる。

○当館収蔵資料の概要と点数

種別	資料の概要	収蔵点数
民具 (民俗資料)	人々が生活の必要から製作、使用してきた一切の道具で、埼玉県指定有形民俗文化財「飯能の西川材関係用具」などがある。他の分類に属さない資料もここに含めている。	5,784
古文書	紙に文字、記号、図像などが記録されている資料で典籍含む。ただし護符は民具に分類されている。	52,425
古写真	台紙付写真、紙焼き写真。個人や機関所蔵写真の複写物も含む。	6,068
絵画	軸装、額、屏風などに仕立てられた日本画及び白木正一、早瀬龍江、富山芳男、内田晃、小島喜八郎など本市に在住もしくはゆかりのある画家の油彩、デッサンなど	447
工芸	飯能焼(市指定文化財双木本家飯能焼コレクションなど)、刀剣、金工など	277
文学	詩人蔵原伸二郎、俳人石田波郷らの直筆短冊、軸装など	29
考古	飯能焼原窯表採資料、板碑など	1,764
映像	本市の機関が製作した映像作品のほか当館の調査や事業の記録映像など	268
音声	レコード及びテープ	1,013
図書	他の博物館が発行した図録、報告書、要覧のほか自治体史、本市の行政刊行物など。図書室に開架している一般書も含む。	17,272
合計		85,347

*収蔵資料点数は、平成30年3月現在のカード作成もしくは目録登録済の点数。「絵画」は、絵画と古美術、「音声」は、レコードとテープを合わせた点数である。

●資料整理の概要

当年度は、民具41点、古文書・典籍1,523点、古写真100点の整理を行った。

このうち、古文書は右表にある史料群の整理を行った。文書や写真は受け入れ点数が多く、かつ1点ごとに学芸員が内容を確認しその概要を記しているため時間がかかり、整理も滞りがちである。省力化できる作業ではないので、1点でも多く資料に向き合えるよう日々努力しているところである。

●収蔵資料目録(収蔵文書その3)

「南村岡部家・北川村浅海公介家文書」の刊行

当館としては8冊目となる収蔵資料目録は、文書目録としては平成27年度刊行の「原市場地区諸家文書目録」に続くものである。収録したのは、武蔵国秩父郡南村岡部家文書と北川村浅海

○平成29年度文書整理実績

史料群名	整理点数	区分	受入年度
岡部家(南)	968	再	—
浅海公介家(北川)	536	託	平成27(2015)
佐野敏夫家(久下分)	1	新	平成28(2016)
萩野家(飯能)	13	新	平成28(2016)
大野明家(中藤中郷)	1	新	平成29(2017)
出所不明	2	新	平成29(2017)
飯能市シルバー人材センター	1	新	平成28(2016)
水道業務課	1	新	平成13(2001)
合計	1,523		

*新=新規受入(未整理分) 再=既収蔵の再整理 託=寄託

公介家文書計1,504点である。なお、本書には2つの史料群と、同じ秩父郡の坂元村に所在し当館に寄託されている采澤菊平家文書から選んだ10点の文書の翻刻、解説、現代語訳を巻末に付けた。

●資料の保全

①映像資料のメディア変換

前年度に続き、VHSやベータなど磁気テープに記録された映像記録10本のデジタル化(メディア変換)を、株式会社金聖堂情報システムに委託して行った。

②新聞の脱酸と複製製作

当館で収蔵している新聞資料のうち、「埼玉新報」(大正4年4月18日分)、「メガホン」(飯能町報道委員会発行)、「飯能時報」、「元加治分村期成同盟会報」など10点は、酸性化が進み料紙が茶

色くなっている状況であった。そこで全体をクリーニングし、損傷している箇所を和紙と正麩糊を使って補修した後、ブックキーパー法によるスプレー脱酸を行った。

また、「埼玉新報」は、武蔵野鉄道開通を伝える記事が掲載されており、新しくできる歴史展示室の展示資料とするため、ジグレー技法による複製製作を行った。委託先はいずれも有限会社東京修復保存センターである。

保 存

●新収蔵資料の燻蒸など

当館では、新規に収集した資料を対象としビニールシートで覆う被覆燻蒸を年1回、1階の荷解室にて実施している。

平成29年度の燻蒸は、常設展示改装工事による休館が始まって間もない6月に実施した。6月6日(火)午前9時から投薬を開始し、8日(木)午前9時まで48時間燻蒸処理をし、その後排気を

行った。使用薬剤はエキヒュームSである。

また、名栗民俗資料保管庫(旧名栗村森林組合事務所)では、ブンガノンを用いての殺虫燻蒸を行った。9月22日(木)午前10時から噴霧を開始し、4時間充填放置したのち排気を行い、午後4時に終了した。

いずれも委託先は有限会社環境技術である。

●当館・名栗村史料保管室の環境調査

当館では、収蔵資料に劣化をもたらす虫菌類の有無を調べるための環境調査を年2回実施している。対象となるのは、特別収蔵庫・一般収蔵庫・収蔵庫前室・荷解室・常設展示室・特別展示室・展示ホールで、昆虫生息調査55ヶ所(歩行性昆虫トラップ48・飛翔性昆虫トラップ7)、空中浮遊菌調査8ヶ所、表面付着菌調査が5ヶ所である。前年度より歩行性昆虫トラップを4ヶ所(一般収蔵庫2階積層棚)飛翔性昆虫トラップを1ヶ所(特別展示室)多く設置した。また名栗地区行政センター2階にある名栗村史料

保管室では、昆虫生息調査12ヶ所(歩行性昆虫トラップ10・飛翔性昆虫トラップ2)、空中浮遊菌調査2ヶ所、表面付着菌調査が2ヶ所である。

平成29年度は1回目を5月12日(金)から5月31日(水)まで、2回目を11月1日(水)から11月20日(月)までの期間で実施した。粘着性トラップによるカツオブシムシの捕獲が、一般収蔵庫、常設展示室で確認され、これらの場所について経過観察を行ったが、資料への被害は確認されなかった。

当該調査は有限会社環境技術に委託して実施した。

●歴史公文書の収集と保存

当館では、飯能市文書管理規則第34条及び飯能市教育委員会文書管理規程第2条に基づき、廃棄対象となった公文書のうち、歴史資料として重要と評価した文書の収集を行っている。

当年度は、各所管課で廃棄決定された文書の

選別作業を1月6日(土)から2月28日(水)にかけて実施し4日間で28箱分を収集した。廃棄文書に対する比率は1.9%であった。選別した文書は、旧図書館の地下書庫へ移動した。

調査・研究

当該年度は、常設展示改装工事を実施したため、それに関わる調査を中心にまとめた。常設展示改装に関わる調査以外では、資料寄贈に関わるものとして、昔の生活道具などの調査を12件、写真資料調査を1件、古文書所在調査を1件実施した。その他、特別展開催に関わるものとして、説経節の片瀬人形調査も行った。

常設展示改装に関する調査(歴史・運営視察など)

4/1	荒牧澄多氏と大通りの模型打ち合わせ	9/27	君津市久留里写真撮影
4/14	瑞穂町郷土資料館けやき館視察	9/29	小槻成克氏宅(飯能まつり調査)
5/6	埼玉県立文書館(周辺町村人口データ調査)	9/29	二丁目山車小屋(「中町」資料調査)
5/24	高尾山・御嶽ビジターセンター視察	10/1	智観寺中山信吉墓写真撮影
5/27	明治大学図書館ほか(中山家範事績調査)	10/1	建造物配置写真撮影、小槻成克氏に図面確認依頼(大通り)
6/1	埼玉県寄居林業事務所(杉苗・種調査)	10/8	智観寺中山信吉墓写真撮影
6/8	学習院大学史料館(上名栗町田家文書調査)	10/14	大通り建造物調査(模型)
6/19	諏訪八幡神社・能仁寺写真撮影	10/18	大通りの模型解説パネル写真撮影
6/23	坂戸市平田家(中山家範関係文書調査)	10/19	市野彰俊氏宅(模型)
6/27	生田緑地視察	10/21	川越市立博物館・小能家調査(模型)
7/4	小槻成克氏宅(飯能まつり調査)	10/23	大字中山・地域の遺産写真撮影
8/7	田口家店蔵測量調査(模型)	10/24	智観寺ほか写真撮影
8/14	大通り建造物調査(模型)	10/26	智観寺調査(地域の遺産)
8/25	埼玉県立自然の博物館・川の博物館視察	11/3	大字中山(地域の遺産)
8/25	小能家調査(模型)	11/4	飯能まつり写真撮影
8/30	荒牧澄多氏と大通り調査	11/9	大通り建造物調査(模型)
8/30	社会福祉協議会大野事務局長(炭問屋)	11/16	平沼家調査(絹織物)
9/9	大通り建造物調査(模型)	11/19	能仁寺黒田氏代々墓写真撮影
9/20	智観寺(板碑複製製作)	12/3	大通り建造物調査(模型)
9/20	常楽院(木造軍荼利明王立像複製製作)	3/9	平沼家調査(絹織物)
9/26	智観寺写真撮影		



大通りの歴史的建造物



久留里城(千葉県君津市) 手前は旧天守台

常設展示改装に関する調査(自然)

4/14	マップ植生調査①(天覧山～谷津田)	9/21	自然調査(御岳入り～谷津田)
4/19	ジオラマ植生調査①(大字飯能～山手町) マップ植生調査②(本郷入り～雨乞いの池)	9/25	タカの渡り調査(天覧山)
4/20	マップ植生調査③(太郎坊～多峯主山)	10/4	パネル写真撮影(天覧山～谷津田)
4/21	マップ植生調査④(御岳・本郷入り境～谷津田)	10/11	モニタリングサイト1000植物調査(天覧入り～東谷津トラスト地)
4/23	ジオラマ植生調査②(大字大河原)	10/27	秋の自然講座現地調査(中央公園・天覧山)
5/11	モニタリングサイト1000植物調査(天覧入り～東谷津トラスト地)	11/4	モニタリングサイト1000カヤネズミ調査(天覧山)
5/23	ジオラマ植生調査③(大字永田)	11/30	自然調査(天覧入り～本郷)
5/27	ジオラマ植生調査④・建物調査①(大字大河原・稲荷町・久下)	12/6	自然調査(御岳・本郷入り境～天覧山)
6/6	ジオラマ建物調査②(大字大河原)	12/11	モニタリングサイト1000植物調査(天覧入り～東谷津トラスト地)
6/7	ジオラマ植生調査⑤(大字大河原)	1/11	モニタリングサイト1000植物調査(天覧入り～東谷津トラスト地)
6/8	ジオラマ植生調査⑥(大字大河原・入間川)	1/14	久津間文隆氏、正田浩司氏と「身近な自然コーナー」標本採集
6/11	モニタリングサイト1000植物調査(天覧入り～東谷津トラスト地)	2/11	モニタリングサイト1000植物調査(天覧入り～東谷津トラスト地)
6/16	ジオラマ建物調査③(大字飯能～山手町)	2/13	「身近な自然」コーナージオラマ現地調査
6/23	自然調査(天覧入り～天覧山)	3/11	モニタリングサイト1000植物調査(天覧入り～東谷津トラスト地)
7/2	モニタリングサイト1000カヤネズミ調査(谷津田)		
7/11	モニタリングサイト1000植物調査(天覧入り～東谷津トラスト地)		
7/11	ジオラマ植生調査⑦(龍崖山)		
7/12	ジオラマ植生調査⑧(龍崖山)		
8/11	モニタリングサイト1000植物調査(天覧入り～東谷津トラスト地)		
8/22	自然調査(本郷入り～天覧山)		
9/8	タカの渡り調査(天覧山)		
9/8	秋の自然講座現地調査(中央公園・天覧山)		
9/11	モニタリングサイト1000植物調査(天覧入り～東谷津トラスト地)		
9/15	自然調査(天覧入り～本郷・御岳入り境)		



カヤネズミ調査

古文書所在確認調査・古文書詳細調査

古文書所在確認調査は、古文書等を所蔵している家、機関を訪問してその保存状況や内容等を把握することを目的としている。合わせて所蔵者と今後の保存のあり方について協議し、現地保存を原則としつつも、場合によっては寄託や寄贈を提案することも行っている。当年度は吉野玄之助家(下畑)を対象に実施した。

また古文書詳細調査は、当館で所蔵、もしくは

は受託している史料の翻刻や内容分析、及び特定のテーマを設定して関係史料の調査を実施するものである。当年度は、前年度に引き続き池田昇氏(元日の出町史編さん担当職員)にお願いし、武蔵国高麗郡唐竹村鈴木晃家、さらに受託史料である岩田陽一家文書(高山)の整理及び内容分析を行った。

刊行図書



- 常設展示図録「飯能市立博物館展示ガイドブック」
A 4判118頁(平成30年3月31日発行)
- 収蔵資料目録8(収蔵文書目録その3)「武蔵国秩父郡南村岡部家・北川村浅海公介家文書目録」
A 4判122頁(平成30年3月20日発行)
- 飯能市郷土館報「郷土館のプロフィール」第14号
A 4判76頁(平成30年3月29日発行)

ホームページ・フェイスブック

●ホームページ

トップページのアクセス件数は、昨年度と比して2,500件の減少となった。主な要因としては、「郷土館日誌」や「麦づくり日記」といった日常的に更新していたページが新システムへの移行に伴って削除されたことで、定期的にホームページを見る人がいなくなったことが考えられる。また、常設展示リニューアルに伴い今年度は6月から10か月にわたり休館していたため、ホームページから展示や講座などの情報を得る人が減少したのも原因の1つであろう。その一方で、名称変更および愛称募集について掲載したページには1か月で1,255件のアクセスがあった。これはトップページの月平均アクセス数を大幅に上回る数字であり、リニューアルに対する関心の高さを表わしているといえよう。

●フェイスブック

当館では、より多くの方に当館の活動を知ってもらい、親しみを持ってもらうために、学芸員・博物館の日常や市民学芸員(麦作文化探求型)の活動をフェイスブックにて発信している。休館期間中の館内の様子など41件の記事をアップロードした。

○平成29年度

ホームページアクセス件数

月	トップページ件数
4月	690
5月	659
6月	547
7月	592
8月	786
9月	661
10月	534
11月	513
12月	682
1月	740
2月	955
3月	1,390
合計	8,749
1ヶ月平均	729.1

That's! 郷土館

「That's! 郷土館」は、地元のケーブルテレビである「飯能・日高テレビ」で毎月発行している番組表にスペースをいただき、毎回地域の歴史、文化を紹介しているものである。

この内容は、平成18年4月分より当館のホームページにて閲覧が可能となっている。当該年度の掲載内容は表のとおりである。

○平成29年度「That's! 郷土館」掲載記事一覧

月	内 容	担当学芸員
4月	なぞの多い精明学校	宮島
5月	14歳で講義をしていた飯能の女傑、田中かく	尾崎
6月	飯能の富士山とその信仰～飯能市大字上直竹下分の富士山～	村上
7月	(休み)	
8月	清潔で快適な暮らしのために～飯能町衛生組合の活動～	宮島
9月	幻の高麗郡役所	尾崎
10月	縄文の精霊か？またまた女神か？	村上
11月	(休み)	
12月	一橋家による人足徴発	尾崎
1月	杉皮葺きの商家が立ち並ぶ飯能の町並み	尾崎
2月	(休み)	
3月	節目には「軍荼利」さん-木造軍荼利明王立像-	引間

事業支援

平成28年から37年までの飯能市第5次総合振興計画において、まちづくりの基本理念の1つとして「魅力・交流・賑わい創造と経済の好循環」が掲げられ、「古くから培われてきた本市の歴史や伝統、文化などの地域資源を、本市の単なる特性として継承してだけでなく、更に個性を引き出し、新感覚で新たな魅力創造へのステップアップを図る」としている。

こうした理念のもと、市役所内の様々な課所が地域資源を活用し、ブランド化をはかり、シビックプライドを醸成する事業を行っているが、これらの事業には、当館がもっている地域の歴史・文化情報が不可欠である。これらの動きはともすると歴史文化情報資源の「使い捨て」にもつながりかねず注意が必要であるが、一方で歴史博物館の存在意義を庁内で広く認識してもらうまたとない機会ともとらえられる。

以上の視点から、地域の魅力を発信し、ブランドづくりにつながる事業の支援も当館の業務として位置づけ、積極的に取り組んでいる。平成29年度は以下の4件である。このほか飯能市景観計画策定にあたり、担当の建築課と協議を行った。

○平成29年度「事業支援」実績

	支援先	利用期間	内 容
1	名栗地区行政センター	6/18	名郷味市において、ふるさと会館のロビーに名郷地区の写真を展示することに対する支援。
2	地域活動支援課	8/16～	市民活動センターに移設した旧東飯能駅・構内模型の解説パネル作成を支援。
3	名栗地区行政センター	9/24	「なぐり見聞食ぶらさんぽ」において、名栗地区行政センター内名栗くらしの展示室の案内
4	名栗地区行政センター	11/12	「なぐり見聞食ぶらさんぽ」において、名栗地区行政センター内名栗くらしの展示室の案内

郷土館協議会

郷土館協議会は、飯能市郷土館条例第10条に基づき、当館の運営に関する事項を調査し、審議するために置かれている。委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、学識経験者から成る10人以内の委員によって構成され、任期は2年である。

任期：平成28年7月1日～平成30年6月30日

【委員名簿】

職名	氏名	役職	備考
会長	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	
副会長	栗原 慶子	東吾野女性林研ときめ木 会長	
委員	伊藤 誠	飯能第一小学校長	
委員	新井 均	吾野中学校長	平成29年3月31日退任
委員	岡野 民嗣	吾野中学校長	平成29年4月1日就任
委員	杉田 和美	学童保育なぐりっ子クラブ指導員	
委員	井上 淳治	(有)創林 代表取締役	
委員	野村 正弘	駿河台大学教授	
委員	小槻 成克	市文化財保護審議委員会委員	
委員	馬場 憲一	法政大学教授	
委員	平良 宣子	元毛呂山町歴史民俗資料館学芸員	

【開催状況】

第1回 平成29年5月30日(火)

午後2時～3時30分

(議 事)

協議事項

- ・平成28年度事業報告について
- ・平成29年度主な事業予定について

第2回 平成29年8月29日(火)

午後2時～3時

(議 事)

協議事項

- ・飯能市郷土館の新たな運営方針などについて

第3回 平成30年2月27日(火)

午後2時～4時

(議 事)

協議事項

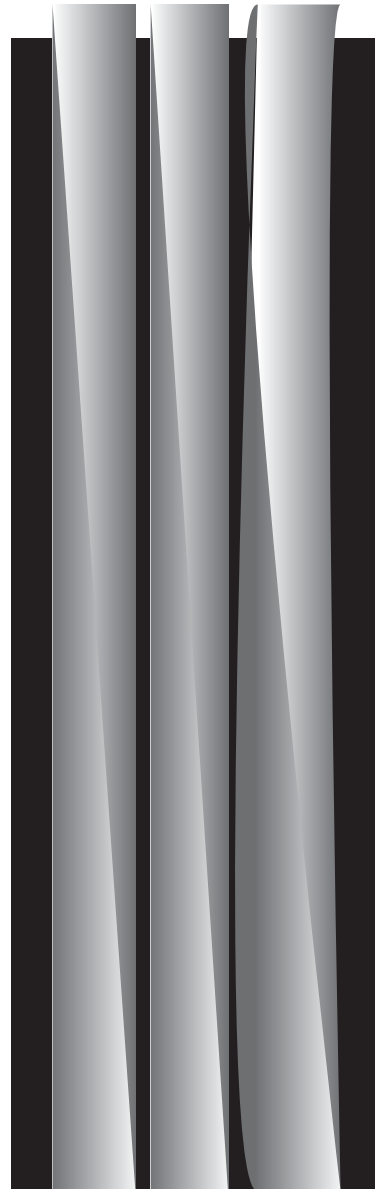
- ・飯能市立博物館リニューアルオープンについて
- ・飯能市立博物館の使命(ミッション)(案)について
- ・飯能市立博物館の愛称選定について
- ・平成30年度事業計画について
- ・飯能市立博物館のロゴマークについて
- ・その他



第 3 章

…… Chapter 3 ……

【常設展示改装】



●常設展示改装工事の経緯

平成29年度は、常設展示改装工事を6月21日から12月28日にかけて行った。常設展示改装については、前年度に飯能河原・天覧山周辺の自然のビジターセンター的機能が加わることが決定していたため、新たな運営方針を郷土館協議会に諮問し、答申していただいた。そしてその中にリニューアルオープンに合わせ飯能市郷土館から飯能市立博物館へと名称変更を行うこと、博物館の愛称を募集することなどが盛り込まれた。

そこで常設展示改装工事と並行して、飯能市郷土館条例の一部改正を行うために必要な事務手続や飯能市立博物館の愛称募集・選定することに加え、展示設計を担当した業者に委託して飯能市立博物館の新たなロゴマークも製作した(15頁参照)。また名称変更に伴い、周辺の道路に設置された誘導看板や当館敷地内の看板、北側外壁の館名文字等の変更工事も実施した。

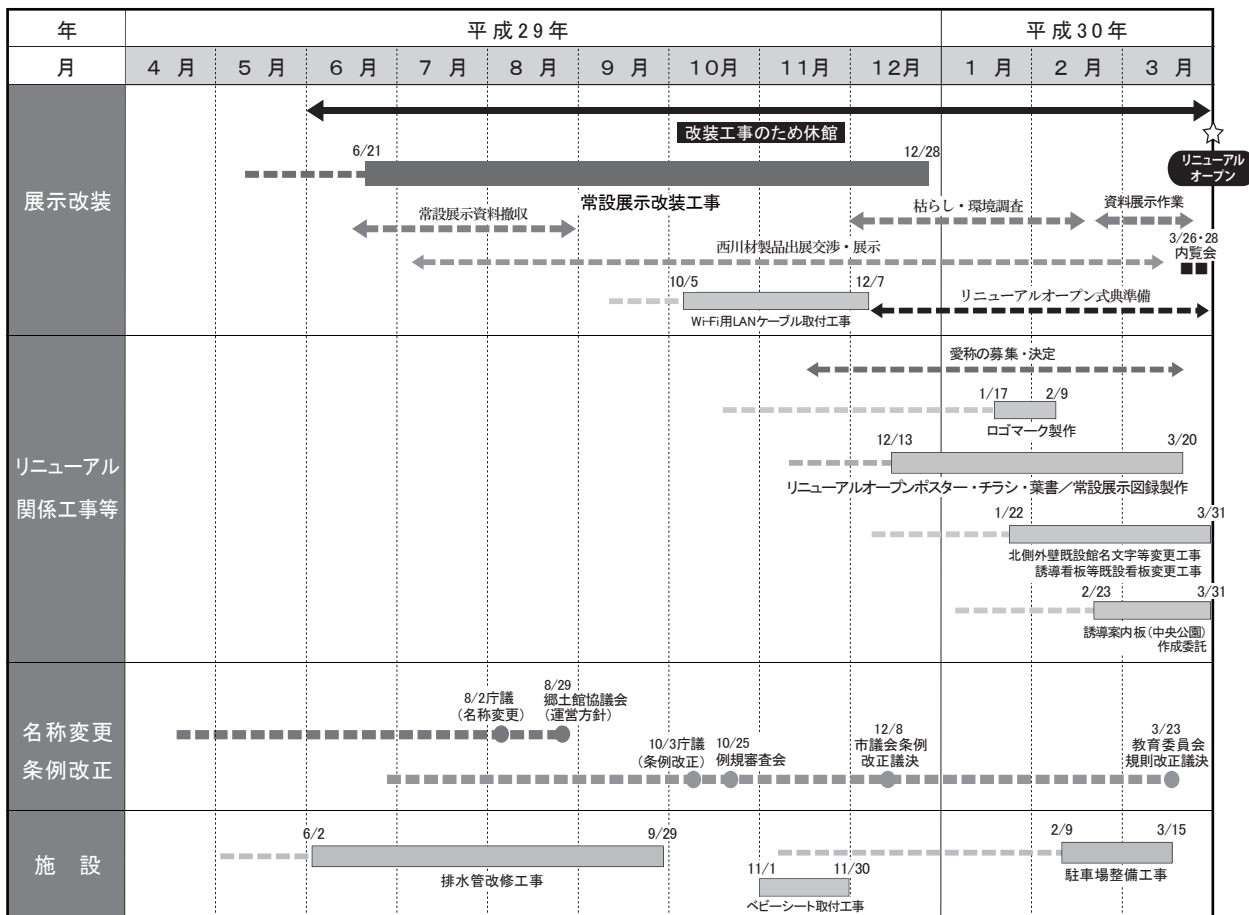
さらに休館期間に合わせ、公共下水道に接続す

るための排水管改修工事や駐車場を舗装するための工事、多目的トイレにベビーシートを設置する工事なども行った。

常設展示改装工事の経過は右ページの通りである。常設展示改装工事は平成29年12月28日に終了し、その後約2ヶ月間の枯らし期間の後、2月下旬より実物資料の展示を開始した。最終的に展示が完成したのは、リニューアルオープン内覧会前日の3月25日であった。また、4月1日のリニューアルオープン記念式典出席者には市民学芸員お手製の「落ち葉のしおり」が常設展示図録である『展示ガイドブック』とともに配布された。

なお、常設展示改装工事については、埼玉県ふるさと創造資金(市町村による提案・実施事業補助金)の交付を受けた。補助対象となる工事の支出額は、4,986万9千円であり、補助額はその約1/2にあたる2,400万円である。

○常設展示改装・名称変更に伴うリニューアルオープンまでの流れ



○常設展示改装工事の行程

月 日	できごと
6月20日	常設展示改装工事入札(株式会社ムラヤマ落札)
6月30日	第1回打ち合わせ(工事体制、工程、工事内容)
7月7日	農林課と西川材製品展示について協議
7月13日	第2回打ち合わせ(施工スケジュール)
7月27日	第3回打ち合わせ(大通り模型、解体業者、電気業者と打ち合わせ)
8月2日	庁議にて郷土館名称変更などが決定
8月4日	第4回打ち合わせ(大通りの模型製作①、模型工期、全体工程など)
8月28日	飯能商工会議所に西川材製品提供依頼
8月31日	第5回打ち合わせ(大通りの模型製作②、アスベスト確認、展示台など)
9月1日	常設展示環境調査(施工前)
9月4日	埼玉県立歴史と民俗の博物館にて智観寺板石塔婆複製製作スキャニング立会
9月4日	旧常設展示解体工事(～9/11)
9月6日	埼玉県立歴史と民俗の博物館にて木造軍荼利明王立像複製製作スキャニング立会(～9/8)
9月14日	常設展示改装工事中間検査
9月21日	第6回打ち合わせ(作業工程、グラフィック、予算増減表など)
9月22日	教育委員会定例会において「飯能市郷土館の新たな運営方針」議決される。
9月28日	第7回打ち合わせ(自然コーナーバックヤード設計変更など)
10月2日	第8回打ち合わせ(作業工程、大通りの模型、レプリカ製作、費用の増減など)
10月13日	第9回打ち合わせ(グラフィック設計変更、大通り模型製作など)
10月16日	木造軍荼利明王立像・智観寺板石塔婆レプリカ製作中間検査(八王子)
10月26日	第10回打ち合わせ(設計レイアウト変更、グラフィック・レプリカ製作など)
11月7日	第11回打ち合わせ(ルーバー設計変更、自然コーナーケース、解説パネル校正)
11月14日	郷土館協議会野村正弘委員、常設展示室内チェック
11月15日	常設展示改装工事中間検査
11月18日	郷土館協議会野村正弘委員、解説パネルチェック
11月24日	智観寺板石塔婆・木造軍荼利明王立像複製製作中間検査(八王子)
11月27日	行灯型ケース脚切断、智観寺板石塔婆レプリカ設置
11月30日	木造軍荼利明王立像レプリカ搬入
12月1日	大通り模型検査(調布市)
12月8日	郷土館条例の一部を改正する条例が市議会本会議で可決
12月8日	常設展示環境調査(施工後)
12月8日	常設展示改装グラフィックパネル責了
12月11日	愛称募集開始
12月18日	大通り模型検収(調布市)
12月20日	大通りの模型搬入
12月21日	常設展示改装工事完了検査
1月9日	枯らしのため歴史展示室で扇風機稼働開始
1月19日	西川材製品展示位置検討
1月23日	「身近な自然」コーナージオラマ製作開始
2月1日	歴史展示室にパッシブインジケーター設置(～2/5アンモニア、2/8有機酸)
2月20日	「身近な自然」コーナー展示作業(～3/25)
2月23日	歴史展示室展示作業(～3/25)
3月23日	教育委員会定例会で郷土館条例施行規則一部改正・博物館愛称議決される。
3月25日	自然ジオラマ完成し、展示改装すべて終了。
3月26日	リニューアルオープン内覧会 ※2回目は3月28日に実施
4月1日	リニューアルオープン

歴史展示室

里

- ア、原始の暮らし
 - 遊動する狩人 - 後期旧石器時代 -
 - 土器の利用と定住 - 縄文時代 -
- イ、古代の高麗郡
 - 高麗郡を置く
 - 高麗人による開発
- ウ、中世の武人
 - 丹党加治氏
 - 加治氏の板碑
 - 戦国時代の飯能
 - 戦国の世を生き抜いた中山氏
- エ、里のいとなみ
 - 畑作 - 限られた土地を活かす知恵 -
 - 麦 - 里の暮らしを支えた作物 -
 - 苗木 - 山を支える里の作物 -
 - 養蚕と機織り - 「お蚕さん」とともに -
 - うちおり
 - 四季の行事と祈り

町

- ア、中山氏と智観寺
 - 水戸藩付家老中山氏と飯能
 - 中山信吉御霊屋・御影堂
 - 中山氏代々の墓
- イ、黒田氏と能仁寺
 - 飯能市域の領主
 - 黒田氏の菩提寺・能仁寺
 - 能仁寺と地域の人々
- ウ、町のにぎわい
 - 飯能の町の成り立ち
 - 飯能町の発展
 - 飯能縄市のようす
 - 商家の建物配置
 - 縄市の名残
 - 大通りの模型
- エ、町に集まった産物
 - 江戸城を造った石灰
 - 飯能に繁栄をもたらした絹織物
 - 駅前に集まる材木
- オ、幕末の動乱
 - ぶっこうし - 武州直直し一揆 -
 - 飯能戦争 - 飯能で起きた戊辰戦争 -
- カ、飯能焼
 - やきものの町・飯能
- キ、近代の幕開け
 - 現代に生きる「地区」の誕生
 - 武蔵野鉄道の開通
- ク、町のまつり
 - 「神事」から「祭礼」へ
 - 山車と底抜け屋台
 - 祭り囃子
 - 祭り今昔

山

- ア、山の信仰
 - 山上の平安仏
 - 山の霊場
 - 獅子舞 - 舞い狂う祓いの芸能 -
- イ、山の生業
 - 西川林業の始まり
 - 絵図から見る土地利用
- ウ、山林地主
 - 地域を支えた山林地主
 - 町田家の江戸進出
- エ、西川林業
 - 西川材ができるまで
 - 飯能の西川材関係用具
 - 炭焼き

飯能今昔

- ア、災害の記憶
 - 明治43年の“大水”
 - すさまじい土石流の破壊力
 - 関東大震災・罹災者の救護
- イ、飯能の思い出
- ウ、地域の遺産
 - 旧中山村の地域遺産

身近な自然

- ア、自然の宝庫へようこそ
 - 自然を守り、自然に親しむために
 - 天覧山・多峯主山 散策ガイドマップ
 - 天覧山・多峯主山 飯能河原周辺模型
- イ、天覧山
- ウ、人と自然の共生
 - 里山と自然
 - 絵図は語る
- エ、地形・地質
 - 平野と山地にまたがる飯能
 - 飯能の地質
- オ、鳥類
 - 鳥類
- カ、水辺の生き物
 - タカの渡り
- キ、草花
- ク、樹木
- ケ、昆虫
- コ、観察・体験コーナー
- サ、哺乳類・生物多様性
 - カヤネズミ
 - ムササビ
 - 哺乳類
 - 生物多様性

飯能と西川材

- ア、入間川の筏流し
- イ、筏の構造
- ウ、森林文化都市・飯能
- エ、西川材で家づくり
- オ、西川材の家具・小物
- カ、河原を訪れる鳥たち
- キ、飯能河原の歴史

里 | ゾーン | SATO |



「里」は本市の東側の台地部分にあたり、平坦な場所が多いため、かつては大麦や小麦などの穀物や茶などの畑作、養蚕などが盛んな地域であった。

また遺跡が多くあるため宅地開発に伴う発掘調査が進み、考古学的な成果が豊富に蓄積されている地域でもある。このゾーンの見どころは埼玉県指定文化財の智観寺板石塔婆(複製)で、元久2(1205)年に畠山重忠と戦って討たれた加治家季の供養のために建てられた。

ア、原始の暮らし

ここでは、遊動的な生活をしていた後期旧石器時代とムラを作り定住するようになっていった縄文時代に分け、各時代ごとに代表的な遺跡を紹介するような形で展示を構成した。具体的にいえば旧石器時代は屋瀬遺跡、縄文時代草創期は小岩井渡場遺跡、縄文時代中～晩期及び縄文時代の概説については加能里遺跡であり、その位置を図示し現地(遺跡所在地)に誘うことを意識した。また展示資料は、学術的に貴重で、文様や器形が見学者の想像力を刺激するようなものでかつ完全な形に近いものを選んだ。

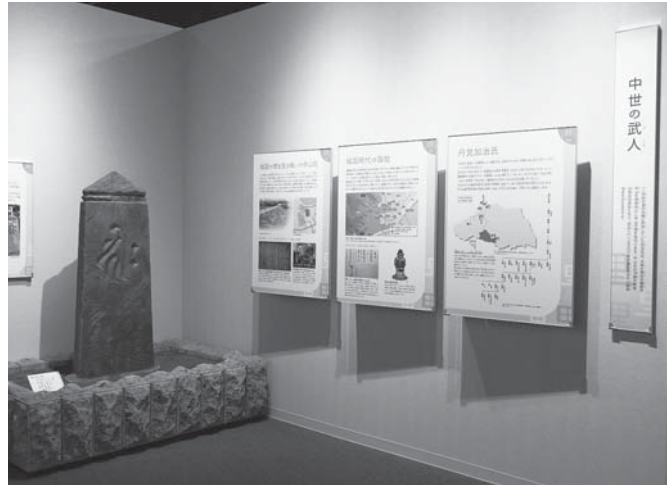


イ、古代の高麗郡

弥生・古墳時代に開発の対象とされていなかった飯能・日高市域に、高麗郡建郡の時期以降急激に集落が形成されることから、古代の高麗郡が飯能市域の一部と日高市域であり、山間部へは平安時代(9世紀中ごろ)になってから開拓に入っていくことを示した。そのため、上総郷と推定される飯能市域の古代集落のうち、張摩久保遺跡を中心に飯能市指定文化財である堂ノ根遺跡出土資料も展示し、高麗郡の建郡が飯能市域の歴史の中で重要な出来事であることを伝えた。

ウ、中世の武人

ここは、鎌倉期から16世紀中葉まで市域を根拠地としていた武士を取り上げることで、近世との間をつなぐコーナーと位置付けた。鎌倉期については、埼玉県指定文化財である智観寺板石塔婆の複製を展示するとともに、党的武士団である丹党加治氏について、その造立の担い手という切り口で解説した。また室町期以降は本市域に及んだ三田氏の領国経営と、三田氏滅亡後の北条氏の支配を中山氏を通して紹介することとした。中山氏については、北条氏照の重臣としての家範の具体的な活動を平田家文書(坂戸市)により示した。



エ、里のいとなみ

里(台地部)では、麦や苗木、イモ類や野菜などを栽培する畑作が中心的な生業であったため、ここでは畑作を地域的な特徴として取り上げた。明治以降、双柳を中心とする地域で盛んに栽培されたのが、スギやヒノキなど山に植林するための苗木である。苗木を通して「山」と「里」は結び付いていた。この他にも生活を支えるために養蚕・機織りも盛んであった。ここではその象徴として、売り物にならない繭から取った自家用の織物=「うちおり」の展示スペースを設けている。うちおりは定期的に展示替えを行っていくこととし、その他の展示資料は、畑作で使われた農具を中心とした。



| 町 | ゾ | ー | ン | MACHI |



「町」は里と山の間位置し、それぞれの産物や文化、情報などが交流する場であった。もともとの町は江戸時代の初めの頃に中山に市が立てられたことに始まる。そこから飯能に市が移り、現在の市街地へと発展していくが、その流れと町の姿を、近世、近代のできごととともに紹介している。このゾーン一番の見どころは、明治末期から大正中期の様子を1/150サイズで復元した大通りの模型である。

ア、中山氏と智観寺

本市は茨城県高萩市と友好都市提携を結んでいるが、ここではその基が水戸藩の付家老であった中山氏にあることを紹介している。智観寺はその中山氏の菩提寺であるが、始祖信吉の墓は、近世大名墓としては珍しく墳丘をもち、また2代信正の御霊屋も残るなど近世大名の廟所としての遺構も良好に保存されており、文化財としての価値も高い。展示は、中山信吉墓の前面に立てられていた御影堂(御霊屋)をイメージし、仏堂形のパネルに解説や写真を配置している。



イ、黒田氏と能仁寺

このコーナーは、本市を代表する寺院である能仁寺と、同寺を菩提寺とし現在の市域に15ヶ村の領地をもっていた黒田氏(上総国久留里藩主)を紹介し、能仁寺にある黒田氏代々の墓や多峯主山の黒田直邦墓などへ人々を誘うことを意識して展示構成を考えた。

展示では、パネルで本市域に黒田領が多いことを示すため天保15年頃の市域の村の領主を図示し、5代将軍綱吉の側近として活躍した藩祖直邦の治績や藩主黒田家と領民との関わりを示し、それに関連する資料を展示した。

ウ、町のにぎわい

本コーナーでは、明治44年12月に撮影された大通りの写真から、その景観をイメージしてもらい、飯能の町の歴史を繙ききっかけとしている。元々は17世紀後半に始まる六斎市がここで開かれるようになり、ここから鉄道の開通などによって市街地が拡大していったという流れと、飯能が入間郡を代表する町であったことを表すデータを示すことで、かつての町の賑わいを知り、それを経て現在の町があることを理解してもらうことを意図した。



○大通りの模型

この模型は、「町」ゾーンの象徴的な展示と位置付けられるもので、明治40年代から大正中期頃までの大通りの賑やかな様子を実寸の1/150で再現し、その周辺には復元の根拠となった写真や現存する建物の外観写真を配置している。模型の中には、現存している歴史的建造物がわかるように標識を立て、そこに備えられた歴史的建造物をめぐるマップとの関連性を持たせ、まず飯能市指定文化財である「店蔵絹甚」へ、そしてそこから現存する建物へと巡ってもらうことを意図している。また、大通りは当館から少し離れているため、当館との位置関係がわかる図なども付けた。



エ、町に集まった産物

山間地と台地の境目に位置する飯能の町は、元々は生活物資を調達する場、年貢を納めるための換金場として始まったが、その後、石灰や炭など山からの産物を、川越の新河岸川を経て江戸に運ぶための仲継問屋が誕生したことで、流通の拠点となっていった。さらに江戸地回り経済圏の成立とともに、綿織物や絹織物といった特産物を集荷する場としての機能をもつようになり繁栄していった。ここでは、飯能の町の役割の変化を石灰、炭、絹織物、材木と商品ごとに分けてパネルで解説し、それらを扱った商家に関する資料を展示した。



オ、幕末の動乱

ここでは、幕末に飯能で起きた大きな事件である武州世直し一揆と飯能戦争を取り上げた。これらはいずれも社会に与える影響が大きく、日本全体の大きな歴史の流れに関わる事象といえる。武州世直し一揆は、期間はわずか7日間と短かったものの、それがまたたく間に関東各地に広がり、上下層農民から村役人層・領主・農兵などあらゆる階層の人々が様々な形で関わる事件となった。飯能戦争は、慶応4(1868)年1月に始まる戊辰戦争の一地域戦と位置付けられ、現在の埼玉県域で行われた唯一の戊辰戦争でもある。本市の歴史事象としては著名であるため、その様子を、古文書や戦争に使われた砲弾、関係者の写真などによって表現することとした。



カ、飯能焼

陶土が少なく窯業地とはいええない埼玉県域にあって、飯能焼は最も有名な陶器である。かつては「まぼろしの飯能焼」と呼ばれ、その潇洒な絵付け、卓越したろくろ技術などに対する評価も高い。ここでは、伝世品で市指定文化財にもなっている「双木本家飯能焼コレクション」を展示し、その古美術品としての魅力を知ってもらうこととした。またあわせて生産地である飯能焼原窯の発掘資料も展示することによって、伝世品には伝わっていない生産器種も示し、飯能焼窯元の経営戦略を解説した。



キ、近代の幕開け

ここでは、明治から終戦までの間の歴史事象を紹介するコーナーで、現在の行政においてもひとつの単位となっている「地区」が、近代地方自治体制によるものであることを示した。そのほか武蔵野鉄道(現在の西武池袋線)の開通とアジア・太平洋戦争を取り上げた。武蔵野鉄道は開通に至るまでの経

緯や開通の頃の状況などについて関連する資料とともに解説した。またアジア・太平洋戦争に関する資料も常設で展示することで、戦争の悲惨さを後世に伝えていく役割を果たしていく。

ク、町のまつり

飯能まつりは、本市を代表するイベントのひとつで、飯能の町に花開いた華麗な祭礼文化である山車やお囃子が魅力である。ここでは、現在の飯能まつりに至った歴史的な経緯とあわせ、その主役であるすべての町内の山車と底抜け屋台を写真で紹介するとともに、パネル中央のモニターでは、かつての飯能まつりの様子や現在のまつりの様子がわかる動画が流され、飯能まつりの魅力を伝えている。

「江戸型」「八王子型」「屋台型」とバラエティに富む山車、飯能夏祭りの主役で床板が張られていないユニークな構造をもつ底抜け屋台、そして祭りを彩るお囃子。こうした江戸の流れをくむ飯能の町の特徴を迫力ある大パネルで紹介している。





飯能市は市域の76%を山地が占め、その歴史・文化は山や森を抜きにしては語ることはできない。ここでは、霊場としてあがめられ、森を活かして生きてきた地域の歩みを紹介しており、信仰と西川林業の2つのテーマからなる。このうち、西川林業の生産工程を表現したジオラマは、森林文化都市としての本市の特性を明確にするため、旧常設展示から唯一そのまま残したところである。

この見どころは、いずれも国指定重要文化財となっている、高山不動にある「木造軍荼利明王立像」(複製)と「長光寺雲版」(複製)である。

○山上の平安仏

ここでは、「山」ゾーンのメインとなる国指定重要文化財の木造軍荼利明王立像(複製)を展示している。飯能市域における山岳仏教の信仰に基づく代表的な仏像であり、木彫仏としては毛呂山町の桂木寺にある木造伝釈迦如来坐像とともに埼玉県内最古とされ貴重である。この飯能の至宝を存分に鑑賞していただくため、展示スペースを優先させ、その迫力を感じられるような空間づくりとライティングに工夫をこらした。



ア、山の信仰

飯能の山間地域には、国指定重要文化財の福德寺阿弥陀堂や、埼玉県指定文化財である長光寺本堂・常楽院不動堂・唐竹白鬚神社本殿など古い仏堂や社殿などが遺り、古くから山岳信仰の霊地として栄えてきたことを物語っている。また国指定重要文化財となっている長光寺雲版(複製)も合わせて展示することで、山間地に残る歴史や文化こそが本市の重要な地域資源であることを

を示した。近年当館において資料整理が進んだ護符は、子ノ権現、八王寺(竹寺)、高山不動のものなどを展示し、山間地に多く伝承されている獅子舞についても、その場所を示す地図とともに紹介した。



金融などが地域経済の維持、継続に重要な役割を果たしていたことや、同家が江戸時代後期に材木問屋として江戸へ進出していく状況についてパネルで解説した。

イ、山の生業／ウ、山林地主

ここでは、西川林業地が、山を切り拓いて焼畑とし耕地を拡大させるとともに、周辺の土地を付属林野にして薪炭や用材林へと変えていったことに始まることを示した。また、切替畑については、図をめくっていくことでその土地利用の変化の様子がわかるように工夫した。

また上名栗村の町田家(屋号新館)をとりあげ、村における山林地主の経営(薪炭・造林・

エ、西川林業

ここでは、下草刈りから製材まで、かつての西川林業の生産工程をジオラマで示すとともに、埼玉県の有形民俗文化財に指定されている「飯能の西川材関係用具」コレクションを展示している。森林文化都市の博物館としてまさに特徴的な展示といえる。また材木とならぶ山間地域の主要産業であった炭焼きについては、「町」ゾーンで流通を取り上げているので、このコーナーでは生産の様子などをパネルで解説した。



飯能今昔



歴史とは、人々がはるか昔から積み重ねた営みの記録であり、そこには先人たちの知恵と教訓が数多く含まれている。このゾーンは、災害の歴史や少し前の写真を展示し、地域の歴史と現在とのつながりを意識してもらうところである。このパネルはすべて中身を替えることができるようになっており、定期的に展示替えを行うことを意識している。今回の展示改装の方向性の一つである「更新される常設展示」を具現化するとすると位置付けられる。



ア、災害の記憶

当館は、ミッションに「歴史を現代に活かす」ことを掲げているが、ここは、過去の記録などから災害の記憶を伝承し、教訓として未来に伝えていく場として機能することを目指している。飯能市域において「災害教訓」として伝承していかなければならないのが、明治43(1910)年8月10日から11日にかけて発生した土砂災害、洪水である。そのほか、関東大震災の飯能における被害と、吾野村による罹災者救援活動などを取り上げた。



イ、飯能の思い出

このコーナーは、現代に生きる私たちが「懐かしい」と思えるような飯能の写真を展示することで、身の周りのことから歴史を意識してもらうことを目指している。12枚の写真パネルの位置は固定とし、中はいつでも替えられるようになっている。リニューアルして最初の展示は、「平成30年話題の場所」「にぎわいまち」「公共交通の整備」「新たなまちの顔」というテーマで写真を選択した。

ウ、地域の遺産

「住めば都」という言葉があるが、私たちの生活の基盤となり身近に感じられることができるのは、せいぜい現在の大字(江戸時代の村にあたる)の範囲である。地域にはそれぞれ個性があり、誇りとなるものがたくさんある。ここでは実際に地図を片手に現地を歩き、史料を読み解き、長年そこに住む人たちから話を聞いてまとめた地域の魅力を紹介していく。その成果はマップにもまとめ、展示を見た人がそれを基に現地を訪問することを目指している。紹介する地域は2～3年に1回程度変えていく予定である。



身近な自然



ここは、新たに加わった飯能河原・天覧山周辺の自然のビジターセンターとしての機能を担うところである。当館を訪れた人々が、ここで得た草花や樹木といった自然に関わる情報を基に、現地を訪ね自らの目で見てもらう、観察してもらう、そんなふうにご利用してもらいたいと考えている。ここには標本などの実物資料はほとんど展示されていないが、季節の移ろいとともに姿を変えていく旬の情報を「天覧山・多峯主山散策ガイドマップ」で紹介している。これがこのコーナーの見どころとなる。

ア、自然の宝庫へようこそ

ここには、飯能河原から天覧山、多峯主山周辺までの範囲の、縮尺1/1,500の地形模型(ただし高さは1/500)が展示されている。ビジターセンター的機能の対象地域を俯瞰して見ることができるこの模型で、この地域の概要を伝えている。また、その上には「天覧山・多峯主山散策ガイドマップ」があり、今咲いている花などが見られる見どころスポットを写真やイラストなどで紹介している。常に旬の情報を提供するため、1ヶ月に1回以上担当職員が調査に入り、その成果を反映させている。



イ、天覧山／ウ、人と自然の共生

天覧山は、当館のビジターセンター的機能の主要なフィールドのひとつであり、かつ本市を代表する観光地でもある。ここでは、その名称の移り変わりや、観光地となるまでのあゆみなどについて紹介している。そして現在、天覧山周辺は、都心に近い距離にあって豊かな里山の自然が残るところとして知られているが、それは江戸時代より人が適度に手を加え利用してきたことによるものであり、その保全のために、現在も様々な努力がなされていることを、天保13(1842)年の飯能村絵図(複製)などとともに示した。



エ、地形・地質

ここでは、飯能市が関東山地と関東平野の境にあり、1920年代から多くの地質学者により研究成果が報告されてきたこと、そして山地と平野の成り立ちがわかる観察ポイントが多くあることを伝えた。また、市内の地層と河原の石を比較すると、約250万年前には奥多摩から飯能に向かって川が流れていたと考えられることなどを示した。実物資料としては、河原で拾える石の代表的なものを展示してその特徴を示すとともに、顕微鏡を置いて、矢矚テフラ層を観察できるようにした。



オ、鳥類

天覧山・多峯主山周辺には多くの鳥類が生息し、その種類も豊富である。パネルでは、天覧山周辺で見られる代表的な鳥を写真とともに解説し、天覧山山頂は「タカの渡り」の観察ポイントであることを紹介している。また、ここで観察できる鳥の鳴き声はタッチペンを使って聞くことができ、体験学習的な要素も加えた。さらにデジタルフォトフレームでその他の野鳥の写真を表示している。

カ、水辺の生き物／キ、草花

ここでは、天覧山周辺、特に谷津田が貴重な両生類の生息地であり、またホタルが飛び交う自然豊かな地区であることを示す。さらにホタルが生息するのに必要な自然条件をその一生とからめて説明し、ゲンジボタルとヘイケボタルのちがいを紹介している。

そして、天覧山・多峯主山では、四季を通して多種多様な植物が観察できる。そこで、春・夏・秋に分けてその季節に見られる代表的な草花を写真で展示するとともに、実物標本により種の散布戦略など生存していくための工夫などを知ってもらうこととした。

さらに解説パネルの上には、デジタルフォトフレームで両生類や植物の写真を表示している。



ク、樹木／ケ、昆虫

ここでは、山地帯から丘陵帯へと移る場所に位置する天覧山・多峯主山で見られる代表的な樹木を紹介するとともに、それらの樹皮の写真や葉の標本を展示することでその特徴などを伝え、屋外で識別できるように工夫した。

また、昆虫はこの地区周辺に生息する代表的なものとしてチョウとトンボを取り上げ、その写真をパネルで紹介している。さらにデジタルフォトフレームで昆虫の写真をスライド表示している。



サ、哺乳類

天覧山・多峯主山周辺には多くの哺乳類が生息しているが、その代表としてここではムササビとカヤネズミを取り上げている。

これらは夜行性のため普段は見られないが、食痕や糞などのフィールドサインを展示し、それによってその生息が伺えることを示す。カヤネズミは、その存在が天覧山の谷津田における生物多様性の高さを象徴していることから、その体や生態をパネルで説明し、巣の標本を展示した。そのほか、シカ、キツネ、アナグマ、イノシシなども紹介している。



サ、生物多様性

ここでは、多くの生き物が食物連鎖でつながっている生態系をパズルのイラストで示し、生態系をつくる生き物の種や遺伝子が多種多様であること、すなわち生物多様性の大切さについて説明している。

飯能と西川材

このコーナーは、飯能市が森林文化都市宣言をしていることをふまえ、西川材の歴史と現在を知ってもらうことを意図している。西川材の名の起こりとなった筏流しを取り上げつつ、商品見本を展示して、その良さを体験できるようにした。



ア、飯能と西川材

ここでは、西川材の名のおこりとなった筏流しについて、その歴史、経路、構造などについてパネルで解説した。また、筏の大きさを実感してもらうため、1枚の大きさをシートにして床面に貼り付けた。

さらにまちづくりの基本理念である森林文化都市宣言についても紹介し、西川林業再生への取り組みを知るきっかけづくりとした。



イ、西川材で家づくり／ウ、西川材の家具・小物

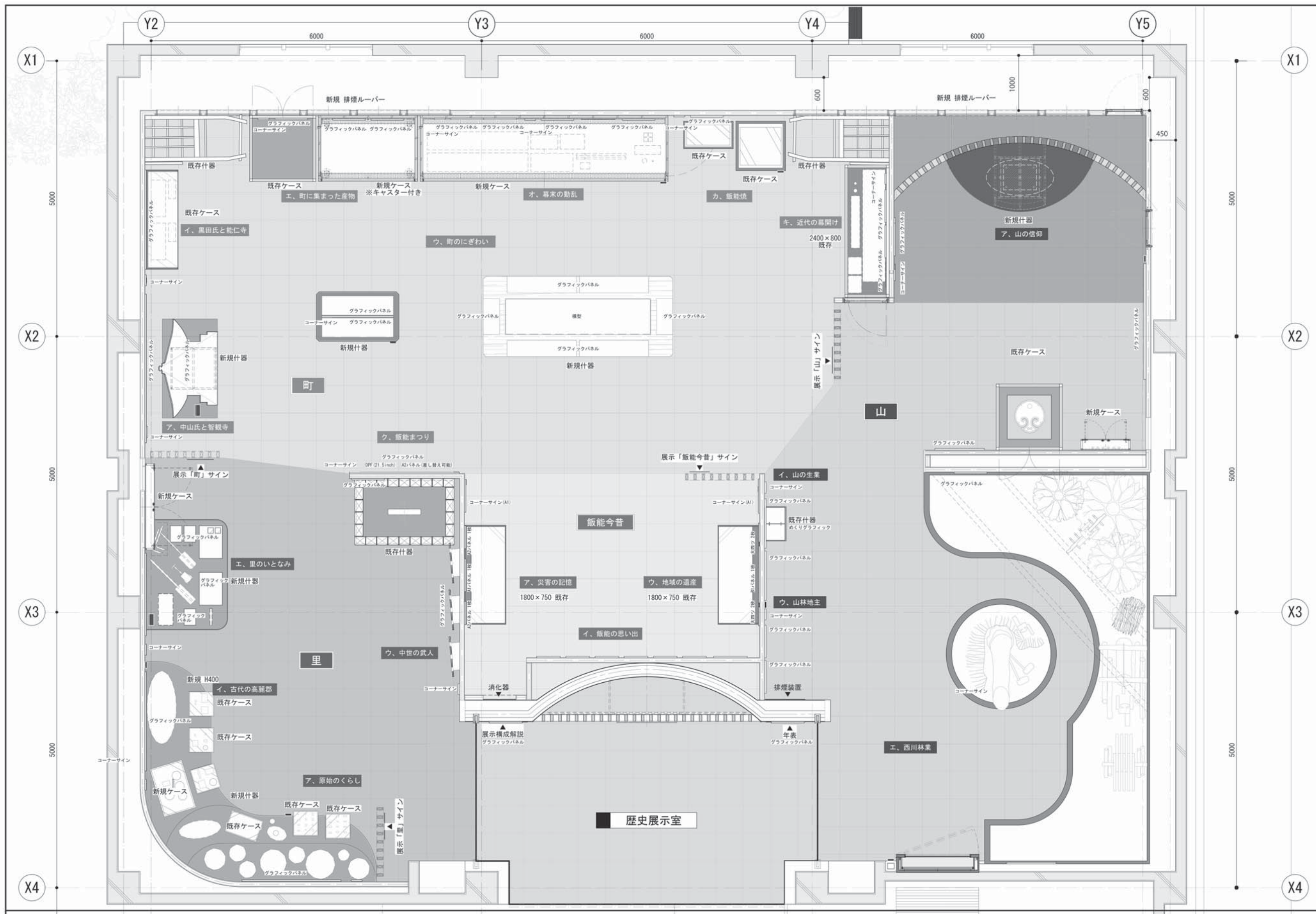
このコーナーでは、西川林業の現在の取り組み、西川材の良さを伝えることを目的としている。そのため西川材を使った家具や建具、小物などを展示し、それを体感できるようにした。

なお、展示されている西川材製品はいずれも生産業者からご提供いただいたものである。

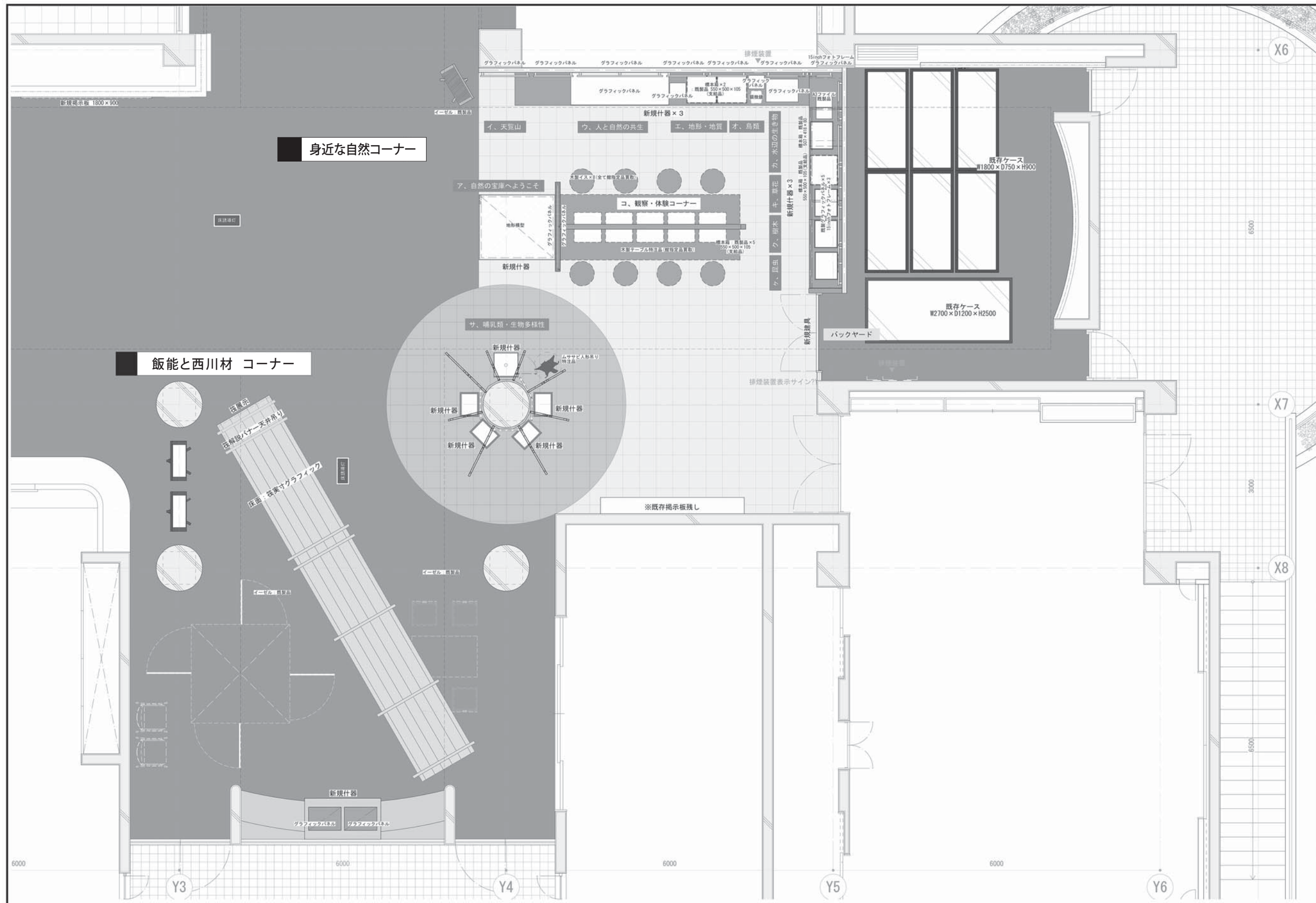
エ、河原を訪れる鳥たち／オ、飯能河原の歴史

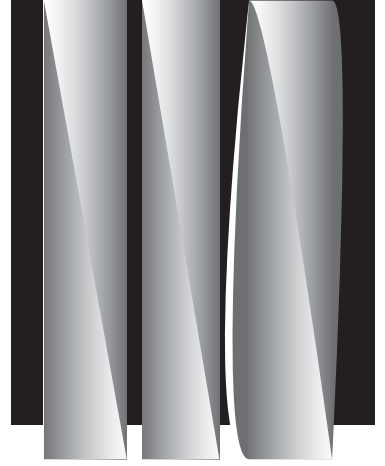
当館からは眼下に飯能河原を望むことができる。ここでは、ビジターセンター的機能の対象である飯能河原の歴史と自然について紹介している。解説パネルは2枚で構成され、ひとつは河原を訪れる鳥たちを写真で示し、もうひとつは、筏流しの中継地点となったことにより誕生した河原町の歴史とその賑わいについてまとめた。





歴史展示室平面図

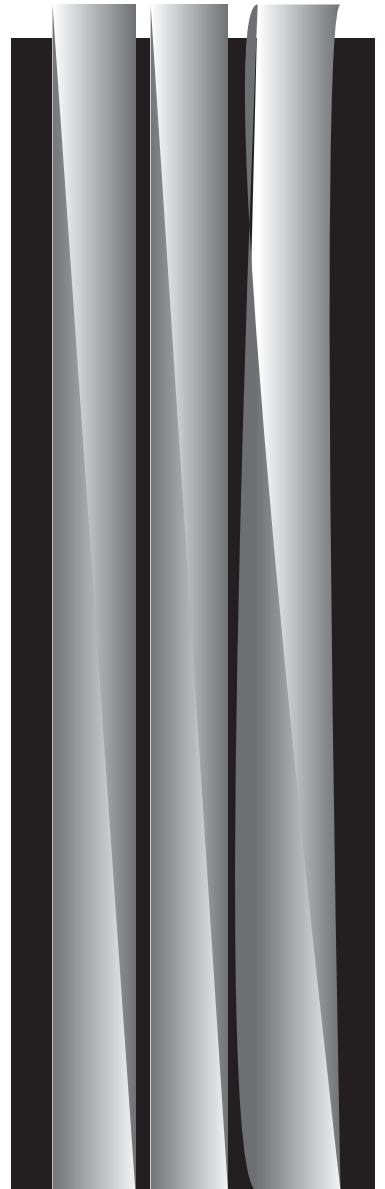




第 4 章

..... Chapter 4

【各種データ】



利用者数

平成29年度利用者数

単位:人(明記したものを除く)

月	開館日数 (日)	入館者数		入館者以外の利用者数						利用者合計 に対する 割合(%)	利用者 合計
		人数	1日平均	出張授業 受講者数	資料利用 者数	レファレン ス件数	講師派遣 受講者数	ホームページ アクセス 件数	合計		
4	26	2,504	96.3		11	8	37	690	746	23.0	3,250
5	25	2,342	93.7	112	11	10	55	659	847	26.6	3,189
6	(常設展示改装工事のため休館)			223	6	8	301	547	1,085	100.0	1,085
7				84	2	6	55	592	739	100.0	739
8				15	3	15	55	786	874	100.0	874
9					6		111	661	778	100.0	778
10				42	6	6	23	534	611	100.0	611
11				205	7	5	28	513	758	100.0	758
12					7	12	36	639	694	100.0	694
1				290	7	13		740	1,050	100.0	1,050
2				205	13	7	8	955	1,188	100.0	1,188
3					4	4	64	1,390	1,462	100.0	1,462
合計	51	4,846	95.0	1,176	83	94	773	8,706	10,832	69.1	15,678

開館(平成2年度)から平成29年度末までの

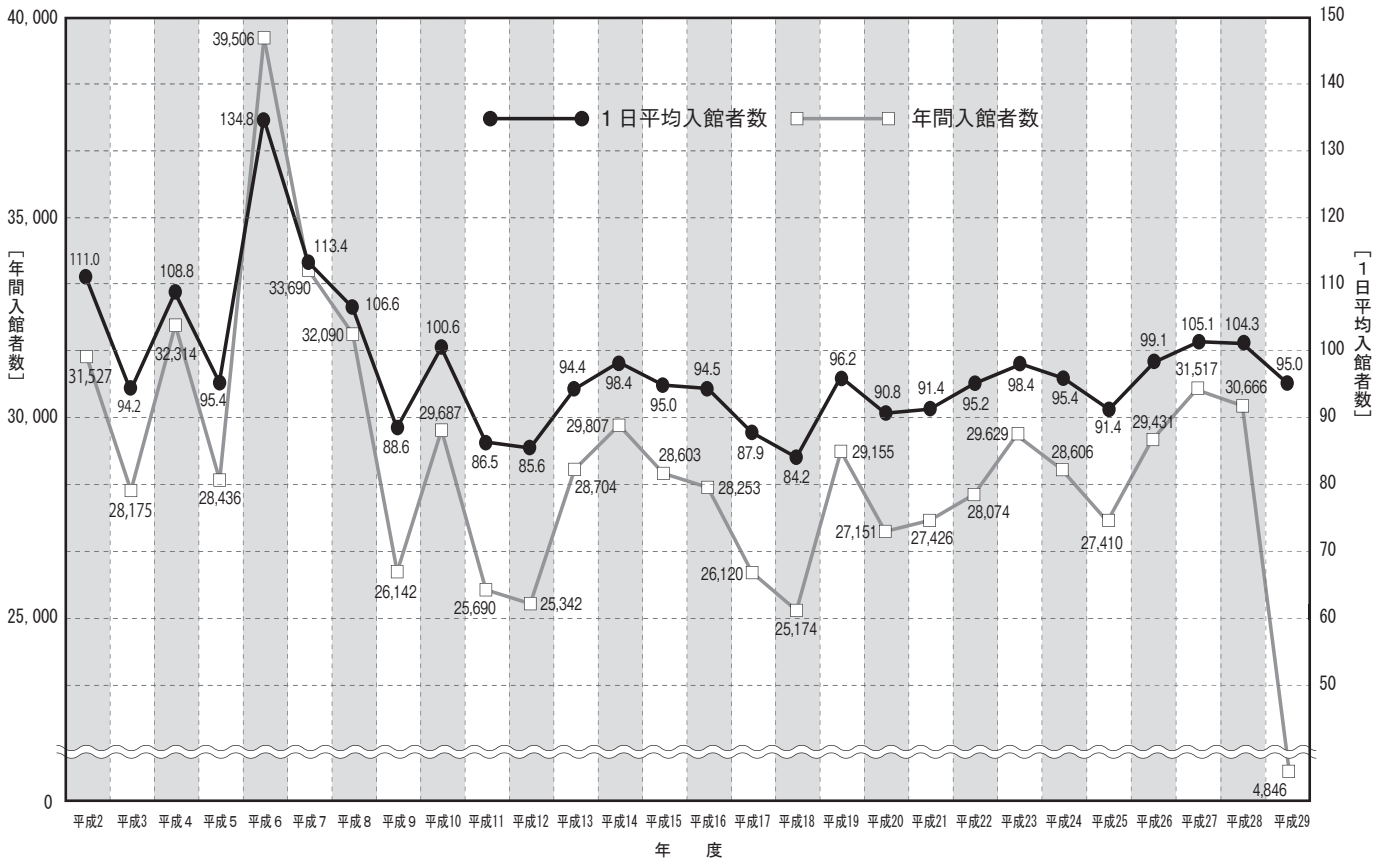
総入館者数 793,171人

開館日数 8,089日

1年平均入館者数 28,327.5人/年

1日平均入館者数 98.1人/日

〈入館者数の推移〉



歳出予算・決算

単位：円（明記したものを除く）

事業名 年度(平成)	郷土館事務費	展示・学習会 開催事業	資料収集・保存 事業	調査・研究事業	郷土館施設 管理事業	郷土館事業費 小計	常設展示 改装事業	郷土館費 合計	A(%)	B(円)	C(円)
27	予算額	6,034,000	3,700,000	2,007,000	227,000	7,037,000			0.07	239.4	612.7
	割合	32.8%	19.2%	10.4%	1.2%	36.4%					
	決算額	5,900,271	2,982,157	1,569,098	210,355	6,219,238	16,881,119	—	0.06	209.3	535.6
	執行率	93.1%	80.6%	78.2%	92.7%	88.4%	87.4%	—			
28	予算額	6,219,000	3,266,000	1,542,000	646,000	6,475,000			0.07	259.4	679.8
	割合	34.4%	18.0%	8.5%	3.6%	35.6%	18,148,000	2,700,000			
	決算額	5,824,218	2,470,895	1,240,184	550,715	5,739,880	15,825,892	2,700,000	0.06	230.5	604.1
	執行率	93.7%	75.7%	80.4%	85.3%	88.6%	87.2%	100.0%			
29	予算額	7,673,000	3,888,000	2,061,000	266,000	19,771,000			0.26	1043.4	17263.5
	割合	22.8%	11.6%	6.1%	0.8%	58.7%	33,659,000	50,000,000			
	決算額	7,606,006	2,748,906	1,710,887	207,114	18,000,286	30,273,199	50,112,000	0.23	1002.6	16587.9
	執行率	99.1%	70.7%	83.0%	77.9%	91.0%	89.9%	100.2%			

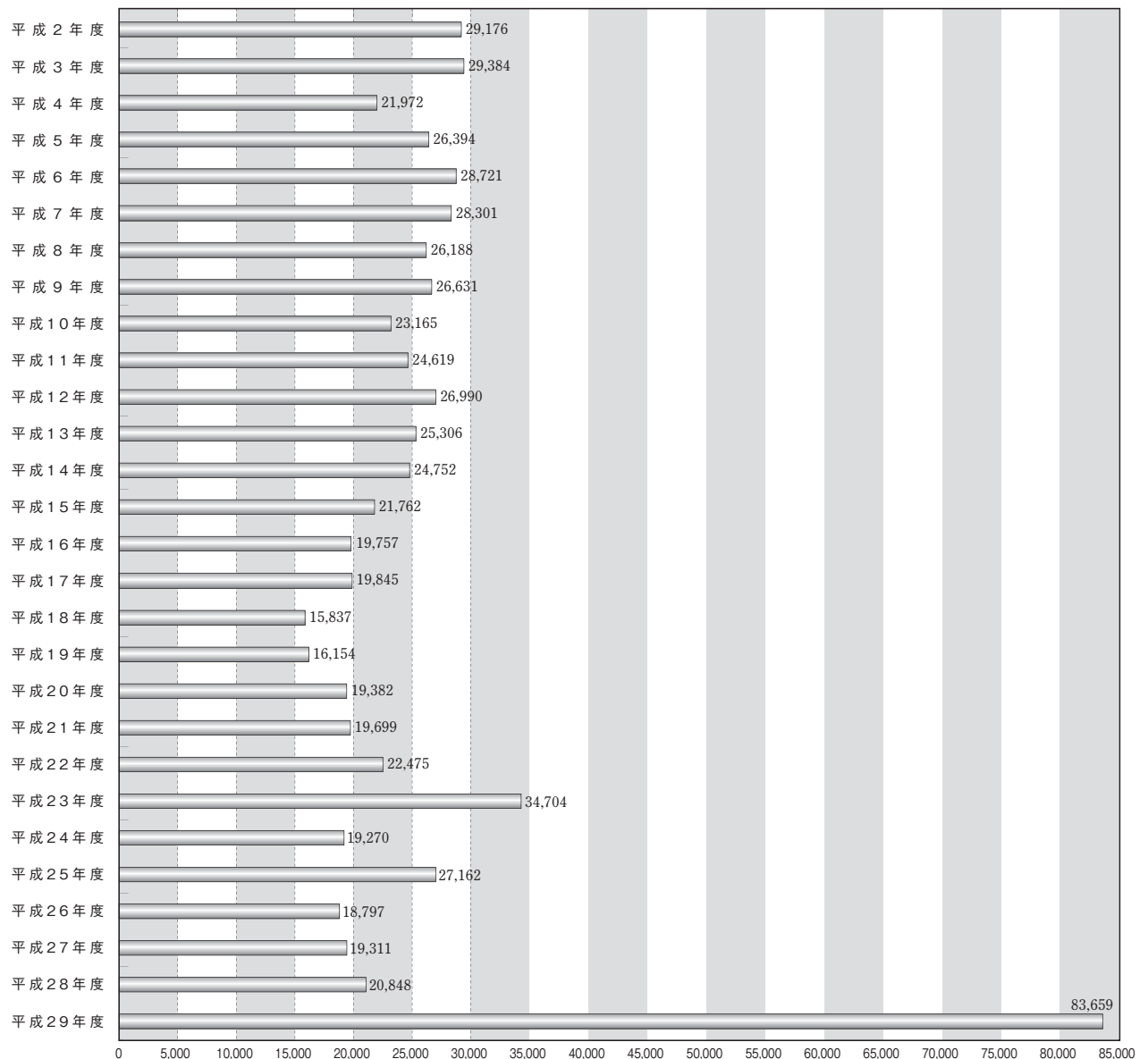
当館事業費決算額(人件費のぞく)

A：飯能市一般会計歳出決算額に対する割合 B：市民1人あたり（当該年度の4月1日現在の人口）の金額

C：入館者1人あたりの金額 ※当該年度は開館期間が2ヶ月間だったため例年に比べ数値が非常に高くなっている。

〈飯能市郷土館当初予算額の推移〉

単位：千円



図書資料寄贈機関

埼玉県

上尾市教育委員会
朝霞市教育委員会
朝霞市博物館
入間市教育委員会
入間市博物館
桶川市教育委員会
加須市教育委員会
川口市教育委員会生涯学習部文化財課
川口市立科学館
川越市立博物館
北本市教育委員会
行田市
行田市郷土博物館
久喜市立郷土資料館
熊谷市教育委員会社会教育課市史編さん室
熊谷市立熊谷図書館
古代の入間を考える会
一般社団法人高麗1300
埼玉医科大学短期大学
埼玉県
埼玉県教育委員会
埼玉県郷土史料刊行会
埼玉県郷土文化会
埼玉県平和資料館
埼玉県立川の博物館
埼玉県立さきたま史跡の博物館
埼玉県立自然の博物館
埼玉県立文書館
埼玉県立嵐山史跡の博物館
埼玉県立歴史と民俗の博物館
さいたま市大宮盆栽美術館
さいたま市立博物館
さいたま文学館
さいたま民俗文化研究所
坂戸市教育委員会
サトエ記念21世紀美術館
杉戸町遺跡調査会
杉戸町教育委員会
草加市立歴史民俗資料館
鶴ヶ島市遺跡調査会
所沢市教育委員会
所沢市生涯学習推進センター
戸田市
戸田市立郷土博物館

新座市教育委員会
公益財団法人日本河川協会彩の川研究会
日本工業大学工業技術博物館
原市場小学校統合50周年記念事業実行委員会・
原市場小学校
飯能市
飯能市教育委員会
飯能市教育委員会学校教育課
飯能市総務部管財課資産経営室
飯能市租税教育推進協議会
飯能市役所
日高市遺跡調査会
日高市教育委員会
富士見市遺跡調査会
富士見市教育委員会
富士見市立難波田城資料館
ふじみ野市教育委員会
ふじみ野市立大井郷土資料館
平成28年度入間市博物館・学校連携事業研究委員会
本庄市教育委員会文化財保護課
三郷市
宮代町教育委員会
宮代町郷土資料館
毛呂山町教育委員会
吉見町教育委員会
立正大学博物館
蕨市立歴史民俗資料館

東京都

荒川区・荒川区教育委員会
荒川区教育委員会
板橋区教育委員会
板橋区立郷土資料館
印刷博物館
桜美林大学
青梅市教育委員会
公益財団法人大田区文化振興協会
学習院大学史料館
葛飾区郷土と天文の博物館
北区教育委員会
清瀬市
清瀬市郷土博物館
独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所
無形文化財遺産部
駒澤大学大学院史学会

特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会
 公益財団法人渋沢栄一記念財団
 渋沢史料館
 昭和館
 新宿区文化観光産業部文化観光課文化資源係
 杉並区立郷土博物館
 公益財団法人せたがや文化財団生活工房
 全国林業改良普及協会
 大正大学教務課学芸員課程
 公益財団法人多摩市文化振興財団
 公益財団法人たましん地域文化財団
 丹青研究所
 中央区教育委員会
 調布市郷土博物館
 東京都・江戸東京たてもの園
 東京都江戸東京博物館
 東京都三多摩公立博物館協議会
 公益財団法人東京市町村自治調査会多摩交流センター
 公益財団法人たましん地域文化財団
 豊島区
 日本学術会議史学委員会博物館・美術館の組織運営
 に関する分科会
 日本博物館協会
 財団法人日本真綿協会
 練馬区立石神井公園ふるさと文化館
 練馬区立石神井公園ふるさと文化館分室
 八王子織物工業組合
 八王子市教育委員会
 パルテノン多摩
 公益財団法人東日本鉄道文化財団
 東村山市
 東村山ふるさと歴史館
 東大和市教育委員会
 日野市
 府中市郷土の森博物館
 福生市教育委員会
 文化庁
 文化庁文化財部記念物課
 文化庁文化財部伝統文化課
 学びを通じた地域づくりに関する調査研究協力者会議
 港区教育委員会
 港区立港郷土資料館
 武蔵大学学芸員課程
 武蔵村山市教育委員会
 明治大学学芸員養成課程

その他

稲敷市立歴史民俗資料館

岩宿博物館
 小山市立博物館
 各務原市
 各務原市教育委員会
 かすみがうら市歴史博物館
 神奈川大学日本常民文化研究所
 かみつけの里博物館
 環境庁自然保護局生物多様性センター
 菊川市教育委員会
 特定非営利活動法人京都古布保存会
 群馬県立歴史博物館
 神戸ファッション美術館
 国立歴史民俗博物館
 寒川町
 下関市立考古博物館
 第15回自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC)
 高崎市観音塚考古資料館
 田原市教育委員会
 田原市博物館
 千葉県文書館
 土浦市立博物館
 津山郷土博物館
 長久保赤水顕彰会
 長野市教育委員会文化財課松代文化施設等管理
 事務所(真田宝物館)
 流山市教育委員会
 流山市立博物館
 野田市郷土博物館
 平塚市博物館
 藤沢市文書館
 富士吉田市教育委員会
 松戸市立博物館
 三重県総合博物館
 三重県立博物館
 横浜開港資料館
 立命館大学国際平和ミュージアム



一般収蔵庫に保管されている自治体史など

飯能市郷土館条例

平成元年12月27日 条例第33号

(設置)

第1条 郷土の歴史、民俗及び考古に関する資料(以下「資料」という。)の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、これらの活用を図り、もって市民の郷土愛と文化の向上に寄与するため、飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)を飯能市大字飯能258番地の1に設置する。

(業務)

第2条 郷土館は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 資料の収集、整理及び保存に関すること。
- (2) 資料の調査及び研究に関すること。
- (3) 資料の展示及び利用に関すること。
- (4) 資料についての専門的な知識の啓発及び普及に関すること。
- (5) その他郷土館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。

(管理)

第3条 郷土館は、飯能市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第4条 郷土館に、館長その他必要な職員を置く。

(休館日)

第5条 郷土館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(この日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)である場合を除く。)
- (2) 休日の翌日(この日が日曜日又は休日である場合を除く。)
- (3) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、前項に規定する休館日のほか臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

(利用時間)

第6条 郷土館を利用することができる時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(利用の制限)

第7条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、郷土館の利用を制限することができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) その他郷土館の管理上支障があると認められるとき。

(使用料)

第8条 郷土館の使用料は、無料とする。

(損害賠償)

第9条 郷土館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、郷土館の施設、設備及び資料を損傷し、又は滅失したときは、これを修理し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は

一部を免除することができる。

(郷土館協議会)

第10条 郷土館の運営に関する事項を調査し、及び審議するため、飯能市郷土館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(協議会の組織)

第11条 協議会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- (1) 学校教育及び社会教育の関係者
- (2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (3) 学識経験者

(平24条例17・一部改正)

(委員の任期)

第12条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第13条 協議会に、会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第14条 協議会は、会長が招集し、会議の議長となる。

2 協議会は、委員の2分の1以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第15条 協議会の庶務は、郷土館において処理する。

(委任)

第16条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成2年4月1日から施行する。

(飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

2 飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和44年条例第8号)の一部を次のように改正する。

[次のよう]略

附 則(平成24年条例第7号)

(施行期日)

1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に改正前の飯能市郷土館条例の規定により任命されている飯能市郷土館協議会の委員は、その任期満了の日までは、改正後の飯能市郷土館条例の規定により任命された委員とみなす。

飯能市郷土館条例施行規則

平成2年3月31日 教委規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、飯能市郷土館条例(平成元年条例第33号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(職員)

第2条 飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(職務)

第3条 館長は、上司の命を受け、郷土館の業務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、郷土館の専門的業務を処理する。

3 その他の職員は、上司の命を受け、事務に従事する。

(施設の利用及び許可)

第4条 学習研修室、特別展示室及び図書室(以下「学習室等」という。)は、郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用することができる。

2 学習室等を利用することができる者は、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体とする。

3 学習室等(図書室を除く。)を利用しようとする者は、飯能市郷土館施設利用許可申請書(様式第1号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

4 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館施設利用許可書(様式第2号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは条件を付けることができる。

(郷土館資料の利用及び許可)

第5条 郷土館の資料(以下「資料」という。)は、学術上の研究のため、利用することができる。

2 資料を利用しようとする者は、飯能市郷土館資料利用許可申請書(様式第3号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

3 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館資料利用許可書(様式第4号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは、条件を付けることができる。

(施設、資料利用許可の取消し等)

第6条 館長は、施設及び資料の利用を許可した者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、

利用の条件を変更し、又は利用の許可を取り消すことができる。

(1) 利用許可の申請に偽りがあったとき。

(2) 条例又はこの規則に違反したとき。

(資料の寄贈及び寄託)

第7条 館長は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

2 資料を寄贈しようとする者は、飯能市郷土館資料寄贈申請書(様式第5号)を、資料を寄託しようとする者は、飯能市郷土館資料寄託申請書(様式第6号)を館長に提出するものとする。

3 館長は、資料を寄贈した者に対して飯能市郷土館資料受領書(様式第7号)を、資料を寄託した者に対して飯能市郷土館資料受託書(様式第8号)を交付するものとする。

4 寄託を受けた資料は、郷土館所蔵の資料と同様の取り扱いをするものとする。ただし、当該資料の館外貸出しについては、寄託者の承認を得なければならない。

5 館長は、不可抗力による寄託資料の損害に対して、その責めを負わないものとする。

(委任)

第8条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則(平成4年教委規則第7号)

この規則は、平成5年1月1日から施行する。

附 則(平成10年教委規則第6号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年教委規則第5号)

この規則は、平成13年5月1日から施行する。

附 則(平成15年教委規則第9号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年教委規則第20号)

この規則は、平成18年1月1日から施行する。

様式第1・3・5・6号(次頁)、様式第2・4・7・8号(省略)

様式第1号 (第4条関係)

担 当 館 長

飯能市郷土館施設利用許可申請書

飯能市郷土館長 殿 平成 年 月 日

団体名 _____

住所 _____

申請者 氏名 _____

電話番号 () _____

下記のとおり施設を利用したいので申請します。

利用責任者	住所		
	氏名	電話番号	() _____
利用目的			
利用日時	平成 年		
	月 日 時 分 ~ 月 日 時 分		
利用施設	<input type="checkbox"/> 学習研修室	男 人 女 人 計 人	
	<input type="checkbox"/> 特別展示室	展示品 () 点	
利用備品	<input type="checkbox"/> スライド映写機	<input type="checkbox"/> ビデオ機器	<input type="checkbox"/> 展示パネル
	<input type="checkbox"/> 展示ケース	<input type="checkbox"/> 展示台	<input type="checkbox"/> その他 () _____
その他特記事項			

※ □内は、該当するところに✓印をつけてください。

様式第1号 施設利用許可申請書

様式第5号 (第7条関係)

担 当 館 長

飯能市郷土館資料寄贈申請書

第 号

平成 年 月 日

(あて先) 飯能市郷土館長

住所 _____

申請者 氏名 _____

電話番号 () _____

下記のとおり資料を寄贈したいので申請します。

記

資 料 名	数 量	備 考

様式第5号 資料寄贈申請書

様式第3号 (第5条関係)

担 当 館 長

飯能市郷土館資料利用許可申請書

(あて先) 飯能市郷土館長 年 月 日

団体名 _____

住所 _____

申請者 氏名 _____

電話番号 () _____

下記のとおり郷土館資料を利用したいので申請します。

利用目的			
利用期間	年 月 日 から	年 月 日まで	
利用場所	館内・館外 () _____		
利用方法			
利用資料	分類番号	資 料 名	数 量 備 考
輸送方法	館外利用のみ () _____		
利用責任者			
特記事項			

返却日 受 取 者

様式第3号 資料利用許可申請書

様式第6号 (第7条関係)

担 当 館 長

飯能市郷土館資料寄託申請書

第 号

年 月 日

(あて先) 飯能市郷土館長

住所 _____

申請者 氏名 _____

電話番号 () _____

次のとおり資料を寄託したいので申請します。

記

寄託期間	年 月 日から 年 月 日まで		
寄託資料	資 料 名	数 量	備 考

様式第6号 資料寄託申請書

職 員

平成29年度

教育長	今井 直己	非常勤(自然調査)	本橋 綾香
生涯学習スポーツ部長	益子 恵子	非常勤(資料整理・展示準備ほか)	
館 長(学芸員)	尾崎 泰弘		石田 朋子
主 査(学芸員)	村上 達哉		入子美佐子
主 査(学芸員)	引間 隆文		加藤 緑
主 事(学芸員)	宮島(金澤)花陽乃	派 遣(施設管理)	野口 修

● 市民学芸員(敬称略)

池田勝造	石原紀子	石森実三	板津沙耶香	伊藤孝文	伊藤美津江	宇津木繁生
大野さく子	大野正一	久津輪社	木暮 進	小林豊子	子安修二	子安裕子
坂本利二	佐々木初江	篠宮敏次	嶋崎季子	嶋田恭子	清水芙美子	杉山玉子
関根秀俊	遠山光保	冨澤武男	永田幸雄	仲舘祐子	中藤栄寿	中野和子
中山 功	双木幸三	西久保治子	根立範子	長谷川志保子	馬場朱美	原田恵子
福嶋信子	別府 愛	松田早苗	村岡裕子	柳戸淳吉	山川貞治	山岸忠義
山崎和永	山田栄子	和島和恵	渡邊栄子	渡邊雅子	(以上47名)	

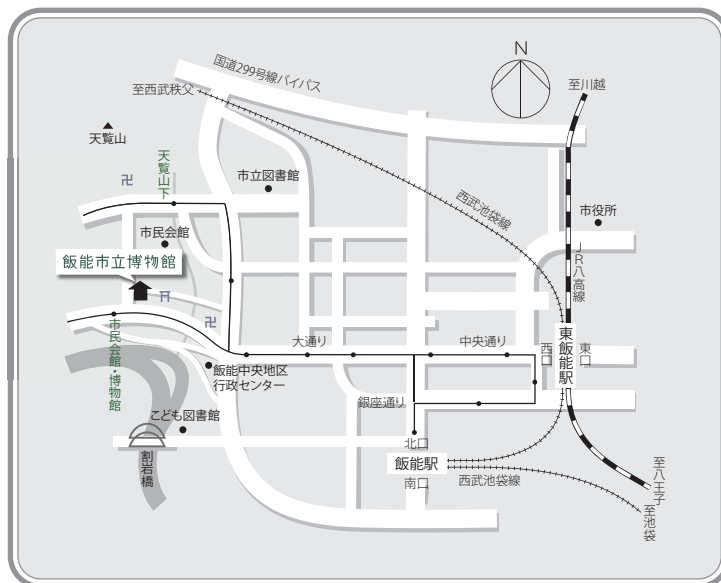


利用案内

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：月曜日、祝日の翌日（ただしこの日が休日の場合は開館）
年末年始（12月28日～1月4日）
- 入館料：無料

交通案内

- 最寄インター：圏央道狭山日高ICより約20分
- 最寄駅：飯能駅北口より徒歩約15分または東飯能駅西口より徒歩約20分
飯能駅北口または東飯能駅西口より国際興業バス名栗方面「市民会館・博物館」バス停下車徒歩3分、または西武飯能日高行「天覧山下」バス停徒歩5分



飯能市郷土館館報 郷土館のプロフィール 第15号

平成31年3月29日発行

発行 飯能市立博物館
〒357-0063 埼玉県飯能市大字飯能258-1
TEL (042) 972-1414 FAX (042) 972-1431
E-mail: museum@city.hanno.lg.jp
http://www.city.hanno.lg.jp/hall/museum.html

制作 (有)クレバラー・デザインスタジオ
〒357-0044 埼玉県飯能市川寺106-4
TEL (042) 974-5260

〈印刷の仕様〉

- | | | |
|---|---------|---|
| 1 | 版 型 | A 4 版 |
| 2 | 紙 質 | (表紙) マットコート紙 菊判111kg
(本文) クリームキンマリ菊判62.5kg |
| 3 | 印刷方法 | オフセット印刷 1色刷り (本文) 76ページ |
| 4 | 印刷内容 | モノクロ写真 94枚 |
| 5 | スクリーン線数 | 175線 |
| 6 | 製 本 | 無線綴じ |



埼玉県飯能市大字飯能 258-1
TEL (042) 972-1414 FAX (042) 972-1431